

# 三里塚 動労千葉



労農連帯  
は不滅

●12・10動労千葉支援三里塚  
連帯国民大集会全報告

羽仁五郎

戸村一作

北原鉦治

浅田光輝

# 日本労働運動の最前線

◎まえがきにかえて

浅田光輝 (動労ジェット闘争支援共闘会議世話人)

国鉄動力車労働組合は、過日の中央委員会において、成田空港に反対するジェット燃料貨車輸送阻止のたたかいを現地最前線になう千葉地方本部の指導者・活動家を査問に附するという決定を強行した。理由とするところは、ひとえに、ジェット闘争に組織をあげて取組む現地千葉の労働者が、たかう三里塚農民と緊密に連帯しているということにある。労働運動として、こんな恥ずべくおろかしい方針が、いったいどこにあるだろうか。

日本の労働運動はいま、危機的状況のひろがりを持続のなかで、あきらかに重大な転機に直面している。そのことに深く関心をもつ私たち数人は、動労中央の今回の方針を黙視しえず、連名で、ジェット闘争貫徹を堅持する千葉地本労働者支持の集りを全国によびかけた。短時日の準備期間であったにもかかわらず、一月一日に開かれたこの集りは、広い日比谷公会堂が立錐の余地もないほどに埋め尽された感動的な大集会となりました。ここに集まった各界の人びとが、延々五時間にわたって訴えたことばの一つ一つを、日本の労働運動の前途に関心をもつ人びとのすべてにあらためて聞いてもらいたいと思う。

一九七八年一二月

## I たゆみなき労農連帯のために

### 経過報告と連帯のあいさつ

北原敏治 浅田光輝 戸村一作 永井 満 渡辺喜美江 鷲田正平 粟井太郎 平安常次 平良良昭 馬場英治

北小路 敏

各界からのあいさつ

17

丸山照雄 羽仁五郎 花柳幻舟 針生一郎 小西武夫 菅原克己 中山重夫 ヨシダヨシエ 小川むつ 葉山岳

夫 古波津英興 新里金福 徳永五郎 川田泰代 柘植秀臣 石田郁夫 山口恵美子 佐藤弘毅 長島光三郎

国枝夏夫 弥永健一 小西のぶ子 小西 誠 小田原紀夫 長谷川英憲 加瀬包男 井之川 巨

三里塚反対同盟と支援労組

34

石橋政次 石井 武 内田寛一 熱田 一 長谷川たけ 小川 源 寺内金一 全金本山製作所支部 三菱重工

長崎造船労組 千葉県山武地区労 出版労働者連帯会議 仙台中電年休裁判原告団 全通労働者共闘会議 千葉

県青年共闘会議 三里塚闘争に連帯する会・東京神奈川連絡会議 千葉県労働者会議 闘う国鉄労働者

## II 三里塚 動労千葉は未来を照らす

メッセージ

49

武谷三男 色川大吉 国分一太郎 木下半治 山口武秀 土方 鉄 村田 拓 野田真吉 野添憲治 黒田喜夫

生越 忠 宮川寅雄 西 順蔵 長須祥行 砂田 弘 中村敦夫 なかざわしんきち 谷川茂二 石田有全 遠

藤 誠 市村玖一 北川省一 坂田静子 岩淵 浩 山崎 謙 大日向 勇 伊藤成彦 池田博俊 柳田邦夫

斎藤黒巨 平良 修 佐々木悟史 陶山義雄 佐藤哲男 朝日奈尚行 阿部宗悦 関沢 紀 前田俊彦 桑原重

夫 田坂暁人 春本幸子 佐藤光政 横井安友 井上千恵子 原 伊市 寺沢迪雄 東大演習林職組

## III 革マルを一掃して動労千葉を守る

資料

63

動労全組合員の皆さんへ——私の真意・戸村一作／労農連帯の推進がなげえ統制処分の対象になるのか・動労千葉地本闘争委／階級的組合民主主義と戦闘的団結の強化に向けて奮闘しよう『速報動力車千葉』／千葉地本執行部の組織指導に関する運動路線とその抜本的解決にむけて・動労一〇一回定期中央委／挑発者「戸村」との「連帯」を拒否せよ・『解放』号外

# 日本労働運動の最前線

◎まえがきにかえて

浅田光輝 (労働ジェット闘争支援共闘会議世話人)

国鉄動力車労働組合は、過日の中央委員会において、成田空港に反対するジェット燃料貨車輸送阻止のたたかいを現地最前線になり千葉地方本部の指導者・活動家を査問に附するという決定を強行した。理由とするところは、ひとえに、ジェット闘争に組織をあげて取組む現地千葉の労働者が、たかう三里塚農民と緊密に連帯しているということにある。労働運動として、こんな恥ずべくおろかしい方針が、いったいどこにあるだろうか。

日本の労働運動はいま、危機的状況のひろがりを持続のなかで、あきらかに重大な転機に直面している。そのことに深く関心をもつ私たち数人は、労働中央の今回の方針を黙視しえず、連名で、ジェット闘争貫徹を堅持する千葉地本労働者支持の集りを全国によびかけた。短時日の準備期間であったにもかかわらず、一月一〇日に開かれたこの集りは、広い日比谷公会堂が立錐の余地もないほどに埋め尽された感動的な大集会となりました。ここに集まった各界の人びとが、延々五時間にわたって訴えたことばの一つ一つを、日本の労働運動の前途に関心をもつ人びとのすべてにあらためて聞いてもらいたいと思う。

一九七八年一二月

## I たゆみなき労農連帯のために

### 経過報告と連帯のあいさつ

北原敏治 浅田光輝 戸村一作 永井 満 渡辺喜美江 鷲田正平 栗井太郎 平安常次 平良良昭 馬場英治

北小路 敏

各界からのあいさつ

17

丸山照雄 羽仁五郎 花柳幻舟 針生一郎 小西武夫 菅原克己 中山重夫 ヨシダヨシエ 小川むつ 葉山岳

夫 古波津英興 新里金福 徳永五郎 川田泰代 柘植秀臣 石田郁夫 山口恵美子 佐藤弘毅 長島光三郎

国枝夏夫 弥永健一 小西のぶ子 小西 誠 小田原紀夫 長谷川英憲 加瀬包男 井之川 巨

三里塚反対同盟と支援労組

34

石橋政次 石井 武 内田寛一 熱田 一 長谷川たけ 小川 源 寺内金一 全金本山製作所支部 三菱重工

長崎造船労組 千葉県山武地区労 出版労働者連帯会議 仙台中電年休裁判原告団 全通労働者共闘会議 千葉

県青年共闘会議 三里塚闘争に連帯する会・東京神奈川連絡会議 千葉県労働者会議 闘う国鉄労働者

## II 三里塚 労働千葉は未来を照らす

メッセージ

49

武谷三男 色川大吉 国分一太郎 木下半治 山口武秀 土方 鉄 村田 拓 野田真吉 野添憲治 黒田喜夫

生越 忠 宮川寅雄 西 順蔵 長須祥行 砂田 弘 中村敦夫 なかざわしんきち 谷川茂二 石田宥全 遠

藤 誠 市村玖一 北川省一 坂田静子 岩淵 浩 山崎 謙 大日向 勇 伊藤成彦 池田博俊 柳田邦夫

斎藤黒巨 平良 修 佐々木悟史 陶山義雄 佐藤哲男 朝日奈尚行 阿部宗悦 関沢 紀 前田俊彦 桑原重

夫 田坂暁人 春本幸子 佐藤光政 横井安友 井上千恵子 原 伊市 寺沢迪雄 東大演習林職組

## III 革マルを一掃して労働千葉を守る

資料

63

労働全組合員の皆さんへ——私の真意・戸村一作／労農連帯の推進がなによえ統制処分の対象になるのか・労働千葉地本闘争委／階級的組合民主主義と戦闘的団結の強化に向けて奮闘しよう『速報動力車千葉』／千葉地本執行部の組織指導に関する運動路線とその抜本的解決にむけて・労働一〇一回定期中央委／挑発者Ⅱ戸村との「連帯」を拒否せよ・『解放』号外

# 動労千葉への組織破壊許さず労農連帯うち固めよう

◎刊行にさいして

十二・一〇動労千葉支援・三里塚連帯国民大集会は、羽仁五郎、浅田光輝、戸村一作、北原鉦治の四氏によびかけのもと、東京・日比谷公会堂に全国百四十六団体、五千六百名を結集し、三里塚と動労千葉の不滅の労農連帯の旗のもと、動労千葉への理不尽な組織破壊攻撃への怒りの場となり、この闘いが、日本階級闘争を揺るがす根底的な闘いであるという確信もあらたに全人民的な歴史的決起を勝ち取りました。

動労千葉にたいする組織破壊攻撃を許さず、三里塚と動労千葉の不滅の労農連帯を守りぬき、強め、拡げんとするこのたたかいは、八〇年決戦と八〇年代をとおした歴史的激動の決戦にむかって、日本階級闘争の構図を根底的に変革する決定的ともいえる結節環をなすたたかいであります。であるがゆえにわれわれは、動労内革マル松崎一派の理不尽な組織破壊攻撃とのたたかいが、たとえどのようにに血みどろ汗みどろの激突になろうとも、勝利を必ずや力にかけてももぎりとする決意をあらたにするものであります。

こんにち、十二・一〇集会のすさまじい大成功に動転した革マル松崎一派は、処分の決定権ももたない全国青年部長会議なるもので、組合規約もふみにじって千葉地青三役の「執行権停止」を「決定」したりして、彼らがいかにあせり、いらだち、うろたえているかを、その悪質な意図のうちにあらわにしております。彼らはその不正義性ゆえに、この攻撃に自信をもっておらず、勝利の展望をもっておりません。だが、であるがゆえに彼らがいまや、力にまかせ、暴力にまかせてなにがなんでも動労千葉を破壊せんとする攻撃を強めていることを正しく見ぬき、われわれは十二・一〇集会の成功を基礎に、動労千葉千四百の団結をさらに強固に勝ち取り、それと連帯してたたかう全国の労働者、農漁民、住民団体、学生、知識人の動労千葉支援の陣型を強めなければなりません。

この攻撃が、動労千葉の戦闘性、階級性にたいしてかけられてきたものであり、それを許すならば、動労千葉に結集する労働者が営々として勝ち取ってきた労働条件を破壊し、労働者の権利を奪いとるものである以上、われわれは、座して死を待つよりも、闘って闘いぬいてわが戦闘性、階級性をまもりぬき、日本労働運動の戦闘的伝統を断固として継承し発展させる道を選ぶものであります。十二・一〇集会で階級の敵として断罪された革マル松崎一派こそは、七五年のスト権奪還ストの偉大なたかまりの中で、当時の国労書記長富塚らと当局とのボス交、スト破りに熱中した当の本人ではないか。七六年首都圏貨物合理化の主軸たる武蔵野線開設に際して「貨物削減は合理化ではない」「海運やトラックとの市場争いの敗北が貨物削減の原因だ」「ストをやれば市場争いに敗ける」「どんな合理化にも反対だ」というのは極左だ」として当局の合理化案に屈服し、ついに七八年の大会で「貨物輸送安定宣言」を決議し、労働者の即自的な利害・要求をみたくすことすら放棄し、危機に立つ日帝・当局の救済者に動労を変質させようとしている張本人ではないか。であるがゆえに、七七年第九六中委で決定した三里塚と連帯したジェット燃料貨車輸送阻止闘争を、動労千葉が強力順法闘争として決起し、十二月から二月へと英雄的にたたかひぬくに及んで、「闘いの終止符をうつ」ことを策動し、「七〇年ですら二時間ストをやったにすぎない、それが幕張工事阻止で二時間、三・一備蓄輸送阻止で十二時間ストなどやりすぎだ」などと、当局と一体となって動労千葉の戦闘性を抑えこもうとしたのです。われわれは、三里塚闘争に連帯し、九・一七三里塚集会に参加したという理由をもって、すなわち、動労千葉が戦闘的労働運動の先頭に立っているがゆえをもって、組合を破壊し、労働者の団結を破壊するようなこの反労働者の・反階級的攻撃をこっぴどみに粉砕し、動労内革マル松崎一派をこそ、動労から追放するであります。

さらに、この攻撃は、日帝・公団による三里塚空港の二期工事着工という攻撃と一体化してかけられた攻撃であり、当局・公団の三里塚闘争破壊攻撃と結合して、「三里塚闘争は権力の演出だ」「戸村・北原ら同盟幹部は権力のスパイだ」という日共以上のデマゴギー政治で「三里塚闘争と一線を画する」なる決定を行い、労農連帯を内側から破壊せんとするものであります。である以上、日帝国家権力との非妥協的な血みどろの永続的たたかひの中で勝ちとられてきた真に戦闘的なこの労農連帯を断固としてまもり、日本階級闘争のなかに武装せる労農連帯を本格的に構築せんがために全力あげて

たたかいぬくものであります。

動労千葉を防衛し、ジェット燃料輸送阻止闘争の革命的永続的發展をかちとり、労農連帯の絆を強めることは、闘う人民の共闘の砦、農民運動・全国住民運動の総本山である三里塚闘争を圧殺せんとする日帝国家権力への大打撃となり、三里塚闘争の永続的發展、空港実力廃港の偉大な展望をきりひらくものとなりましょう。

そしてさらに、経済危機が深まり、合理化攻撃が激化し、賃下げ、首切りがふきあれる八〇年代にむかってプロレタリアートの戦闘的・革命的エネルギーが爆発的に充てんされるなかで、動労千葉の組織とたたかいが防衛しぬかれることの意義は、はかり知れないといわなければなりません。きたるべき階級的激動にさいして、闘いの爆発を社共的に収れんせしむるか、それとも、既存の組合運動、民同的労働運動の枠を大きくとりはらった、生き生きとした革命的な労働者のたたかいが發展せしめられるかをかけたたたかいなのです。

危機に立つ帝国主義の兇暴性、非人間性との血みどろの格闘、激動と内戦、血と硝煙の時代の到来はいまや確実であり、かかる時代の到来を前にして、帝国主義の死活をかけた恫喝に屈し、たたかいの矛をおさめ、奴隷と化し、帝国主義の尖兵と化すのか、それとも正義を正義としてかかげ、階級性をあくまでも堅持し、たたかうことの中に活路を見出すのが鋭く問われております。七八年元旦を揺るがした全通労働者の反マル生闘争の爆発こそは、既成の労働運動の指導部が戦闘性を喪失し、右翼化し、腐敗しきっているにもかかわらず、労働者階級の戦闘性はいまだつみとられていないばかりか、ますますたかまりを見せていることを示しております。動労千葉のたたかいと、それを破壊せんとする革マル松崎一派の反階級的な卑劣な組織破壊攻撃との鋭い対決のなかに、こんにちのこの未来を決する分岐点が表示されているのです。

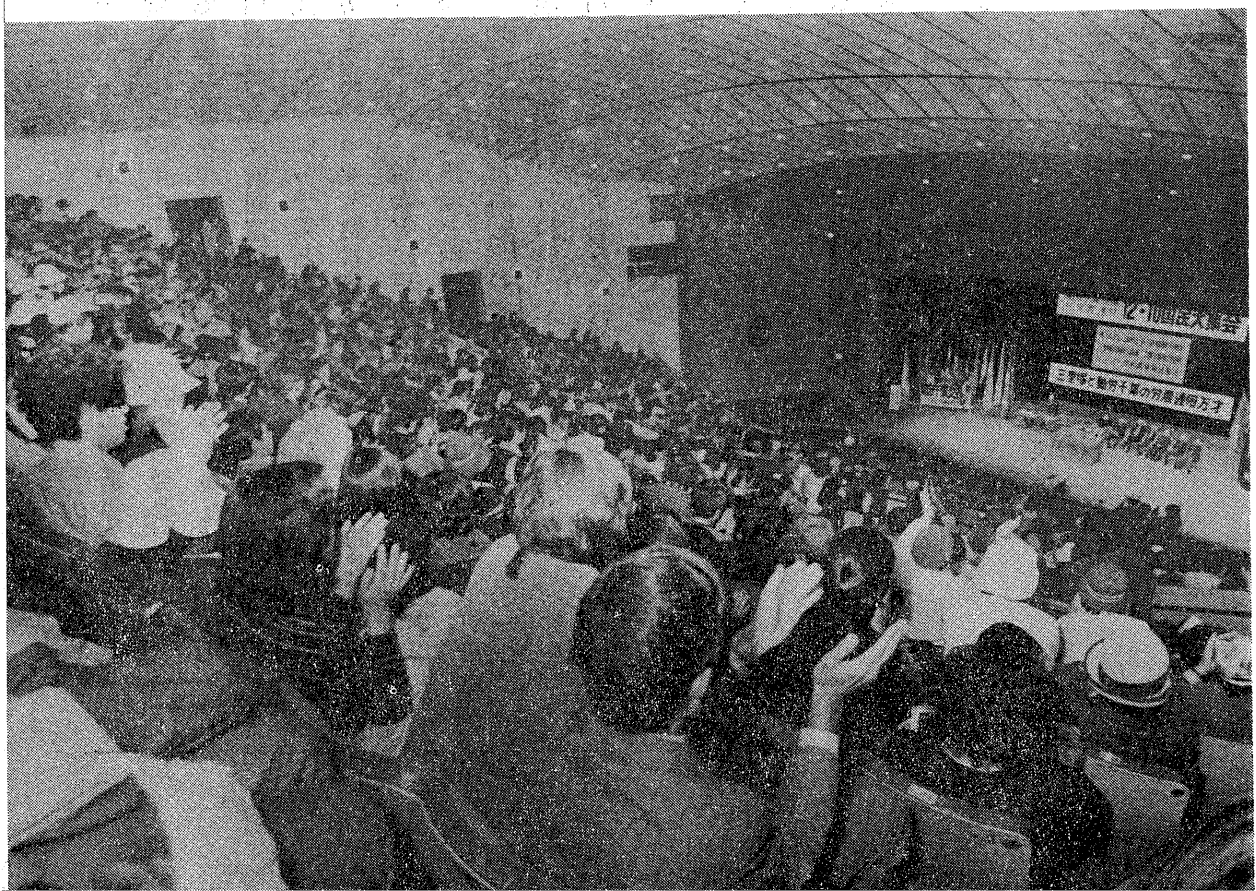
十二・一〇集会を成功裡にかちとつたわれわれは、この怒りと決意、弾劾と連帯を数十倍・数百倍にして、階級的正義を力で守りとおすためにいまこそ決起しなければなりません。革マル松崎一派を粉碎・追放して、荒々しい労働者のたたかいの夜明けを激戦激闘の中につくりあげ、日本農民の最先頭で闘う三里塚芝山農民と戦闘的労働者の固い連帯をかちとるために決起しようではありませんか。

動労千葉支援・三里塚連帯国民大会  
会（78年12月10日比谷公会堂）

# I ゆるぎない

## 労農連帯のために

12.10集会全発言



十二月十日羽仁五郎、戸村一作、北原鉞治、浅田光輝の四氏によびかけによる「十二・一〇動労千葉支援・三里塚連帯国民大集会」は、東京・日比谷公会堂に全国百四十六団体、五千六百名の労農学、知識人を集めて歴史的大成功をおさめた。開場前から参加者が続々つめかけ長蛇の列をつくった。そのなかを、ひととき高い拍手に迎えられて、三里塚芝山連合空港反対同盟が入場する。大型バス三台、二百余名という大結集は空港粉砕・二期工事実力阻止、そして動労千葉との労農連帯にかけた燃えあがる決意の表われだ。また、ロビーに展示された動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争の歴史的な写真、動労千葉を支援する各界の人びとからの檄文、メッセージ、詩などに黒山の人が集まった。「革マルの動労千葉への統制処分を許すな」を怒りの合言葉に、三里塚と動労千葉の不滅の労農連帯の旗のもとに結集した労組、農漁民、住民団体、学生、知識人のすばらしい熱気のうちに集会は各界五十五氏の発言をうけ、堂々五時間の壮大な成功を実現した。統制処分粉砕、革マル松崎一派追放へ、日本革命と日本労働運動の未来をかけた歴史的決戦の火ぶたはきっておとされた。

集会は三里塚反対同盟の北原鉞治事務局長と日蓮宗僧侶の丸山照雄氏が司会に立ち開始された。集會第一部は主催者から浅田光輝氏の経過報告が行なわれ、関西のたかう住民団体を代表して淡路の永井満氏、東灘の山本善偉氏、さらに日本原農民を代表して鷲田正平、粟井太郎の両氏、北富士の渡辺喜美恵さん、沖縄より反戦地主の平安常次氏（メッセージ代読・反戦地主会の知花盛安氏）、金武湾を守る会の平良良昭氏、北海道から長沼ミサイル基地設置反対同盟元委員長の馬場英治氏が熱烈に訴えを発し、つづいて北小路敏氏が三里塚と動労千葉に対する革マルの攻撃を粉砕し、必ず勝利する革共同の決意を表明した。

万雷の拍手のなか、主催者を代表し戸村一作氏が登壇し、「革マルは反革命であり、その没落は不可避免である」と自信にみちて訴え集會第一部を終了した。（以上、本誌第一部、「経過報告と連帯のあいさつ」に掲載）

経過報告と連帯のあいさつ

## 動労千葉の闘いの正義性

◎司会のあいさつ

本日の「動労千葉支援・三里塚連帯国民大集会」を、ただいまから開催いたします。

本日の集會に集まられた全国からの参加団体は、一四六団体となっております。この日比谷公会堂が狭すぎてロビーにもあふれでるといふこの盛況は、千葉動労の闘いのすばらしい正義性を認識して、これほど多くの方がたが結集されたのだということ、まず冒頭にご報告しておきたいと思ひます。



北原 鉞治

（三里塚芝山連合空港反対同盟事務局長）

動労千葉千四百の闘いを、決して孤立させることなく、三里塚空港廃港に向けて、共に闘いぬいていきたいと思ひしております。

まず第一に、全国各地、各界各層から本集會に参加された多数の方がた、全ての皆さんの発言をいただきたいと思ひしておりますけれども、時間の関係上、司會の方で時間についてはご協力をお願いすることになります。本集會の成功を期して、とくにこの点のご協力

## ナチス的統制を許さぬ三里塚ジェット闘争の決意

◎経過報告にかえて

十一月十五日から十七日までの三日間、東京三田の全専売会館で動労第一〇一回定期中央委員会が開かれました。

そして、ここでは驚くべきことに、ジェット燃料貨車輸送阻止闘争の最前線に立つ千葉地本の委員長、副委員長、書記長の三役、さらに青年部三役に対して統制処分のための査問委員会の設置が決定されました。

この中央委員会の会場には、千葉地本の労働者百八十人がつめかけ、三里塚からも戸村委員長、北原事務局長、石井武実行役員、熱田行動隊副隊長、婦人行動



浅田 光輝

（動労ジェット闘争支援共闘会議世話人）

隊の郡司とめさん、柳川初枝さん等三十名が大挙かけつけ、二日間にわたって動労中央に対して激しい抗議をくり返しました。通りかかったサラリーマンも労働者も学生も、動労千葉の組合員と三里塚反対同盟の農民を人垣で包み、声援を送りともに統制処分の策動に抗議を行なってくれたのです。

この第一〇一回中央委員会の、驚くべき、奇怪きわるる決定には、いま私たちのジェット闘争支援共闘会議に、全国から続々と怒りの抗議と、熱烈な連帯と激励が寄せられております。

しかしそれにしても、戦闘的労働組合を自負するはずの動労が、どうしてこんな常軌を逸した、墮落した方向を進む結果になったのか。ここに至る経過について、私から報告させていただきます。今年七月に岡山県津山市で開かれた、第三十四回動労全国大会は、三里塚闘争を極左暴力集団の運動、権力の政治的謀略であると規定し、「今後反対同盟と一線を画する」という運動方針を決定しました。この運動方針ではさらに、戸村委員長の権力に対する烈々たる実力行動の決意を、極左と罵倒しております。

しかも、年度内開港を挫折させた。三・二六管制塔占拠のあの英雄的行動を、権力の政治謀略にあやつられた過激派の行動として非難しております。

むろん、こんな方針が、満場一致でなんなりと通るはずがありません。大会ではジェット燃料貨車輸送阻止闘争を組織の総力をあげ、闘う千葉地本を先頭として、全国的多数の代議員の激しい反対がありました。しかしこれらの人々に対して、動労中央の内部に巣くう一部の反動分子が、あらかじめ警備員と称する集団を会場内に配置して、会場内外で公然たる恫喝を行い、さらにテロを行っております。

私は、これは、ナチスの親衛隊と同じであると思えます。このような親衛隊・暴力団が会場を支配して、良心ある人々の発言を封じたということです。そのなかで千葉地本は、動労内の良心ある人々の中心となつて、自ら信ずる正義を勇敢に主張しました。そして果敢に闘いました。

その結果、千葉代議員及び傍聴者に集団的なテロが襲いかかり、多数の重症傷者を出したのであります。かかる暴力が支配する大会の決定を、果して正式の決定として認めることができるか。断じて否であります。この大会は無効である。私どもは、外からそのように判断致します。

千葉地本千四百の労働者は、八月二十八日から三十日、勝浦市で開いた第三十一回定期地本大会においてあらためて三里塚空港に反対するジェット燃料輸送阻止闘争への一致団結したと組みを確認しています。そして九月十七日の反対同盟主催による三里塚現地集會には、大挙して千葉地本の労働者が参加しました。

冒頭に申しました今回の動労中央による千葉地本に対する査問設置の決定は、千葉地本が、反対同盟と一線を画するという大会決定に反したということ、そして九月十七日集會に参加したということとを理由として

おります。

労働運動として、なんと恥ずべき極みではないか。私どもはいうべき言葉がありません。国鉄動力車労働組合は、一九七六年の十二月十七日第九十四回定期中央委員会において、三里塚空港開港策動粉砕・ジェット燃料貨車輸送阻止を決議しております。これは、ちょうど、二年前のことです。そしてその基本方針にたつて、昨年十二月三日から五日の強力減産闘争に始まる百日間闘争が、千葉地本によって果敢にたたかわれました。これは歴史に残る大闘争であると思えます。そのさ中に、千葉地本は支援の労働者市民を招いて、新年の団結旗開きを行いました。この集會に本部から出席した動労中央の林大鳳委員長は、「空港反対同盟と支援共闘会議の皆さんに感謝する。しっかりと手を携えてたたかきましょう」と挨拶しました。

それにもかかわらず動労本部青年部はその公けの機関紙に、千葉が苦闘しているまさにジェット闘争そのものに對する攻撃の論説を掲げつつけておりました。百日間闘争のさ中に、千葉がやれると思うなら勝手にやるがいい」という論説を、青年部の公式の機関紙に掲載するという始末です。まったく驚くべき論説をいっているんです。このような本部青年部を、動労はいったい運動方針違反として、中央が査問にかけたことがあるか。かけていない。これは明らかに動労の運動方針に對して、動労本部青年部が誹謗しているということです。そして動労全体で決定した方針にもとづいて闘っている千葉地本を誹謗しているということです。

しかもさらに動労中央は、千葉が苦闘するジェット燃料貨車輸送阻止の百日間闘争のあいだ、支援らしい支援はなにひとつとしてやっておりません。それどころか中執は、水本問題などという、革マルという醜悪・卑劣な宗派のみが騒ぎたてているキャンペーンに、労働組合として全国でただ一つ、組織をあら

げてこれに参加するという方針を、全国の組合員にはかることもしないで、独断で決定しております。千葉の百日間闘争のさ中に、東京をはじめ全国諸々方々で革マルが水本集會を開いておりますが、動労は組織動員をもってこれに参加しております。動労の組織動員によって革マルが水本集會を成り立たせた、そういうものだと思います。水本問題は今はしぼんでしまいましたが当然のことです。革マルがどう捏造しようど水死体水本という事実は事実です。動労ともあるうものが、中執に巣くう一部の反動分子に引きまわされて、とんだ憂き目にあつたということです。

この水本問題に對する組織動員に、千葉地本は終始反対しつづけてきました。これは労働者として当然であります。しかしそのことが、動労内反動分子の千葉地本攻撃の焦点となつていっている。こういうおかしなことが、ここに現にある。労働運動の論理としてはまるですか

第三十四回全国大会の運動方針、その暴力的強行採決には、千葉地本を先頭に、全国各地本から中央本部に抗議の申し入れが相ついであります。

今回の千葉地本役員に對する査問の決定についても必ずや動労全国五万の労働者は、ひと握りのフランスト的反動分子を除いて、闘う動労千葉に對する支援の声を高めていくことでしよう。そのことを私は期待し必ずそうなることを確信します。そうでなければ、戦闘的労働運動としての動労の敗北です。

査問委員会設置に反対して、中央委員会へ抗議に赴いた反対同盟農民に對して、動労中央内反動分子の親衛隊は「どん百姓」と悪罵を浴びせました。「権力の手先」と反対同盟農民をのしりました。「うじ虫」という言葉もわめきちらしました。なんとということでしょう。これらの言葉は、全て革マルというファナティックな宗派の使い古した、手垢に汚れた常用語で

あります。してみれば、これらの薄汚い親衛隊は、革マルそのものではないのか。

この中央委員会の会場で、彼らに初めて接した反対

## 正義の剣もて 革マルを撃つ



戸村 一作  
(三里塚芝山連合空港反対同盟委員長)

どうも皆さん、きょうは苦勞さまでです。革マルは悪いですよ。悪いというよりも反革命ということについては、誰もが知っているでしょう。

しかし革マルは没落し、凋落の一途をたどっていることは確かですから、もう一歩やればガラガラといつてしまふ。だから彼らは、「三里塚闘争に一線を画す」ということをいい出した。この間も専売會館にいったとき、「新左翼と手を切るならわれわれも応援にいく」という下劣なことをいっている。しかも新翼左とは何なのかといつたら返答できない。だからもう少ししゃべっていけば消滅してしまふということとは明らかだ。

さて今日の十日の二時に、イランにおいて何がおきているか。この百万人のイスラム教シーア派と、それから野党第一党といわれる国民戦線が合流して、アヤトラ・タラカニ私邸の前に集まって、それからあのパレード国王記念會館前で大合流する百万人大デモンストレーションがあることを皆さん知っているでしょう。これはやはりイラン王制の打倒ということですから、それはやりではない。十一月の、いわゆるアジュラ・モハメッドが殺されたという、それに対する大いなる怒りというものが、ほとぼりしている。本多書記長が殺された。それに対する百万人の大合流、デモンスト

同盟婦人行動隊、柳川のおっかさんは、「おつたまげた」「これが日本の労働者か」といっております。「これが本場に人間の部類か」ともいっております。「おっかさん、やらないでください。右手に正義の剣、左手に正義のコランをもつて、そのような戦闘意欲というものが、私は大好きなんです。それがもしなかったら、革マルだって倒れはしない。三里塚だって勝てはしない。だから、シーア派の最高指揮官はいま、イランからフランスに亡命しているんですよ。アヤトラ・ホメイニは何といつたか。もしわれわれ百万人のデモに軍が介入したならば、いわゆる「石油基地を爆破せよ」といっているんだ。私はこれが好きなんですよ。私が、アヤトラ・ホメイニよりも先に「爆破せよ」といったら革マルが驚いてしまった。そして、そんな爆破などという奴には、われわれは賛同できない。そういうことがあの津山大会でもって、非常に話題になった。これは実におかしな、珍妙な奴らだね。

いま邦人が三分の一引き揚げて、日航が救援に飛びたっているんですよ。それからサウジアラビアに、海を越えて貨物船でもって逃亡しなくてはならない。あの三井物産が三億三千万の膨大な投資をして、あそこに石油コンビナートをつくった。革命がおきて、もしそれがわれわれの手に奪還できたらどうなる。三井は

れらが本場に三里塚闘争に勝つて、あいつらを退治しなければならぬ」と感じた。柳川のおっかさんの美感をこめた決意が私たちの決意でもあります。

即倒産だ。

私はマルクス・レーニズムの下に彼らがイラン革命をやめるかどうかは知らない。しかし私は日本でも一度そういう闘いを彼らと呼応してやってみたい。石油基地爆破とはそういう意味で使ったのだ。これに驚いたら、革命も三里塚闘争も、革マル打倒もありはしないよ。私はそう思う。

そういう意味におきまして、成田空港というものは、騒音をまきちらしている。コンドームをどこに売って、売春を目的に東南アジアに行つたりしている。そういうものが飛行機に乗っていくんですよ。先日、二億三千万のヘロインの密輸が、計十七件も発見された。そんな空港をぶつたばさなないでどうするのだ。皆さん、よろしく願います。

# 三里塚 動労千葉への 住民運動の熱いまなざし



永井 満  
(淡路国際空港淡路町反対期成同盟代表)

初めに、ここに共に登壇いたしました、同じく関西の地で闘っております神戸の山本さんをご紹介したいと思います。

本日のこの集いに結集されました皆さまに、関西新空港に反対する住民団体を代表し、全関西実行委員会を代表いたしまして挨拶を申し上げます。

いまでもなく三里塚の闘いこそ、われわれ住民闘争のみならず、あらゆる人民の闘いの共同の砦であるということであります。そして過去十三年間にわたって反対同盟の方がたが、国家権力のあらゆる暴虐に抗して断固として闘いぬかれたその姿は、尊くもあり、また本当に私たちに限りない勇気を与えてくれるものでございます。私たち全国の住民闘争もこの三里塚闘争に連帯し、共に闘うなかで勝利をかちとってきてい

るわけでございます。

そしてまた動労千葉の方がたが、当初からこの闘争に連帯し、とくに昨年来、ジェット闘争をかかげて断固として闘いぬいておられる姿は、最近の労働運動の右傾化に絶望すら感じつつある私たちにとりまして、本当にこの闘いの偉大な姿というものを、私たちは強く感じるわけでございます。

そして私も関西の住民として、共にこの動労千葉と闘う決意を固めておるわけでございますが、その矢先にご承知のとおり、あの本年七月の津山の大会、そして先日の動労千葉に対する査問委員会設置というニュースが伝えられまして、本当にわが耳を疑うという思いでありますし、腹の底からのいいいようなない怒りを感じておるわけでございます。

## 渡辺 喜美江 (北富士忍草母の会会長)



「動労千葉支援・三里塚連帯国民大集会」に参加されました皆さんに、北富士忍草母の会を代表しまして連帯の挨拶を申し上げます。

三里塚の勝利を心から願う私たちは、労働連帯を掲げて闘う動労千葉に本当の労働者の姿をみる思いで、その闘いを注目して参りました。動労千葉が三里塚農

民との連帯の姿勢を崩さないということを理由に、統制処分をかけるなどという理不尽な策動は、どんなことがあっても許してはならないと考えます。いったい三里塚闘争のどこがまちがっているというのでしょうか。三里塚と連帯することの何がいけないのでしょうか。労働連帯を理由にした処分攻撃などだれ一人とし

て納得させることはできません。ひとかけらの正義もありません。

三里塚闘争は変質した「権力の演出したもの」などと、誰も信じてないデマをわめき、それを唯一の理由に「三里塚と一線を画す」という決定を暴力でおし通し、そして今度は決定という形式だけをふりかざし、

デマにはいっさい口をつぐんだまま、決定違反だから統制処分だということです。なんとというペテン師たちでしょう。なにがなんでも動労千葉をつぶしたい。理由なんかどうでもよい、これが革マルの本音なので

をばらまいて大量動員し、私たちの集会の妨害をくり返しておきながら、追いつめられ都合が悪くなると、今度は平気で入会権は五十年前になくなったといひ出すしまつです。

権力の手先というものは、どこまで同じように卑劣で似たようなことをいふものかと、つくづく思います。このような連中には良心のかけらも期待することはできません。ただ粉碎あるのみです。

いかなる分裂攻撃があろうと、千四百の組合員が鉄の団結で闘いつづける限り、必ず勝利できると確信し

ております。千葉の皆さんに、特に家族の皆さんに訴えたいと思います。いかなる攻撃、いやがらせにもまげず、決して泣かず、家族一丸となって、闘いぬいていただきたいと思ひます。それこそ勝利のかぎです。お集りの皆さん。闘う動労千葉に対する統制処分などという不正義きわまる攻撃を、むざむざ許しては人民の未来はありません。全体の責任で、必ず三里塚と動労千葉と闘う人民の勝利を実現しようではありませんか。

共にがんばりましょう。

## 農民との共同闘争こそ 労働組合の再生の道



鷲田 正平  
(日本原農民)

ご承知のように、明治憲法復元決議を行なったのが、わが日本原の奈義町であります。その奈義町においてわずか七十人ですが私たちは、国を相手どって、違憲の訴訟をしています。訴訟以来約四年かかって、国は「高度の行政行為によって行うのであるから、裁判所には裁判権がない、裁判長は訴訟を却下せよ」との主張をいたしました。政府は、日本の裁判所を裁判権のない裁判所にしてしまいました。三里塚空港の場合にも、閣議決定緊急施行の名において、農民の知らんまに農地をとり上げる策動を行いました。私たちは国の無謀を黙視することはできません。

私たち日本原は七十年の歴史をもってありますが、わが日本原においてもいま法律はございせん。町会議員全員は自衛隊の小使いでございせん。町長はまた自衛隊がある間は、奈義町から町長に立候補することは不可能でございます。住民の半分以上が自衛隊員と

家族でございます。兵舎の前の幼稚園の生徒は、その八〇%が自衛隊員の子供でございます。国は町予算の約三〇%を町に交付しております。基地周辺整備費が約一七〇億円ほどで、地元を懐柔してまいります。金力と権力とに対して、私は立ちあがって闘わざるをえません。

先般、動労の会議が、わが津山市において行われました。最近の労働組合のなかで、初めて動労が労働組合らしくなったと喜んだのは、三里塚の同志諸君とともに闘ったからであります。私も往年、官業労働組合の中央委員のころ昭和十二年に私たちは投獄され、日本の労働組合全部が解散を命じられたことがありまして、そして私が出獄したときには、日本に労働組合もメーデーもありませんでした。

戦後の労働組合は、私にいわせれば、「マッカーサー労働組合」といふべきものです。雨後の竹の子のよ

うにできました労働組合は、多くが御用組合として成長しました。今回の動労中央の態度は御用組合に他ならない。真に労働運動の精神をもって、千葉の労働組合の人たちが立ちあがって農民と共同闘争をすることが、違反であるがごとく、組合内部においてこれを糾弾するがごときは、もつてのほかでございます。動労千葉の人たちが、初めて真の労働組合として立ちあがったことを支援し一致協力せずして、日本の労働運動がありませんか。

現在奈義町の三分の一が演習場、その三分の一を国が使って、私たちは三分の二で数十年間の反対運動を組織してきました。あるときは弾投下の中に坐りこみをしていきます。この七日にもロケットガンジャー発射演習が行われました。これは一〇〇メートル先のピルの向う側を射って私たちを皆殺しする演習なんです。このときは私たちが二百人いるのに、機動隊が七百



集会第二部は各界からのあいさつである。冒頭、よびかけ人である歴史学者の羽仁五郎氏が登壇、ともに登壇した花柳幻舟さんとともに圧倒的な拍手を受けた。三里塚反対同盟婦人行動隊副隊長の小川むつさんのカンパアピールをはさんで、全国の住民団体代表、労組、知識人の六十通をこえる連帯のメッセージ、激電がよせられていることが報告され、物理学者の武谷三男氏、歴史学者の色川大吉氏のメッセージが紹介された。各界からの連帯のあいさつは、じつに二時間にわたってつぎつぎと熱烈なあいさつが行なわれた。さらにこの他にも数多くの各界の人びとが参加していることが紹介された。

集会第三部は井之川巨氏の詩からはじめられた。三里塚反対同盟の登壇は場内を歓声と拍手のるつぼにたたきこんだ。二百余名の反対同盟の全員が立ちあがるなかを石橋政次副委員長、内田寛一行動隊長、長谷川たけ婦人行動隊長、熱田一副行動隊長、石井武実行役員、敷地内の小川源氏、青年行動隊の寺内金一氏が登壇、決意表明した。

「農地こそ要塞」、「大地を武器にたたかう三里塚農民と、鉄路を武器にたたかう動労千葉の連帯をさらに強化しよう」と訴えるや、鳴りやまぬ拍手が、この鉄の労農連帯を讃え、ともにたたかう決意となつてあふれた。一〇一定中委への決起につづき、苦闘する労働者へのおしみなない連帯と支援のたかひに起つた三里塚芝山農民の姿こそ、日本のもっともすばらしい農民の姿なのだ。

つづいて支援労組、各団体からの決意表明にうつつた。つぎつぎと立つ支援労組、団体発言に本集会の幅広い、全人民的規模による大成功の証しがなされていく。シュプレヒコールとともに「たたかう国鉄労働者」の決意表明を迎えたのだ。会場の照明消え、静まりかえつた会場に烈々たる声か鳴りひびく。「われわれのたたかいは正義だ。血みどろのたたかいで動労からカクマルを追放し、労農同盟を堅持し、三里塚闘争の勝利と日本革命の勝利にむけてつぎすすもう。三里塚と動労千葉の労農連帯万歳！」会場は割れんばかりの歓声と拍手、興奮にうず巻いた。北原氏の集会のまとめにより、堂々五時間の大集会は終了したのである。

## 動労千葉のジェット燃料 輸送阻止闘争に全面的な 支援を送る

武谷 三男

(物理学者・安全問題研究家)

成田国際空港の開設を喜んでる人は、一部利権者以外には全く存在しないといつてよいでしょう。住民・農民の人権をうばい、ずさんな計画のもとに強権によって建設を進め開港したものであり、安全性や公害を無視した欠陥空港であることは各大新聞も一様に認めているところです。

労働者が自らの危険を冒して、このような不当な目的のために黙々と奉仕しなければならない理由は全く認めることができません。

労働組合は労働者の人権をまもるために存在するものであることは、いうまでもありません。自らの人権をまもるには、他の人々の人権をまもることと連帯しなければ遂行できないのです。労働者・農民・市民の人権をまもる連帯の闘いが常に唱えられるのはそのためです。

これを忘れ労働組合が組合員の目先の利益だけを追求するとき、それは人権でなくて自らの特権を追求する集団に転化し、他の人権の犠牲の上に乗る存在となるものです。

この意味で動労千葉地本のジェット燃料輸送阻止闘争こそ、まさに労組本来の姿をあらわすものとして、私は全面的な支援を送るものであり、全国の動労の労働者諸氏にもこれを求めてやまないのです。

さらに、ジェット燃料輸送については安全問題から見て、他の貨車輸送とは全く質の異なる慎重にして万

全の検討、措置が行われねばならないもので、特別の条件が充たされてはじめて許されるものであります。

しかし私が見るところ、何らそのようなことが行われていると認めることはできません。このような危険な作業を、欠陥だらけの間に合わせの条件と設備の下で、強権によって強いられるべき理由を、それにたずさわる労働者は持っているとはどう考えていることはできません。この作業は今後ますます危険の度を増す一方といふべきでしょう。

動力車労働組合の労働者諸氏の真剣な再検討を希望するものです。

## 歴史の大義を 信じて進まれん

色川 大吉

(歴史学者)

私は「動労に連帯する会」の会員です。動労千葉地本が三里塚反対同盟とともにたたかっているということは、私が支持している動労の本質を、もっともよく示しているものとして高く評価しています。動労千葉のみならず、あなた方の労農連帯の行動は、歴史的にもまったく正しい。大義を信じて邁進して下さい。

また、全国の動労の労働者諸君が組織内の対立などをのりこえて、動労千葉のたたかいを支持しつづけるよう切望します。

## 労働者階級は 団結しなければ

国分 一太郎

(教育研究家)

私は、日教組などにはすこし協力しておりますので、「労組」としてのそれに、なにかと意見をいうことはあります。しかし「動労」とはそういう関係にはありませんので、なにかと意見をいうような資格はないでしょう。しかし「動労と連帯する会」からぬけていない人間としてなら、次のことぐらいはいいたい気持です。労働者階級が、いっそう団結しなければならぬ今日、組織内の一地本を除名するといったことはなさらぬ方がよいでしょう。まして三里塚闘争にかんしての行動や方針のちがいはいなどでは。

## ファシズムの 進行を憂うる

木下 半治

(元東京教育大教授)

動労千葉地本の果敢なる闘争に対する動労本部派の暴力的干渉は、日本政治にとってもっとも重大なる日本ファシズムの進行という観点からみて、極めて憂うべき現象である。

## 農民の自主的行動と 労働者の新しいあり方

山口 武秀

(農民運動家)

三里塚闘争の重要な一つの意義は、戦後日本の農民に存在する強烈なエネルギーを明確にしたことにある。農地改革で闘争意欲を失ったといわれた農民には、実は新しい力の形成がなされていたのだ。その事実は一と三里塚だけでなく、全国に共通するものである。

大、自衛隊千八百人と私服警官がとりまいてわれわれ一人に対して十人ほどがかかってまいりました。また金と札束で農民を追い出そうとしております。私たちは多年にわたる通行権をもち、私有地をもつ

## 動労千葉の労働者はわが民衆の仲間

動労千葉の皆さんとは今年の七月、津山大会において私たちが微力ではありますがたたかいました。その大会における一部反動分子による、動労千葉の仲間に対するテロ・リンチというものは、私たち農民にとって絶対に許すことのできないものであり、この場をかりて弾劾の意を表明したいと思っております。そしてこのリンチが、全ての民衆に向けられているというところをここで訴えておきたいと思っております。

日本原の状況は、七十六年の五月十六日にわれわれ地

ています。耕作権をもち水利権をもっています。そのいっさいを無視して実弾を射撃しようとするのことに對して、反対せずして何とするのか。平和を望む私たちの運動を無視して、政府は有事立法のよきな戦争へ



栗井 太郎  
(日本原農民)

元農民に対して自衛隊が、「弾こめ。射て。」という命令一下、投石の雨をふらせるといふ一大事件をひき起してから後退を余儀なくされた自衛隊ですが、今年の七月に入って、栗栖発言と同時に、広島の一三師団を総力をあげて反対派の闘争破壊攻撃のり出させてきています。訓練された業務隊演習場対策室の七名によって、連日、私の家は向こうの山から双眼鏡で二十四時間監視されています。そういつた中で、日本共産党をはじめとした裏切り

戦争へと準備をすすめようとしています。今の政府に与えれば、夜叉の剣となって善男善女を切り殺すでしょう。この有事立法こそわれわれは断固阻止せねばなりません。

分子は、農民を自衛隊に売り渡して、部落の中央に軍事道路を建設して、全面的に自衛隊に協力するといふ敵対行為に及んでおります。私たちは権力に対する闘争と、日共やそいつら連中との闘いの二重の意味をふまえて、まっとうから対決していくという、非常に困難な状況にあります。反対派のより一層の結束の下で今後も頑張っていきたいと思っております。

動労千葉の皆さん、三里塚反対同盟の皆さんとともに、日本原も頑張ってください。

## 三里塚 動労千葉 沖繩は侵略戦争を拒否する拠点

### 平安 常次

(沖繩反戦地主会)

不屈の三里塚農民との連帯を守るため、首をかけた、また組合組織の存亡をかけて闘いぬいている動労千葉の皆さんは、全国の心あるひとびとに勇気をあたえています。有事立法や沖繩の基地の強化にみられるように、侵略戦争への足音がたかまわっている今日、一方では、自分の利益のことしか聞えなくなつて

いる労働者の現実があります。しかしジェット燃料を運ぶという、三里塚農民殺しに労働者として加担するわけにはいかないと立ちあがった動労千葉のたまたかいは、私たち反戦地主の、どんなことがあるとうと自分たちの土地を戦争に使わせるわけにはいかないという心と同じです。

また、三里塚農民と動労千葉労働者の固い団結が、空港を追いつめている姿は、反戦地主の契約拒否の闘いと、これに呼応する基地労働者の、ストライキで沖繩の基地を内側から解体していく闘いの青写真だといつてもよいと思えます。このような闘いを切りひらいてきた、動労千葉の労働連帯のきずなを破壊すること

は、絶対に許されません。

動労千葉の皆さん。真に闘うものが、正義を貫く闘いが、厳しい弾圧を受けるのは世の常であります。ど

うか不正義に屈服しないで、最後の最後まで闘いぬいて下さい。私たちが闘います。沖繩と本土の闘いが固く団結し

て、ともに明日をきりひらいていくにはありませんか。

## 三里塚の闘いに沖繩の同時代性を見る

### 平良 良昭

(沖繩金武湾を守る会)



三里塚連帯と動労千葉支援をかかげてここに結集された皆さん。「沖繩金武湾を守る会」の一員として、挨拶を申しあげたいと思えます。

私たちは五年ほど前から、三菱による金武湾におけるCTS建設に反対して闘っております。

私たちの任んでいる金武湾は、非常に豊かな漁場であり、そしてあの沖繩戦の最中でさえ、沖繩人民の命を文字どおり支えた、非常に大事な生存の場である海でありました。この海に、三菱や、ガルフがきて、CTSが建設されることで、どのように変貌していったかは、私たちは骨身にしみて思い知らされています。この教訓を生かし、無公害企業だから絶対大丈夫という資本のデマをはねのけて、断固としてCTS建設に反対する闘いを始めたわけです。そして革新県政が三菱に与えた、不法な埋立て免許を取消させるための闘いを、二年間にわたって続けました。爆発的な住民漁

民の決起によって、革新県政をおいづめ、このように生存の場であり生産の場である海を、三菱という資本家に、そして日本帝国主義に奪われていくということに對して、徹底的に抵抗していく闘いを展開しております。現在私たちは、長い裁判闘争において反動的結

審攻撃をうけておりますけれども、この攻撃に屈することなく、実力阻止の闘いを展開しております。

私たちはこの五年間、山あり谷ありの長い闘いでしたけれども、三里塚の農民の闘いは、私たちに絶えざる励ましを送りつづけてくれました。私たちは三里塚農民の不屈の闘いに多くのものを学び、なによりその精神に学び闘ってきました。そして苦しい局面を切りぬけて、現在実力阻止の秋の攻勢を展開中であります。この十二月十七日にも、第三波の実力阻止の行動が予定されており、私は全力をあげて闘いぬいていく覚悟であります。海を守るため、沖繩人民の生存権を守るために闘っている私たちの反CTS闘争と、大地を守り、農地を死守し、農業を守っていく闘いを展開している三里塚の闘いの中に一つの同時代性というものを感じるわけです。私たちの闘いは、深くつながった闘いです。

そしてこの三里塚の農民の闘いを、労働者の立場から、労働者の魂をかけて連帯している動労千葉の皆さんに對して、惜しみない称賛の拍手を送ってきたわけです。しかし、このような労働者の魂をかけた闘いに對して、動労本部の方から、理不尽なしめつけ、弾圧

があるときいております。三里塚農民に連帯する闘いに対して、こともあろうに労働組合の本部が、これをしめつけ弾圧するということは、全くナンセンスであると、誰がみても判断せざるをえないと思えます。私たちは沖繩の地において、三里塚に学びながら闘っており、また私自身も何度か三里塚にいつて、三里塚の農民とともに闘ってきたわけですけれども、あの三里塚の本当に要塞化してしまっている空港をみますと、三里塚の闘いが、日本の人民の闘いが本当に敵を脅やかすところまで、力強くたくましく成長してきているのだということを、実感しております。

嘉手納基地という極東最大の空軍基地を目の前にしておりますけれども、三里塚の空港が、この嘉手納基地のフェンスよりも、さらに厚く要塞化されていることをみてもわかるように、私たちは三里塚の闘いに多くを学ぶことができると考えています。

私たちは、今後三里塚の闘いに敗けないように、沖繩の解放闘争を、沖繩の全人民の力で、断固闘いとしていくという決意を表明して、連帯の挨拶にかえたいと思えます。

# 三里塚十三年 は反権力の範



馬場 英治  
(長沼ミサイル基地設置反対同盟元委員長)

まず冒頭に、十三年間にわたりましてたまたかぬいできた三里塚・芝山を中心とする農民の皆さん、そして、たまたかぬい労働者の皆さんに、北海道の闘う仲間を代表して、深く敬意を表します。

闘いのある所はどこでも同じような形態をとると思いますが、労働者と農民、地域の住民が一体となつて一つの反権力闘争を闘う、そういう姿というのは、どこかの闘争においても基本的な姿だと思えます。北海道においても、長沼の反基地の闘いはもとより、伊達の火発、苫小牧の巨大開発、それから札幌冬期オリンピックに反対して、札幌周辺の自然を守る自然保護団体。そういった闘争は全て労働者と農民が核となつて、反権力闘争として闘われている、それが基本だと思つていきます。

私も三里塚にいく度か闘争の過程で行ったことがありますが、三里塚空港は金網で囲まれた軍事空港である。金網でしか、権力は空港を守れない。われわれが金網の中に入っていくには、彼らが必要するに金網の中から出てこれない。そういう状況をつくり出しています。三里塚と芝山農民を中心とした、またそれに強く連帯している労働者・動労千葉地本の皆さんの闘いの成果がここにあるんじゃないかと思つています。

私は北海道で、たしか管制塔が破壊された直後だと思つていますが、運輸省が発表した新聞記事にどうして海外に行くのかを分析した記事がありました。それによ

ると成田やらの国際線を使う飛行機のお客のほとんどが観光客だということです。要するに言葉をかえると、海外に遊びに行くために成田空港をつくる、そのために農民から土地を奪う、労働者から命を奪う、そういうことがいっぺん許せるのかどうか。そういう空港の実体というものを、もう一度全国民が、考えていかねばならないんじゃないか。

今回私たちは、動労千葉の皆さん方が、最後まで連帯している、そういう三里塚の闘争というものについて、動労千葉の本部も全人民的な闘いを最後まで担ってほしい。そういう署名を北海道でも五十名くらいしたわけですが、署名者に対して、いろいろなかたちで圧力をかけてきている。彼らはそのなかで、「官制塔占拠というようなことは、権力と結びつかなければ絶対やれないんだ」といつている。ですが彼らは、ひとつの幻想をもっているわけです。権力というのは絶対負けぬ。人民の闘いよりも絶対彼らの方が強いんだという幻想ですね。実は、そういうものをわれわれは打ち砕いていかなければ、日本の闘いというのは、絶対成り立たない。

もし権力というものが本当に破れないのであれば、朝鮮戦争におけるアメリカと朝鮮、ベトナム戦争におけるアメリカとベトナムの関係は成り立たない。三里塚よりもっと幾重にも軍事武装していたアメリカ軍とその同盟軍に対して、あのベトナム人民が勝つたという事実をどう理解するのでしょうか。彼らはそんな

## カクマル完全打倒は 労働者階級の歴史的任務

私は、動労千葉と三里塚にたいする反革命カクマルの攻撃を心の底から弾劾し、必ずこれを粉砕して勝利をかちとるために、最後まで責任をとりきつてたまたかぬいことを決意し、三つの点を皆さんに訴えます。

第一に、このたまたかに勝利するためには、反革命カクマルの攻撃を許すのか、カクマル完全打倒のためにたたかぬいのかということが日本労働者階級人民の未来をかけた決定的な歴史的選択であることを肝に銘じなければならぬということであり、

三里塚芝山連合空港反対同盟は、十三年間にわたって日帝権力の悪虐非道の攻撃とたたかぬい、その不屈のたたかぬいをおして、たまたかぬい労働者人民の共闘と結集の皆となり、日本階級闘争の天王山となり、空港実力地帯の地平をきりひらいてきました。これに連帯し、ともに勝利をめざしてたたかぬいことは労働者階級人民の当然の道であります。

しかし反革命カクマルは、動労千葉地本が三里塚に連帯し労働連帯のたたかぬいをおしてきているゆえをもつて動労千葉を統制処分かけ、動労千葉を破壊しようとしている。その口実としてカクマルは「三里塚闘争は権力の謀略で政争の具」「戸村委員長と反対同盟はスパイ挑発者」「三里塚闘争を粉砕せよ」「社会的に掃せよ」などと叫んでいます。これはまさに日帝権力と同じ思想と言葉を用い、日帝権力の手先きとなつて三里塚闘争を破壊しようとするものであり、問題外であり、全人民の敵であります。動労を全人民の

## 北小路 敏

敵に変質させようとするものであり、このようなカクマルは、一部悪質幹部もろとも、徹底的に動労のなかから追放し、全労働者人民の力で完全に打倒しなければなりません。三里塚闘争に連帯するの、それを破壊するの、動労千葉の労働連帯のたたかぬいをするの、それを圧殺するの、動労をたたかぬい労働組合とするの、日帝の手先きに変質させるの、カクマルに屈服してカクマルと同じになるの、カクマルを完全打倒して日本革命の未来をきりひらくのか。答えはあまりにも明らかであります。

かつて日本労働者階級人民が、日帝百年間のアジア侵略の先兵となつてきたのは、時の権力に敗北し、なによりも、権力の手先きに屈服したからではなかったのか。いま日本帝国主義が体制的危機を深め、有事立法をはじめとする侵略と反動と暗黒の絶望的凶暴化攻撃を強め、もういちど朝鮮アジアの民衆に銃をむけているとき、われわれは過去百年の誤りを絶対にくりかえしてはなりません。日帝の侵略の先兵カクマルを絶対に打倒しつくさなければなりません。

反対同盟と動労千葉のたたかぬいのなかに、私たちの行くべき道がある。階級の正義がある。大義がある。この正義は、たった一人であつても守らなければなりません。歴史が示していることは、たった一人であつても階級の正義を守りぬくならば、それが必ず全労働者人民のものとなり、勝利するということであり、まず。第一次世界大戦に際して、ロシアのボルシェヴィ

幻想をもっているし、その幻想を裏返せば、権力は人民が立ちあがったときには打ち破れるものだということとを認めたがらない。もしそれを認めたときには、三里塚の闘いでもこの闘いでも、人民の方が勝つんだということをも人民に教えてしまふことになる。それを彼らは許せないんだと思うんです。そういう幻想を打ち砕くためには、住民闘争の先頭に立っている三里塚に、なにがなんでも勝利してもらわなければ、日本の階級闘争の前進はないんです。

北海道でも、三里塚の皆さんに最後までがんばつて勝つていただくように、そして千葉地本の皆さんが、三里塚と今後とも連帯して闘っていただくようにおねがいし、北海道の闘う仲間を代表して、挨拶にかえま

## 参加した諸団体

- 東大演習林職員組合 政労協団地サービズ労働組合
- 全通空港支部 全通横浜地方支部青年部 全通横浜支部青年部 仙台中電年休裁判原告団 横浜市従三連
- 労働専門紙労協 全石油スタンダードバキューム労働組合
- ゼネラル石油精製労働組川崎支部 東大分院職員組合
- 総武線沿線東部支援共闘会議 動労千葉支援神奈川共闘会議 動労千葉支援東京北共闘会議 山谷統一労働組合
- 三里塚を闘う三多摩連絡会議 自治労埼玉県本部越谷市職員組合 部落解放埼玉東部地区協議会 蜂起社

キは自国帝国主義の戦争に反対し、それを内乱に転化しようとして、最初は弾圧と排外主義、愛国主義の洪水のなかで孤立したが、最後は革命に勝利した。戦前・戦後の日共は逆であった。このことを私たちは肝に銘じなければなりません。

しかもいま私たちは、一人であるどころか、反対同盟あり、動労千葉あり、これを包む全国のたまたかぬい人民の巨大な隊列をすてにつくりだしてきています。私たちは、このうえにしっかりとたつて、いまや真に日本労働者階級人民でありうるのかどうかに答えなければならぬ。断固としてカクマルとたたかぬい、社共をのりこえ、動労を動労としてぶつたて、総評の無残な裏切りを打ち破つて労働運動の革命的再生の道を切りひらかなければならぬ。このいっさいの問題が、三里塚と動労千葉の労働連帯を守るのかどうか、この一点に集約されているのであります。

第二に訴えたいことは、このたまたかに勝利するためには、カクマルとの戦争に勝利しなければならぬということであり、

三里塚と動労千葉にたいするカクマルの攻撃は、全人民にたいするカクマルの攻撃であります。カクマルは日帝権力の手先き以外の何ものでもないのであります。私達のなすべきことは、真正面からカクマルを暴露断罪しこれを完全打倒するためにたたかぬいこととであります。

このときいばん重要なことは、カクマルを恐れて

はならないということがあります。やれ内ゲバだ、やれカクマルは「左翼」ではないか、こういう考え方は根本的にまちがっています。そのような考え方でカクマルを免罪し、カクマルへの屈服と恐怖をごまかすことは断じて許されるものではありません。そういう考えがあったから、三〇年代にはヒトラーやムッソリニに勝てなかったのであります。

私たちの今日の勝利の進撃は、この七年以上のあいだ私たちがカクマルの白色テロルにたいして断固として正義の赤色テロルをもって戦いぬき、権力との死闘下に、カクマルとの軍事的な力関係を変革し、カクマルにたいする軍事的指導権を確立することによってきりひらかれたのであります。反対に、カクマルは、この正義の戦争に追いつめられて敗北と危機を深めまします。反革命の正体をあらわしているのではありません。今日のカクマルの腐敗と凶暴化は、ひとえにカクマルのかつてない敗北と危機の結果です。カクマルの内面は、わが正義の戦争にたいする恐怖、三里塚と動労千葉のたたかいたいする恐怖と絶望でいっぱいなのであります。

いまこそ日本労働者階級人民は、日帝権力の手先カクマルを断罪し、カクマルの白色テロル、カクマルの動労千葉破壊攻撃を断固として粉碎しなければならぬ。カクマルをせん滅し、追放し掃きなげなければならない。もしカクマル暴力集団が動労千葉を襲うというなら、全国数千万の労働者人民の隊列を総結集し、動労千葉のまわり正義の肉弾の城を築いて、カクマルの攻撃を粉碎し、動労千葉を守りぬこうではありませんか。

第三に訴えたいことは、このたたかいに勝利するためには、三里塚と動労千葉の労働連帯というかたちでくつきりと示されている労働者階級人民の旗をしっかりとかけ、この一点にすべてのたたかう労働者人民

の力を総結集して決起しなければならないということでありませぬ。

マッカーサーを「解放軍」だといって戦後革命を裏切った日共の正体は、こんにちますます暴露されています。また社会党、総評ダラ幹の裏切りもますます暴露されています。さらに、その尻っぽにのっかって三里塚と動労千葉を攻撃するカクマルというゴミクズのよう連中の正体もすっかり暴露されています。そして、これを打ち破って人民が進むべき道は、あの三里塚の道だ、動労千葉の道だということが、ひと目でわかる階級闘争の構図がひらかれているのであります。日本の階級闘争は、いま、大きく変ろうとしている。カクマルも日帝の先兵となり、排外主義者となり、天皇をかついで侵略戦争の先兵となりたければなるがよい。われわれはそういう連中を日本帝国主義もろとも地獄のなかにたたきこんで、わがプロレタリアート人民の権力をうちたてなければならぬと思えます。

そのあかしが、その道が、動労千葉と三里塚の労働連帯をつらぬきとおすことにこそあるのであります。この一点こそ、すべての労働者人民は徹底的に結集しなければならぬ。そして、この巨万の物質力をもってカクマルを打倒し、日帝権力を打倒する道を攻めぬばらうではありませんか。この道にのみ私たちの未来があることを確信し、いっさいを投げうって、動労千葉防衛・三里塚闘争勝利のために奮起することを、本日の誓いとしようではありませんか。私自身、自分のすべてをかたむけてこの先頭にたち、責任をとるということを申し上げて、私の決意の表明といたします。

### 参加した各界の人々

- 吉田 義久 (相模女子大学教授)
- 前野 良 (社会主義政治経済研究所所長)
- 福島菊次郎 (フリー写真家)
- 竹内 静子 (ジャーナリスト)
- 谷川正太郎 (東京自由保育園)
- 中込 道夫 (足利大学教授、両毛文化研究会)
- 村瀬とし子 (市川市会議員)
- 山本千代平 (動労千葉OB会)
- 戸村 義弘 (三里塚を生きるキリスト者の会事務局長)
- 横田 雄一 (狭山再審弁護団)
- 後藤 岩吉 (福島市議会議員、全日農福島市協議会議長)
- 葉合 正男 (公労協スト権奪還学究研究者の会)
- 川口 揚 (朝鮮問題研究家)
- 横井 薫 (画家)
- 宮沢 とり (プロレタリア作家)
- 井汲 卓一 (経済学者)
- 知念 政光 (沖縄共闘会議)
- 田村 公一 (破防法弾劾弁護団)
- 光岡 玄 (編集者)
- 五十嵐良雄 (現代教育研究所所長)
- 城戸のぼる (著述業)
- 小池 正夫 (三里塚をたたかう全群馬実行委)
- 小林 悟 (社会運動家)
- 青柳 晃玄 (僧侶)
- その他多数

### 各界からのあいさつ

## 歴史の業火は燃えあがる

◎司会あいさつ



丸山 照雄 (日蓮宗僧侶)

私は今、ご紹介いただきました丸山です。本日の集会において、全ての皆さんが三里塚闘争と動労千葉の勝利を絶対確信して帰っていただきたい。

## 三里塚コンミュニンの勝利は疑いない



羽仁 五郎 (歴史学者)

皆さんの勝利は疑いない。ぼくは今日の皆さんが、こんなに元気に集まっておられるのを見て、実はみなおしました。これなら大丈夫です。最近、私の所に手紙をくれた人があって、お前はいろいろ本を書いた

けれども、ただ一つ、いいことをいつている。それは何だときいたら、三里塚はパリ・コンミュニンだということを書いてある。その他の本は、全部下らない。ひどいやつがいたもんだ。

## 血を流しても本物の連帯を



花柳 幻舟 (前衛舞踊家)

五郎に五分以内でしゃべることができるとききましたら、いや三時間ぐらいかかるといっておりましたが、さすがにこれだけ圧倒的に皆さんが集まると、長い話をしたら殺されるんじゃないかと思ったりしく、

わずか三分ぐらいでまとめたということ、じつに賢くなつたとほめてやりたい。五郎の家に、革マルという方から電話をかけてくるそうです。私がかかええことやりますと、必ず五郎の

りいただきたい。そのために本日の集会は、歴史的な炎となって燃え上るような集会にしていきたいと思えます。

それでぼくは皆さんにお願いしたいが、こういうことになつた以上、皆さんは絶対に負けられない。皆さんが負けると俺も負けることになる。よろしくお願ひします。

方へ、電話をかけていくそうです。そしてそのおかげで、このごろ幻舟にも会えないけれど、幻舟はええことやるとるなあというの、分るんやそうです。ここに五郎の妻説子というのがありますが、説子は

私が「うさぎ」と名前をつけましたが、そのうさぎもしたたかなえ女でございまして、革マルから電話がかかって「羽仁五郎を出せ」といいますと、うさぎさんが「羽仁五郎とよびすてにできるのは、日本中いや世界中探してもたった一人しかいません」というんやそうです。そしたら「何をいうんだ花柳幻舟がいうておるではないか」という。「そうです幻舟さんだけです、私も五郎さんとよびましてよ」とうさぎがげなげにのたまうのでございまして。

私は今日、五郎に二度惚れました。まあようやくやってきたと思います。本当にちよつと嫌がったところもあつたのですが、どうしてかという、三十年ぐらいい前の話しかようしませんので、ネタが古すぎてあんまり受けんちゆうことが本人にも分つてきたので、嫌がるんです。けどまあ、あの戸村さんとか、なにせ皆さんが一生懸命やっておられるわけですから、たまには出てきてね、きたない長い顔でございまして、たまにはいいことでもあるのではないかと思っております。でも今日は本当によくやってきてくれたと思ひます。これでまあなんらかのあたりで少しぐらいいは皆さんのなかに、空気が入ったんではないかと思ひています。私は小学校三年中退で、旅回りの役者を長いことやってまいりまして、学問的なことは何も分りませんけれども、どんなに革新的な話をやる方でも、三里塚に

## 八〇年代の尖端は動 労千葉から開かれる

私は「動労と連帯する会」というのに入つておりましたけれども、今年の七月の動労大会において、千葉

それで、管制塔爆砕以来、私が非常に見逃せないことだと思つているのは、福田内閣によつてだされた有事立法です。しかもこれは、すでに足元までも定着されている。たとえば成田立法がそれです。成田立法というのは私有財産であるところの団結小屋を、勝手に押取することができ、あるいは職務質問に対して答えなければ、黙否権というものを全く無視して逮捕することができるといふ、無茶苦茶な法律であります。それが弁護士ぬきの裁判というものと連動していることは明らかであり、弁護士の皆さんによれば、この秋には弁護士を思想的に選別して、左翼過激派に対して同情的な弁護士は職権を奪うという法律が、新たに国会に上程されるという形跡があつたそうです。

私自身はある裁判の弁護側の証人として、この八月に出廷し、「たとえどんなセクトであろうとも、どんな闘争であろうとも、その基本的な人権を無視することとは許せない」と証言した。ところが、検事の反対尋問は唯一つ。「あなたは過激派を普通の人間と同じように取りしまつていたのでは危険と思わないのか」ということです。私はそうは思わない。「過激派」というのは権力が勝手にきめた粹であり、しかも、過激派ならば基本的人権を無視してもいいということになれば、これは「ファシズムだ」と答えました。

すでに有事立法は福田内閣によつて半分以上も実現

## 三里塚 動労千葉は

### 「むつ」闘争に力を与える

私は遠く、西の端の九州の佐世保におきまして、「欠陥原子力船むつ」の佐世保母港化阻止の共闘の代

対してどのような感想をもち、どのようなかたちで連帯し、どのようなかたちで三里塚にかかわつていられるかときけば、正体は一目瞭然です。にせものか本物かすぐ分つてしまふ。私としては動物の嗅覚とか動物の感性というのは、学校にいつてないから、学校にいつた人以上にすばらしくもつていると、誇りに思つていられるのです。

三里塚のおかげで、にせものをつかまされることなく、自分の闘争もやつていけるようになりました。私は、ここだけの話にしておいていただきたいのですが、まふと革マルにだまされたことがあります。私はその時でも役者をだますだけの革マルというのは、見直すといふのか、あきれかえつたものです。三里塚の闘争やいろいろな闘争に対して、血を流して、弱かつた自分を強く変革して闘つていられる三里塚に対して、どのようなかたちであろうともこれを阻む人たちは、私たちの足をひっぱるような人たちは、革新でもなければもろん左翼でもないし、それが学生運動であるとはとても思われないのです。

やっぱ弱い人間が自分を強く変革したときに、連帯して大きな敵すなわち天皇制帝国主義にむかつて、闘わなければいけないと思ひます。どこかあなたたちが気づかなかつた、弱い人民が気づかなかつた、皆の



針生 一郎  
(文芸批評家)

地本のジェット燃料輸送阻止闘争を抑圧するような大会方針を決定することだが、もし採択したなら

されている。「大平は角栄ぬけばただのアーウー」といわれているけれども、大平内閣の十五人はタカ派に属する人々でありまして、でこれらが元号問題あるいは有事立法という保守党の長年の懸案を、時機をみて実現しようとしていることは明らかであります。

そういうときに労働組合が、農民の闘いに連帯して燃料輸送阻止する、これは当然の闘いでありまして。それをいま動労中央は、「査問委員会」というものを設置をして、ある種の処分をしようとしている。さらに動労だけではない。一昨日宮城県に参りましたが、全通・全電通などが、三・二六、五・二〇に参加した労働者に年休を認めない。公社あるいは官の処分に対して、組合がこれを追認し、むしろその処分を支持しているという状態であります。

私はチェコスロバキアの民主化の時代に、カレル・コシークという哲学者が書いた『具体性の弁証法』という本を思い出します。この人はソヴェト軍がチェコを占領した時に追放されて、いまはどこへ行ったか分りません。コシークはその本のなかでこういふことをいっている。「現代社会の最大の問題は、社会主義国を含めて、政府を代表するものが、抽象的な普遍性になつていふ。その正義も平等も抽象的な普遍性になつていふ。それに対抗するのは労働組合であり、あるいは野党、政党であるはずなのだけれども、その政

なかにある天皇制帝国主義・天皇制のイデオロギキを、きつぱりと粉砕していただかねばならないと思ひます。そこから出発してこそ三里塚闘争の意義もあるし、闘いの勝利もあると確信しています。

花柳幻舟のような人間がおしゃべりすることのないような時代がきてほしい。私は劇場に立つたら踊りたい、そして芝居がしたいんです。だからそういう時代がくるために、皆さん、ぜひ勝利のために闘つていただきたい。

最後に一つだけ花柳幻舟からお願いがございまして。三里塚闘争勝利のあかつきには、三里塚のなかに、私が芝居ができるような、私たちのような未組織の旅回りの役者が、堂々と芸をみせられるような小屋を、ぜひつくつて下さい。三里塚農民の皆さんに、これだけは花柳幻舟からお願いです。花柳幻舟はどんなことがあつても家元制度とそれにつながる天皇制帝国主義を打倒するために、全ての生活をかけて舞踊家としての職業をちよつと横においてでも、私はがんばります。

羽仁五郎ともども血を流してがんばります。ぜひ皆さんが応援して下さい。そして三里塚闘争勝利のために、がんばりましょう。

ば、「動労と連帯する会」をこの際やめると宣言し、そこでやめました。

の代表する政治もまた、同じような抽象的普遍性になつていふ。そこに最大の問題がある」と。

さらに「しかし職場を占拠し、あるいはストライキをして具体的にたたかっている労働者の集団のなかに、抽象的な普遍性をこえるところの、具体的な普遍性が含まれている。彼らの闘いは、たとえば社会主義社会になつてもなお分業が続く、人間の疎外が続く。そういう問題をどう止揚するかという思想の萌芽が含まれている。」

いま日本の労働運動は、そういう意味で山猫ストすらも認めないようなスケジュール闘争、機関決定という名で組合内部の民主的な意見を封殺して体制の補完物になるか、それとも具体的な戦闘集団を中心とする新しい労働運動の方向をきり開くか岐路にきている。

そして、このことは労働運動だけではない。全ゆる住民運動、学生運動、文化運動などが、この労働運動の岐路というものを、自分たちの問題としてうけていなければ、八〇年代に来るものはファシズム以外の何ものでもない。日本はそのファシズムのなかで破局に陥るだろうと思ひます。そういう意味で動労千葉の闘いが、なお戦闘的に続けられんことを期待し、われわれはそれのために全ゆる努力を続けることを誓ひます。



小西 武夫

(佐世保市反むつ条例制定市民の会代表)

表および「人民の船」の代表をしておる者であります。この十月にあの欠陥原子力船が、機動隊の四千人

以上の暴力装置によつて守られ、また海上では海上保安庁の巡視船、九州あるいは山口から総動員しました

三十隻の巡視船に守られて強行入港しましたときに全国の労働者、あるいはまた三里塚の農民の方が、わざわざ遠く佐世保の現地へ来ていただきまして、私たちと共闘していただきました。そのお礼をどうしても一言申し上げねばならないという気持ちがありました。今朝早速、飛行機で先刻着いたわけでありまして、私は弁護士であります、四年前に政府が青森のむつ市から、元の軍港である佐世保に欠陥原子力船「むつ」を入港させるということにつきまして、反対闘争にたつたのであります。私は戦時中海軍におりました関係上、どうしても日本の核武装化、軍事大国化ひいては核戦争を、いまのうちに防止しなければならぬという確信のもとに、本当に命をかけて、政府を相手として差止め訴訟の弁護団の団長をやり、また昨年は一市民として、「反むつ条例」を市長に決定させよう

## 労農連帯を自らを励ます糧として



菅原克己  
(詩人)

という意図で市民運動をやりました。こういう小さな闘争をつうじまして特に感じますのは、正しい闘争を強い権力を相手どって勝利するためには、どうしても労働者のみなさんの支援なくしては絶対勝利を獲得することはできないことを身にしみて感じているのであります。

十月の入港のときあの有事立法先取りの戒厳状態において敵権力をして、寒からしめるような、陸、海での闘い、さらに人民の船の代表として海上船をあの海上保安庁の総動員されたところの警備船を相手どって勇敢にたたかいたのは、いつに、三里塚におきまして、農民の方がたおよびそれと連帯してたたかっているところの動労千葉のあの勇敢な闘いというものが私を導いてくれるものと勇氣づけられたからです。本当にありたいと思っております。

原子力船「むつ」の開発は、海軍艦艇の原子力化、原子力潜水艦原子力警備艦、ひいては軍事大国化となります。そしてエンタープライズのような原子力航空母艦まで進んでいくことはまちがいないのであります。この核武装化、軍事大国化をどうしても今の段階で阻止するためには、全国の労働者の皆さんの支援なくしては勝てないんです。

三里塚と動労千葉の労農連帯の勝利こそ、九州の西の端におけるところの原子力船「むつ」魔船の勝利の本当に徹底的な力を与えるものであります。

「むつ」粉碎の勝利は、三里塚と動労千葉の労農連帯の勝利なくして、獲得することはできません。三里塚と連帯して闘っている動労千葉のみなさん、とことんたたかかって、この階級戦に勝利して下さい。お互いに連帯してたたかきましょう。

いつもだと皆さんの聴衆者の隅々まで聞いている方なんです、今日はこういうところに立たされると喉がつかまって言葉が出ないから、「ダメだダメだ」といったのですが、でもぼくらが所属している新日本文学会でいつも支援している三里塚の人たち、それからその三里塚の人たちと密接な連帯をもつてたたかっている動労千葉地本の労働者の人たちを頭に浮かべながら、今日はやってきました。

ぼくはさつき支援するなどといいましたけれども、三里塚の人たち、動労千葉地本の人たち、それがあべこべに、ぼくのことを支援しているようなものなんです。

す。自分の精神に励みを与えるようなものを労農連帯の中に感ずるわけです。三里塚の人たちの言葉はすごく素朴で、「難しい、こゝと、観念的なことは何もありません。一つひとつ、ぼくは、この単純な素朴な言葉に真実をみいだすことができる、そう思います。それから自分の生活の場、そこでの闘いだけでなしにそこからのりだしていく、この千葉地本の千四百名の人たち、これにもすごく胸をうたれるわけなんです。

出されている。しかし、千葉地本の労働者はそれに屈せず三里塚反対同盟と連帯してたたかっている。その勇氣に、私は非常に感動しているわけです。ここにいる六千人の皆さんと共に、この二つの大事な闘いの一端を担ってたたかっていたいと思えます。

## さいごの血の一滴までともに



中山重夫  
(部落解放同盟)

皆さん、私は部落解放運動五十一年のたたかいのなかで、全国六千部落三百万の兄弟がおるなかで、本日のこの集いに江戸川支部の五名しか参加できなかったことについて、非常に残念に思っております。しかし私も江戸川支部の部落民は、全国の部落兄弟や全国の労働者・市民の多くがわれわれに連帯していることを皆さんに訴え、決意をのべたいと思えます。

三里塚芝山連合空港反対同盟の農民の皆さんとともに、その先頭にたつてたたかいておられる動労千葉地本の労働者の皆さんに、真心をこめて連帯のあいさつを申しあげます。私は成田空港粉砕のために、その最先端にたつて、血を流して犠牲的闘争をたたかいていっている動労千葉地本の労働者の皆さんに、最高の敬意と感謝を申しあげたい。

三里塚農民の十三年間にわたる血のにじむ闘いは、まさに全日本の人民を戦争の惨禍から守りぬく闘いであり、三里塚農民の皆さんと一体となつてたたかいていっている動労千葉地本労働者の皆さんの闘いこそは、

日本国の最高法規が厳命している、平和、人権尊重、主権在民の民主憲法を正しく実践するたたかいであります。

動労中央が第九十四回定期中央委員会において、地元反対同盟を中心として、実力阻止闘争を強く連帯してたたかいていく決議をしておきながら、自ら決議したことを踏みにじり、権力にゆ着・迎合して、「極左暴力集団」などと中傷・誹謗し、千葉地本の役員を統制処分にするために査問委員会を設置したことは、労働者仲間を権力に売り渡す行為であり、断固として糾弾しなければなりません。

戦争は人類から自由と人権を奪い取るものであり、成田空港はまさに軍事侵略のための基地以外の何ものでもありません。三里塚農民の血をささげた十三年間の不屈の闘い、そしてこの闘いの最先頭にたつてジェット燃料輸送阻止をたたかいていっている動労千葉地本の労働者の闘いは、全日本人民の自由と平等、人権保障確立の闘いであるし、この崇高な正義の闘いは日本

社会を真に民主化するため、全日本人民の当然の義務として果たさなければならぬ闘いでありました。

日本の社会の根源に、矛盾の根源に何があるのか。五月二〇日の三里塚開港日に、天皇が福田首相をよんだび元首の座に復帰しつつある。日本の社会のいわゆる根源に、矛盾の根源に天皇制がある。千五百万におよぶ中国人民、三百万におよぶ日本の人民を、虫ケラのごとく虐殺した戦争犯罪人である天皇。われわれはこのまま黙していることはできません。特に「貴族あれば賤民あり」として、私は亡くなられた松本治一郎先生の遺志をうけついで、今後部落解放、狭山闘争、そして三里塚闘争、沖繩闘争などの闘いと、天皇制問題を真正面にすえて、車の両輪としてたたかうことを皆さんに誓います。

今後とも最後の血の一滴まで江戸川支部は皆さんと連帯してたたかいていく。ここに集られた皆さんがたの連帯を深く強くお願いして、決意の一端とします。

## 人類への挑戦 統制処分は自然と



ヨシダヨシエ  
(美術評論家)

後に三里塚と動労千葉の労農連帯万歳と、すばらし

塚の大地と、それから鉄路、あるいは鉄道といわれる

二つの論理が、国家権力や、空港公団や、働く農民たちの連帯とどういにかかわりあいをしていっているのか、その点をごく簡単に、道路の歴史を総ざらいして、皆さんの前に明らかにしていきたいと思えます。

道とは何かといえますと一番最初は何もの道みたいなのでも、人間が自然の地形を利用してながら、そこをふみくだいて道ができてきたと思えます。やがて、紀元前三千年くらい前から、いわゆる琥珀道路ができました。日本でもヒスイ道路とかいわれる商用道路です。それがだんだん変りまして、中世のギリシアでは、羽仁五郎さんが『都市の論理』のなかで書いておられますように、いわゆるアゴラという広場に道路と人間とが非常にうまく結びついたものが出てきた。その直後のローマ帝国になりますと状況がすっかり変ります。いうまでもなく地中海沿岸を支配しようとするローマの帝国主義者たちが「世界の道はすべてローマに通ず」というあの有名な言葉でご承知のように、アッピア街道をはじめとするいわゆる「軍国への道」を開いてきたわけです。それから中世をとんで近世になり

## 人の要塞、鉄路の闘いに熱い支援を

◎カンパピール



小川むつ

(三里塚芝山連合空港反対同盟婦人行動隊副行動隊長)

「十二・一〇国民大集会」にお集りの皆さん。本当にご苦労さまです。

すばらしいこの姿は私たちの勝利の現れでございます。必ず万々歳の日は近しと、私は確信いたします。

動労千葉の皆さんの闘いも、私たちの闘いも、正義の闘いでございます。その正義の闘いを続ける動労千葉

ますと、いわゆる産業革命以後、交通手段はすべて現代と同様、「軍国への道」と結ばれていきます。

日本でも鎌倉幕府が切り通しというものを作りました。これも「いざ鎌倉」という言葉でご存知のように、いわゆる戦いのために道をきり開いてゆく。室町幕府はいまでもなく街道のあちこちに關所を作りました。アメリカではこれも映画なんかでご存知の、西部劇のサンホセ街道のように、インディアンたちを西へ西へと追いはらいながら、白人が土地を征服していくという道につながります。

現代にもどって、三里塚の道は何か。いうまでもなく鉄路・鉄道といわれるものは、ジェット燃料を運んでいます。道は今では必ずしも道路ばかりでなく、飛行機の航路もありますし、海の海路、それからやや飛躍して整理せずにはいえず、今いわれるところの情報化社会、情報もまたちようど網の目のように、たくさんいけば静脈のような道をとおって私たちのまわりで飛びかっけております。

要するに権力が欲しいものは、こういったものをす

の皆さんに、統制処分をかけようとしてきています。何がなんでもこの立派な姿を維持して、粉碎しなければなりません。

いま、政府公団は第二期工事着工を目論んで、いま敷地内十七戸——石橋副委員長、小川源さんはじめ、「皆、耕やすわしらが人間要塞」と、固い決意で

## 三里塚「開港」は 廃港への一里塚



葉山岳夫

(三里塚芝山連合空港反対同盟顧問弁護団事務局長)

本日集會に結集された三里塚芝山連合空港反対同盟の皆さん、国鉄労働者を中心とするたかろ労働者の皆さん、反対同盟顧問弁護団を代表して、心からの連帯のあいさつを申し上げます。

三里塚空港粉砕の闘いは、着々と巨大な前進を勝ちとっています。閣議決定による開港日程も粉砕できる力を、全人民のまえにこのかんの闘争は示しているのではありません。その後のゴリ押し開港はかねてから主張してきた騒音公害を北総全域にバラまき、まさに開港は廃港への一里塚となっているのであります。反対の輪は周辺住民へと拡がり、全国の住民運動、そして動力車労働組合千葉地本のみならずの闘いを中心として、いま全国の労働運動の共同闘争を形成しつつあるのではありません。三里塚闘争においては、現地のみなさんの闘いをあくまで守りぬき、空港を粉砕しつくすた

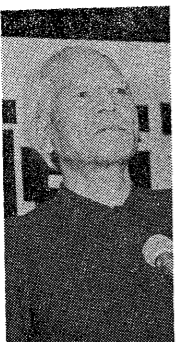
めに、まさしく日本階級闘争の中心的課題としてとらえ、たたかわなければなりません。

三里塚空港はあらゆる点において全く不完全な、欠陥空港であります。とりわけ燃料輸送問題は、空港のアクセス難なのであります。そのアクセス難に対して自らの職場において決起した動労千葉地本の皆さんの闘いは、全く正しいのであります。この闘いに対して動力車労働中央本部が、革マル派の諸君の影響下で統制処分のための「査問委員会」を設置したことは断じて許すことのできない暴挙であります。まさに味方を後からうつつ利敵行為以外の何ものでもないものであります。敵は福田、そして現在の大平自民党政府、公団、機動隊のみならず、このような行為は人民にたいする敵対行為以外のなものでもないと考えます。

三里塚闘争の進展は各分野で密集した反動をまき起

## 三里塚動労千葉沖繩の闘いは今や一体

戸村一作さんは、三里塚の闘いは沖繩に学んだといっておられます。しかし三里塚の開拓農民のなかで真先に裏切ったのが、沖繩の出身者であったということをごさかされています。これはまことに恥かしいことで



古波津英興

(沖繩民権の会代表)

はありますけれども、あの戦後日本の運動のなかで、沖繩現地の闘いは、本当にその先頭をきってたたかってくれました。しかし復帰後、沖繩の闘いは全く墮落してあります。そのあいだに三里塚はまさに労働連帯の

べてまとめて自分たちのものにする事です。これは今あわただしくみた道路の歴史をみても明らかだと思えます。これが三里塚の大地を奪った権力の論理であり、それがまたジェット燃料を阻止しようとする動労千葉地本の闘いだと思えます。この構図のなかに、私たちは動労千葉の闘いの意義をはつきりと探りださなくては行けない。

にもかかわらず動労の一部のダラ幹どもは、この人びとを弾圧し、統制処分にしようとしている。これは人民がこれからきり開いてゆく歴史に対する挑戦です。動労の中心になつていいる人たちがやっている統制処分は、本当は歴史に対する挑戦であり、われわれが生きている大地に対する挑戦です。これをわれわれはどんなことがあっても許すことはできません。

危険な燃料を阻止し、その静脈を断ちきることによって、三里塚の大地をふたたびよみがえらせようというのがこの闘いの一番の中心課題であり、これが歴史的視点であると私は信じています。今後皆さんと共にたたかうことを誓います。

阻止しようと頑張っております。

動労千葉の皆さんの闘いや私たちの闘いにそなえ、暖い支援のキャンパをお願いいたします。ただ今、三里塚の婦人行動隊の方がたが邪魔いたしましたので、よろしくご協力のほどをお願いいたします。

しております。二、三月情勢において、権力の横暴とたたかった皆さんに対して反対同盟の北原事務局長、秋葉救対部長、石井役員をはじめとする開港阻止闘争に対して二百名以上の逮捕、勾留し、かつ不当きわまる手段で東京地裁に移送し、分割公判でもってこれを処理しようという暴挙を加えています。管制塔占拠の被告諸君にたいしては、塚本裁判長なる男は、月三回開廷、年三十六回、三年間百八回の期日指定を強行しようともくろんでいるのであります。十二月十二日午前十時からは反対同盟のみなさんを含む三月要塞闘争の裁判が、千葉地裁で開かれるわけでありました。

反対同盟顧問弁護団は、極度に多い裁判闘争をかかえ、千葉で東京で闘っております。闘う動力車労働組合千葉地本の皆さんとあくまで連帯して、全力をつくして空港粉砕にむけて共にたたかきましょう。

もつとも具体的な闘い、歴史的な闘いを実践してくれました。しかし沖繩のたかろ部分がなんとか三里塚と連帯したいと思っていましたけれど、これに規制をかけたのは労働組合幹部であり、政党的幹部であ

った。その間なんとかして三里塚と連帯したいと思っ  
ていた人たちが、動労千葉の皆さんが三里塚と連帯し  
たことに、学んで結びつけていったわけです。

そういう意味におきまして動労千葉の存在は沖繩戦  
後労働運動を語る上で、欠くことのできない重要な意  
味をもっております。そして沖繩革新が風化していく  
なかで、再びかつてのあのはなばなし闘いをとり戻  
そうという、沖繩闘争の活性化にむかって三里塚の闘  
いに参加した部分を中心になって、CTS闘争をはじ  
めとする闘いに大きく前進してきているわけです。

動労千葉に対して加えられている弾圧、三里塚と連

## 生きるものに

## 輝ける範を示す



新里 金福  
(沖繩CTS問題を考える会世話人)

「CTS問題を考える会」の代表世話人をやってい  
ます新里です。

三里塚の闘いは何かといえ、これは死に対する生  
の闘いであると定義づけられると思います。どうい  
うことかといえます、成田の空港や沖繩の軍事基地・  
公害基地を必要としている体制は、つまり公害や戦争  
に象徴されているように、人殺ししかもう能のなくな  
った体制なわけで、その人を殺すしか能のない体制を  
殺すことなしには、人民は生きていけないということ  
だと思えます。

沖繩の現実をみればどういふふうになるかといいま  
すと、土地も海もとり上げられ、沖繩の三〇パーセン  
トをとり上げられて、そのために戦前五二パーセン  
トもあつた第一次産業が現在は六パーセントという、想  
像もつかない現実を示しています。そのとり上げられ

帯する動労千葉をなんとか統制処分にしようという陰  
謀、これは絶対粉砕しなければなりません。しかしそ  
れはただ単に三里塚闘争勝利のためというふうな一面  
的なものではなく、沖繩闘争勝利という意味からして  
も、この陰謀を粉砕しなければなりません。

そのことが沖繩闘争を、かつての輝かしい島ぐるみ  
闘争を闘いぬける大きな礎になることだと思います。  
今や三里塚と千葉動労と沖繩の闘いは、まさにひとつ  
の闘いだと思えます。沖繩におけるあの輝かしい闘い  
は、組合や政党のトップクラスの闘いによって実現し  
たのではなく、まさに島ぐるみの闘いをひとつと

た土地が、公害・戦争という人殺しのためにしか使わ  
れていない。

沖繩の土地や海をとり戻して人間の生命の糧につく  
りかえるという闘いが沖繩闘争の出発点ですけれど、  
しかしそこにとどまらないで人命よりも利潤追求、つ  
まり金もうけのためには人を殺してもかまわないとい  
う、そういう堕落した荒廃しきつた体制自体をのりこ  
えようとする闘いになっていくわけです。

ですから三里塚は平和な空港であり、沖繩の方は軍  
事空港であるというふうなみにていくと本質はまったく  
みられないと思えます。つまり両方とも死の体制でし  
かないということ。結局二つのは産軍複合体  
のいわば拠点として使われようとしているのです。

つまり今、人間だけでなく、生きとし生けるもの敵  
対物になった体制を根底から転覆しようとする闘いが

## 沖繩のジェット燃料基地 CTS建設阻止を



徳永 五郎  
(沖繩共闘会議)

沖繩共闘会議の闘争目標のなかで、特に根幹にすえ  
ていこうとしているのは、CTS闘争であります。C  
TS建設強行は、海を殺し、生物を殺し、人間をつぶ  
していこうとするものであります。それが東京のはる  
か遠くであればいい、沖繩であればいいという考え方  
の下にアジア侵略の最大拠点としての沖繩軍事基地  
と、固く太いパイプで結ばれて作られていこうとし  
ているわけです。

東京での闘いは、沖繩の闘争を支持していこうとす  
ることが中心ではなくして、三菱石油の本社が東京に

あり、通産省が東京にあり、また石油タンクの建造が  
東京近辺でなされ、東京近辺の港から沖繩にむかって  
運送されると、そういう地域でありますから、沖繩闘  
争のひとつの現地として、とらえているわけでありま  
す。この自分の場の闘いに徹底することをとおして

「金武湾を守る会」との連携した闘いを組んでいき  
たい、そんな団体であります。

動労千葉、三里塚にいろんな形でかわりながら、  
そして今日、さまざまな組合の状況を耳にしたりする  
わけですけれど、そういう状況の中の動労千葉のた

## アジアの解放闘争に連 なる三里塚動労千葉



川田 泰代  
(ジャーナリスト)

今日の私は、肩書きをつけるとすぐその組織がいや  
になってしまふので、肩書きはありません。だけどい  
やにならない組織「陳玉君を守る会」というのが一  
つあります。日本の帝国主義的入管が強制送還した台  
湾青年陳玉君を守ろうというので、その子を助け  
たわけです。その子といつてももう三十九歳になりま  
すが、その彼からその間メッセージがありました。  
「ハワイでこの間三里塚闘争の映画を観た。これは素  
晴らしかった。自分は農民の子だからジーンときた。

皆さんによろしく、必ず勝つてほしい」というメッセ  
ージです。

私はこの秋、朝鮮民主主義人民共和国にいき、板門  
店にもいきました。いっしょに行った人たちは、だい  
たい社会党や総評の女の人で、千葉の人もいました。  
なんと驚いたことに、そのプランというのが数カ月前  
にたてられていたのに、私に知らされたのは、ずつと  
あとになって日比谷で集会があったあとで、いつてみ  
ると、「九・一七に成田から飛ば」というのです。私

つ結びつけていくことによってはじめて勝利が貫徹で  
きたのであります。

動労千葉三里塚の農労連帯の闘いは日本の歴史始ま  
って以来のかつてない素晴らしい闘いであるがゆえ  
に、それを妨害しようとする者に対しては、全力をふ  
りしぼって粉砕していかねばなりません。

私は三里塚の勝利のその次に沖繩の勝利を願う。  
私たちは日本の歴史の柱として、人民の歴史の柱と  
して、この動労千葉の闘いを絶対勝利させねばなりま  
せん。

沖繩の闘いであり、三里塚の闘いでもあります。そうい  
う農漁民の闘いに労働者が連帯してたたかうことによ  
って、輝かしい労働者の任務をはたすことができ、新  
しい未来がきり開けるのであり、動労千葉の闘いはま  
さにそういう大道にむかつての正義の闘いでありま  
す。したがって労働運動の規範とすべき闘いでありま  
す。

この闘いは結局生と死の闘いであると、キザっぽい  
言葉で申しあげましたけれど、避けて通ることができ  
ない闘いであり、避けて通れば死の体制がどんどん膨  
張して、われわれの命もとも食いつぶしてしまいうわ  
けです。そういう闘いですから、一方では決して負け  
るはずのない闘いだし、絶対に勝つために頑張らしま  
しょう。

たかい、それに今まで目をみはり、また目を吸いつけ  
られつきたわけであり、その闘いが、やはり権  
力と資本の謀略のゆえにあれほどの闘いをせざるをえ  
ない。その闘いは反対同盟を支えられ、また支えつ  
つやっている。それを私どもがしっかり支援していき  
たい、そんなふうになっているわけであり、

家族ぐるみの闘争にならざるをえなくなっている。  
その動労千葉を全面的に支援していきたい。それを崩  
そうとすることに對して、徹底的に守っていかなくて  
はならない。

は「九・一七に成田から飛ばのは絶対いやだ」と一生懸  
命闘いました。そして北京から平壤にとぶことになる  
ので、中国大使館にかけあって、九・一七でない日、  
大阪から飛行機を出させるプランを作ったわけです。  
私は楽しくなって、その頃ちょうど動労千葉の集会が  
あったのですから、こちらから出かけていって、  
「九・一七には飛ばない。社会党や日中関係は飛びす  
ぎている。私はそれを拒否して、飛ばないという消極  
的な連帯をからとった」と報告したわけです。



しかしいざとなると、やっぱりその日に飛ぶというんです。私は断然いやだ、そんなことするなら行くのをやめるといったんですが、だいたい南の韓国政治犯の救援をやっている人は少ないから私にいつてもらわないと困る、向うは名指しできてるからというので、私は大変つらい思いをして台風の日に大阪にいて、大阪から香港までいって、そこから北京―平壤へと向ったわけです。

ここに雑誌「日中」というのがあります。今皆さん「日中」というと嫌いな人が多いかもしれませんが、これは北富士に白毛女のバレー団が訪ねて北富士の闘争を支援したり、三里塚の戸村さんが中国を訪ねる、その時の原稿の気持を大事にしていこうというのがこの本です。これに私は「平壤への道は遠かった」というのを書きました。これを書かないと、あの人たちは三里塚の話も動労千葉の話も何もないわけですから、私は金芝河の話が一番わかってもらったのは動労千葉だ

## 動労の変節と 勇敢に闘う動労千葉

まず、長い間三里塚空港反対のためにたたかてこられた農民の皆さんに、またジェット燃料輸送反対をたたかてこられた動労千葉の皆さんに、深い敬意を表し、その勝利を念願するものであります。私は成田闘争のことを考えますと、いつも私の頭のなかにうかんでくるのは、団結小屋のなかの小泉のばあちゃん最後までがんばって、権力とたたかっている時の姿です。あのおばあさんの勇敢な行為というものを、本当に今でも私は忘れられないのであります。また、東山

現在はどうでしょうか。

また今のことに関連して、飛行機の操縦士の疲労についての調査もやったことがあります。実際にあの成田空港に密集しているパイロットの疲労というものは大変なものです。そこにはとんでもない危険を伴っているわけです。私はいずれのセクトにも属しておりま

## 反革命に憎悪される 栄光を担う

今、私の前に詩人の菅原さんがここで話されたわけですが、菅原さんは戦前の日本共産党の機関紙『アカハタ』の最後のプリンターです。そして、そのころ果敢に展開されていた反軍闘争の、戦艦「山城」の艦内細胞の機関紙『そびえるマスト』も菅原さんがプリンターしていたわけです。そういう歴史もっている、侵略の歴史について充分考えぬいてきた人が、三里塚と動労に連帯しようとしているのです。

私の今までの友人たちのなかにも、完全に反革命に屈服してしまい、連帯できない人たちがいる。ここに

## 国民のための政治 回復させる

私がかつて訴えたいことは、どうしたら私たちの住むこの国を、私たち国民のものにできるのか、ということであり、ご存知のように、今日のこの国の政



## 山口 恵美子

(茨城県玉造町町会議員)

治はまったく私たち国民のためのものではなく、一部自民党政治家と資本家のものであります。そしてこのひと握りの権力者たちが、自分たちが今後生きていく

とあって、感謝しています。そのことを向うへいって私はいいました。そして朝鮮の人たちから「何で先生は皆さんといっしょに成田から飛ばないのですか」と聞かれて「金日成主席が満州でパルチザンを戦っていた時に、改良主義者と手を切ったではないか、それと同じように私はその問題では妥協できないのだ」といったら「解りました」といっていました。

今度帰ってきて、私はやっと革共同の人たちが革マルに妨害されているという、その感じがよく解りました。今度、私は革マルからの嘘のデッチ上げだけで、「六〇キロだか一〇〇キロだかオーバーした荷物をいっばい持ってきて、闇で売った」とか、くだらないことばかりいろいろいわれました。私は戸村先生にマオタイ酒を一本持つてきて、それが重いからちよつとだけキロオーバーしてしまつたわけです。それをなんでとてつもないくだらないデマをとばすのかとおもつたら、総評社会党の感覚が革マルという汚物でもって包



## 柘植 秀臣

(元法政大教授)

君があのような暴虐にあつて亡くなったこと。その他多くの学生・農民の皆さんが、権力のためにファシスト的な弾圧をうけられたことに、私は深く哀悼の意を表するものであります。

新聞によりますと、成田空港これは一兆円もかかっているということですが、そんなもんじゃなと思えます。しかしこれは誰の金でしょうか。人民の金であります。こんな金を何のために使っているか。先ほど戸村さんがいわれた通りです。福田内閣はそれでつぶ

せんが、いかに動労が堕落したかということ、動労といっしょに仕事をした経験から、つくづく思うわけです。

そしてジェット燃料輸送反対ということは、成田空港の阻止に対して、もっとも合理的な、有効な闘いだと思ふんです。動労本部が、勇敢に英雄的にたたかっ



## 石田 郁夫

(全国狭支連事務局長)

基本的な問題があるだろうと思ふ。反革命の恫喝に屈服する者がどうして侵略戦争を粉砕できようか。問題はきわめて明確に提起されていると考へます。

革マルと徹底的に対決する者が、三里塚闘争を勝利させ、動労千葉の闘いを勝利させるんだということをわれわれは鮮明に確認しなければならぬ。あの輩に反革命に憎悪されることは、むしろ光栄である。それ以外のなにものでもない。つまり彼らに憎まれることが生きがいである。可愛いがら死にたくはない。私は徹底的にたたかぬかと思ふ。

まれてしまつてはいるんです。だから三里塚にいつてもを集めた参議院議員ですら何にもわからない。九・一七がどういふ日かもわからない。私はこれは大変なことだと思つて、断固たたかうという姿勢を決めましたから、皆さんに見すてられないようにいつていきたい。

今北朝鮮では、チーム・スピリットが嫌い、有事立法が嫌い、民族が分断されているのが嫌いとはつきりいつています。有事立法がおると、パイプラインの両がわ三キロメートルも有事立法にはいつてしまつてしまうんです。そういうことはやっぱり日本の三十八度線であり、民族を分断することです。私は三里塚と動労千葉の連帯、それをつつむ市民たちの連帯ということがなければ、アジアの民族解放闘争と本当に連帯することはできないだということが、やっとわかつたわけですから、どうぞ、頑張りましょう。

れましたけれども、その功績の一つに成田空港をつくり上げたということがいわれています。これがいかに人民のためでないかということを、はっきり示しているではありませんか。

私は一介の研究者として、労働者・農民・働く人びとの健康と生命を守る学問、労働科学についての勉強を少しはやりました。その時に動労などから頼まれて例の一人乗務反対の調査をやりました。その時には、動労の本当に真面目な姿はみましたがところが

ている動労千葉の諸君に対して、敵対行為をとつてい

ることは、誰がみても理解できないことです。

私たち良心的な文化人というか研究者は、あなた方の闘争に対して、絶対に味方になつてたたかうだろうと断言いたします。

国鉄労働者の人々と家族の人たちに訴えたいのですが、彼らはなんでもやる党派です。あらゆるファシスト特有の、あらゆる謀略的な恫喝と攻撃を加えてくる。今後は非常にきびしい闘いに入ることになる。ぜひ、正義はわれわれにある、階級の大義はわれわれにある、ということに確信をもつて、反革命を粉砕していつてほしい。

その闘争のために、私も先頭をきつてたたかつていきたい。連帯のあかしを示していきたい。

とするための空港であります。そこで私たち住民は、このような彼らの野望の上にたつた空港、しかも、私たち国民にとってなんの利益もない空港、それどころか、現在直接、騒音をまき散らすばかりでなく、この先さらに広がるであろうもろの公害を考えると、

## 労働運動の右傾化に 警鐘を打ちならす

本集會に結集された皆さん、連帯のあいさつを送ります。最初に動労千葉四百名が反対同盟に連帯して果敢にたたかってこられましたジエツト闘争に対して、敬意を表します。

私も銚子において飛行コース反対でたたかい、昨年八月、運輸省が銚子の市長を説得するために銚子にきました時に、激突いたしました。私たちの会は高

住民切りすて国民泣かせ空港をうち壊さなければなりません。  
ところで、私たち国民のための闘い、三里塚の闘いを全力をあげて支援する動労千葉の皆さんに対し、統制処分などの反動的策謀をもって敵対することを明らかに

### 佐藤弘毅

(銚子の空を飛ばさせない会代表)

校の教員が多いものですから、そのさい千葉県の教育委員会が弾圧してきました。そればかりでなく私の所属する高教組本部は組合指令のない闘争に参加した場合には組合は支援しないと通告をまいてまいりました。今回の動労千葉の問題は、もっとも大きな問題であります。概して労働組合本部は各地域でたたかっている部分に対しては冷淡であり、指導できません。

今こそ労働者は、各地域で、職場で、原則的な闘いをもって中央本部にゆさぶりをかけ、右傾化していかうとする労働組合総体にたえず警鐘をうちならしていかなければならないと思います。  
今後とも頑張っていけますことをお誓いして、連帯のあいさつとします。

## 労働者の魂の 叫びをつづる

### 長島光三郎

(労働者詩人)

私は千葉県の漁民の生れです。今日は会場の入口のところに私の詩をいくつか出してもらっています。私たちは『原詩人』という労働者を主体にした無名詩人の会を作っています。おそらく動労千葉の同志の間には、私と小学校が同級の方もいらつしやると思いますが。もともと本職は労働者ですから、うまく朗読できるかどうか分かりませんが、皆さんに聞いてもらい

たいと思います。  
『ああ共有の太陽—動労千葉の同志へ送る—』  
『村をかえせ—三里塚の青年たちに送る—』  
私は以前、横田基地に勤めていたことがありまして一時は非合法法員として二年ぐらい、あのなかで非法活動をやってたことがあります。ところがその時代でも米国があれだけの権力をもっている、ぼくらの

一人の細胞も発見することができなかった。私たちは完全にたたかぬげたんです。  
『パリ・コミュニケーション』  
『パリ・コミュニケーション』  
以上、連帯をこめて。闘う労働者に敗北はありません。  
《動労千葉の兄弟におくる》

夜明けの星にバラは燃え  
輝く朝日の情熱で  
労働者の兄弟よ  
解放めざしてたたかおう

子らの未来をつくるため  
平和の女神を守るのだ  
鉄路は叫び血はほゆる  
おいらの胸の赤い血で

## 横田—成田を結ぶ

### ジエツト燃料輸送阻止

私は東京の西多摩の福生で救援会の運動をし、同時に「横田基地をつぶす会」というささやかな運動をして、そこで毎日のように、かって米軍タンク車阻止闘争のあった横田基地にむけて、ジエツト燃料の輸送貨車を毎日眺めております。それを眺めるたびごとに動労千葉の闘いに本当に畏敬して、その闘いがますます発展して、日米韓の侵略の拠点、あの横田基地を、三里塚と同じようにジエツト輸送を阻止して機能を停止させていくことを心から念願しています。  
立川・横田を結ぶ闘いも今、重要な局面にあり、天



### 国枝夏夫

(横田基地をつぶす会)

皇公園の着工を断固として阻止して、あの有償三分割等々の攻撃をはねかえして、立川、横田の周辺住民と共に本当に平和な町づくりをしなければならぬと思っています。

また、私たちキリスト者としては、韓国の朴政権と闘うキリスト者と心から連帯して、三里塚において私たちは、今年三月から三里塚を生きたるキリスト者の会という運動を展開しています。この十二日に三里塚の農民の人びと、それを支援する団結小屋の人びとによりかけて、市民クリスマス、闘うクリスマスを開催し

ようと、今準備しています。さらに二期工事を阻止するために、二期工事区域内にあらゆる形の教会活動としての闘いを展開する決意を、固めています。  
動労千葉の闘い、反対同盟十三年間の闘いに連帯して、われわれはこの大集會を契機にして、せひとも有事立法の攻撃、あの元号法制化攻撃、さらに動労千葉を内部から攪乱するような攻撃を粉砕して、あくまで空港粉砕にむけての闘いを、キリスト者の団体として共に連帯してたたかう覚悟であります。これから力をあわせてたたかきましょう。

## 動労千葉の闘いは 人間の道を照らす



### 弥永健一

(数学者)

私は数学を教えることを職業としている者ですが、何かある職業を持ちながら、同時に人間であるうとすることは、そう簡単なことではないと思います。しかしそれをおしきって—おしきらなければ労働者階級という言葉を使うことはできないと思います—そし

て、動労千葉の皆さんが進んでおられる道は、まさにこのような障害をおしきって、職業をもちながらも人間であるうとしているのだと思うわけです。この闘いに対して足をひっぱったり、権力でさえもできないようなやり方で敵対することは、どうしても許すことは

できません。  
この間、個人的に知りあっているアメリカの原住民IIアメリカインディアンの人と、話す機会がありました。彼らは三里塚の闘争についても非常に理解があるわけです。日本の文字を読み、日本のことをよく知っ

ている人よりもすぐ三里塚の状況をつかんで、それから共鳴する。彼ら原住民は先ほどの話にもありましたが、何もとれないような居留地に追いこまれているわけですが、今そこからも追いたてられようとしている。彼ら原住民とアメリカ合衆国との間の数々の条約すべて取り下げ、彼らを追いたてようとしているのです。

その背景には、居留地に多くのウラムウムをはじめとする鉱物資源があり、それをとるためにインディアンを追いたてることがあるわけです。現在すでに多くの自然が破壊され鉱物がとられ、非常に危険な廃棄物がそのような居留地に棄てられています。この

## 七度生まれ七度死なれ

### 革マル滅ぼさん



小西のぶ子  
(反戦被爆者の会会長)

今日は、こんなにたくさん皆さんの皆さんが動労千葉に連帯してお集り下さいましたことを、熱く感謝いたします。

一昨日は十二月八日でございました。十二月八日は日本帝国主義が十五年戦争にのめりこんで、みな殺しをした日でございます。私は昭和四十一年に沖縄にまいました。マブニの丘には各県の慰霊碑がございます。七十いくつございます。「海ゆかば草むす屍山ゆかば」といって、みな天皇を礼賛して死んでいきました。私は四十六年中国へ参りました。戦争中私たちは現地調達だといって、一生懸命協力しましたけれども、中国へ参りました時に、「現地調達」ということがどういうことかということ、広州にいきました現地の中国人にうかがいました。それは三光作戦といっ

ようなことに対してたち上ったインディアンに対しては、ありとあらゆるいやがらせやテロ、虐殺の攻撃がかけられ、多くの原住民の女性も強制的に避妊の手術を受けさせられています。そしてこのようななかでたち上っている人たちが三里塚の闘争に非常に共鳴を寄せる。それは彼らがうけている状況と三里塚の状況と非常に似ているところがあるからだと思います。

三里塚においても権力と金力を握ったひとたちが、一方的に土地を取り上げ空港を作った。しかしそこで得られたものは何かといえば、殺人的な騒音と荒れ果てた土地だったわけです。そしてこのような状況のなかで三里塚の闘争は、単に農民だけのものではなく

で、中国人の人たちの家を焼き、物資を強奪して、そして皆殺しをしたということ、中国人は訴えられました。しかし中国の人は罪を犯したのは帝国主義であると、私たち人民はお互いに手をつないで、戦争を阻止しなければならぬということ、中国人は申されました。

## 革マルは侵略戦争への協力者



小西 誠  
(自衛隊三等空曹全国反軍代表)

自衛隊のなかに「野外令」という本があります。戦前では「作戦要務令」にあたる自衛隊将校の教程です。この教程のなかには、いざ戦争が始まった時に、国鉄の本社、支社、管理局、こういうところは自衛隊の輸送班やその分遣隊が派遣されると書かれてあります。有事立法が通過してはいない時でも、国鉄はこういうふうな位置づけされています。いわんや有事立法が通過した時に、国鉄や鉄道輸送が完全に自衛隊の掌握のもとに入るとは明らかであります。

止闘争は軍需物資輸送反対の闘いである」と、と言われているのを見て、この動労千葉の闘いは日本の侵略戦争に反対する歴史的な闘い方である、ということを示しあげておきたいと思えます。

やるかどうかの問題は、侵略戦争に屈服し、これを積極的に承認するの否か、それともこれに断固として反対するの否か、という問題です。これは動労千葉のみならずわれわれの課題であります。

## 妥協なき闘いこそ支援者を倍する



小田原 紀夫  
(牧師)

十三年の永い闘いを続けてこられました三里塚反対同盟の皆さんと、これと固く連帯してジェット燃料貨車輸送阻止をたたかておられる動労千葉の労働者の皆さんに敬意を表します。

今日発言されているキリスト教関係者はみな立派な方がたばかりですが、総体としてのキリスト教というのはやはり非常に問題があります。たとえばキリスト教の関係者で在日韓国人の人権委員会というのがあります。これが明日韓国に行くんで

今後の闘いは、特に統制処分というより全く許しがたい反動的な攻撃のなかで、皆さんの闘い、生活総体が困難な状況にぶつかるとも思っています。そうした困難をのりこえ、日本の労働運動総体の右傾化のなかで素晴らしい闘いを続けておられる動労千葉の皆さんにただ一ついえることは、これは三里塚の反対同盟が証明したように、断固として闘えば必ず支援者が現われてくるということであり、わたしも今日ここに参加した五千六百名の一人とし

て最後まで闘いぬく、そして今日ここにはこれなかつたけれども多くの全国の仲間たちが、動労千葉が断固

とした闘いを続けるならばわれわれも、彼らもまた断固として支持し続けるということを確認してわたしの

あいさつにかえたいと思います。

## あらゆる手段で 反革命打ち倒そう



長谷川 英憲  
(杉並区議会議員)

まず三里塚をたたかい、ジェット燃料貨車輸送阻止の闘いを、組織をあげてたたかいぬいている動労千葉に対して加えられてきた今回の統制処分攻撃に、私は住民運動をやっている立場から、全面的に弾劾し、動労千葉千四百名労働者と固く連帯してたたかいぬく決意を表明したい。

今、日本の労働者あるいは労働組合の運動というのは、ますます右傾化し、支配者の意のままになるような運動に変質しようとしている。

たとえば杉並で現在当局が推しすすめている住民記録のコンピュータ化、つまり国民番号制、侵略のための総動員体制づくりという攻撃に対して、杉並区

の職員労働組合は、区長と一体となって積極的に、この攻撃を推しすすめる立場にたっています。まさにかつて公務員が天皇の官吏として住民を抑圧し、戦争にかり出す手先であったと同じような道を、杉並区の職員労働組合はたどろうとしている。この組合は日本共産党がその主導権をにぎっています。その他にも総評総体を含めて大きな右傾化の波のなかにある時、労働者は全ての階層の人民の利益を代表してたたかいぬかなければならない。

のか。動労千葉の労働者が十三年間不屈に、その闘いの道を求め、そしてついにジェット燃料貨車輸送阻止という決定的な闘いの軸を握りしめて決起した時に、加えられてきた、動労中央カクマル・松崎一派の処分攻撃に対して、私はあらゆる手段をとって動労千葉の人たちと共に闘いぬくことを誓いたいと思います。そのことが全国各地でたたかっている仲間、そして杉並において新たに起っている侵略戦争に反対する住民の国民総動員体制に反対する闘いの波をもまたつくり出していくと信じて、この決意を申し上げます。

## 労農連帯の 力強い前進を

### 加瀬包男

(日農千葉県連書記長)

戦後日本の労働運動を担ってきた動力車労働組合のとりわけ千葉地方本部のみなさんの、三里塚空港反対の闘争をめぐる労農連帯の行動には、その闘いの当初からつねに深い尊敬の念を禁じえませんでした。

動力車労働組合をめぐる諸事情につきましても、これに介入する意図は毛頭ありませんけれども、労農連帯の闘いがさらに一層力強く前進することを、心より祈念してやみません。

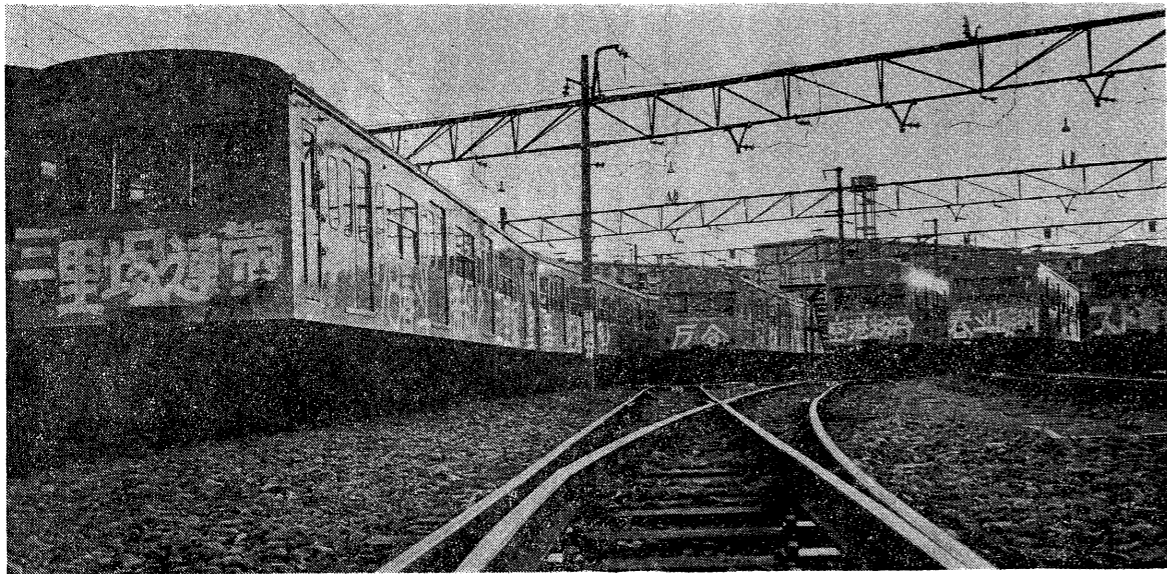
動労千葉の労働者のみなさん、どうか頑張ってたたかって下さい。

## 動労千葉 を讃える

井之川 巨

(詩人)

もえる瞳の労働者がやってくる  
高なる胸の鼓動  
決断の白いヘルメットのうねりとともに  
動労千葉の労働者がやってくる  
歓声が梢の上の青空にどよめく九・一七  
ここ三里塚第一公園  
日本プロレタリアートと  
三里塚農民の結節の輪のまんなかにかがやく瞳の  
動労千葉の労働者がすわりこむ  
かつてフランスに  
ナチスドイツの軍用列車輸送をはばむ  
鉄道労働者の「鉄路の闘い」があった  
いまこの国に  
成田空港ジェット燃料輸送阻止にたつ  
動労千葉の「鉄路の闘い」がある  
かつて砂川で 内灘で 沖繩で  
うたいつがれてきた労農同盟の讃歌は  
いま三里塚で  
軍事空港を包囲する  
たたかひのマーチとなつて進攻する  
コンクリートで固められた列島の歴史を  
冬から春へ  
もういちど豊かな大地へ呼びもどそうとする  
このおれたちの正義のたたかひに  
一線を画する者はだれか  
労農学 魂と魂のかたい連結を  
凶器を研いで切断しようとする者はだれか  
三里塚の大地に根ざす木々は  
花々は  
いっせいに頭を振っている



# 政府を不安と焦りの ドン底に追いこむ



石橋 政次  
(三里塚芝山連合空港反対同盟副委員長)

われわれの闘争も、本年二十日あまりを残して十三年の歳月が流れました。私たちは、この十三年間の闘争のなかで、多くの方がたの暖いご支援をいただきまして、闘争を一步一歩積み重ね、現在に到達してまいりました。これまで政府・公団は、いわゆる三里塚のひと握りの農民に対して、強引に問題を促進すればこれはなんとななるだろうというふうなことから、土地収用、成田新立法、または周辺に現在出されておる農業振興法などいろいろな問題をなげかけ、われわれの分断・切り崩しを図ってまいりました。

しかし今なおわれわれは、一部マスコミが報ずるような弱体化した反対同盟では断じてありません。三里塚農民と、鉄路を武器にたたく動労千葉の、このまさしく一体化した闘争を、今後いかなる大きな問題をかかえようとも、われわれはきつぱりにこれに勝利できる、この確信をもってたたかっています。

な状態を聞きました。なるほど公団は、この間の日航のストライキによってある程度備蓄を確保した、と宣伝はしておりますけど、これは真赤な嘘であります。ジェット燃料不足の問題は、三里塚空港が連日、不安のドン底に落ちこんでいる大きな問題でございます。

# 勝利めざして 総ぐるみで立向う



石井 武  
(三里塚芝山連合空港反対同盟実行役員)

私は労働組合員でなくして、一百姓でございますけれども、この十三年間の闘争を通じて、いろいろの労働組合の人たちと接触を深めてまいりました。そのなかで感じましたことは、労働組合が崩されていく、第二組合ができる、これがいちばん組合が直面する重大な問題だということです。

おりますが、この人たちが絶対に崩れずにやってゆけば、この闘争は必ず勝つという自信は、私たちだけじゃなくして、労働組合に身を置くもの、籍をおくものは全部わかつていると思います。

て、現在のように国家権力をゆるがす大きな三里塚闘争になつていくわけでございます。

かし、父ちゃんたちが何をやっているのか、途中でマージャンやっているわけでも、女のところに行っているわけでもないわけです。やはり、皆さんの家庭を、労働者みんなの家庭というものを、もっとよりよく幸福にしようと思って、一生懸命、日夜たかたかっているわけです。

やはり家庭を強くしなければ、父ちゃんは職場にでても、また闘争で、本当になんていいですか、後の心配はしないで闘うということではできません。どうか一日や二日帰らなくても、父ちゃんをいじめないで、そしてこの闘争は必ず勝つんだということを、皆さん、自信をもってやっていただきたいと思ひます。

# 名刀でも切れない 労農の鋼の絆



内田 寛一  
(三里塚芝山連合空港反対同盟行動隊長)

きわめて重大な時期に、きわめて重要な意義をもつ今次集会が、数千の同志の結集によって盛大な成果を獲得できましたことを、共に喜びたいと思ひます。

私たちの闘いも、まさに十三年、その十三年もあと二十日で暮れようといたしております。文字どおり血みどろの闘いをくり返し、激しい弾圧をはねのけて、ひたすら勝利にむかって前進をいたしてまいりました。これはひとえに、わが反対同盟を中心とする、闘う人民の総結集によってかちとられたものであることを、私は心から喜んでおる次第でございます。

本年の旗びらきに、十三年間、共にたたかいてまいりました動労千葉の関川委員長を中心とする千四

百の固い部隊と共に、今年こそはまさに正念場をむかえた重大な年であると、語りあいながら釜を重ね合わせた記憶がございます。

の反対同盟、これ以外に顕著な闘いを貫いたものがあるではありませんか。だからこそ本日、わが反対同盟は近年にない大動員をもって、大型バス三台を連ねてこの会場に動労中央本部を糾弾すべくまいっておりますという事実を、ご報告申し上げたいと思ひるのであります。

# 三里塚 動労千葉の 労農連帯万歳



熱田 一  
(三里塚芝山連合空港反対同盟副行動隊長)

十一・一〇大集会にはるばるとお集りいただきまし

た国鉄労働者の皆さん、また家族の皆さん、それに目

を注ぎ、耳を傾けていただくおおせいの皆さん。本日

はご苦労さまです。  
私は、先ほどい皆さんも目のあたりに知ること  
ありましようけれども、時間の制約上、また聞くこ

## 家族ぐるみで 闘争しなくては



長谷川 たけ  
(三里塚芝山連合空港反対同盟婦人行動隊長)

ろによれば緊迫しておるといような状況でございま  
すので、簡単に私の言葉を申しのべたいと思ひす。  
本日の焦点であるところの、三里塚・動労千葉の労

農連帯万歳！ を唱えまして私の挨拶にかえたいと思  
います。

この熱気あふれる集會に、本当に私は涙がでるほど  
うれしく思ひます。  
三里塚闘争も十三年を迎えております。この十三年  
の間に、三里塚から外の集會に二百人も同盟員がき  
たという事は、初めてであります。これは日ごろ皆  
さんが三里塚を支援して下さっているお陰であり、今  
もまだ健在に三里塚はたたかっています。

三里塚の空港も、ジェット燃料なくしてはだめで  
す。このジェット燃料輸送を、動労千葉地本が三里塚  
と連帯して反対している以上、空港は成りたちませ  
ん。この千葉地本の皆さんを包圍いたしまして、私た  
ちは三里塚の現地で反対しております。同盟と一体と  
なつて、この空港廃港にむかつて邁進しようではあり  
ませんか。

ここで皆さんにお願いしたいことは、千葉地本の方  
が三里塚闘争を支援してくださっておりますが、  
やはり闘争するには、家族ぐるみでなくては闘争で  
きません。そのなかでも一家の主婦がしっかりと心  
でもって頑張るならば、必ず勝つことができます。  
皆さん、共に頑張らましよう。

## 二期工区内十七戸は 不動の決意



小川 源  
(三里塚芝山連合空港反対同盟敷地内代表)

ただいま、ご紹介をうけました二期工区内の小川で  
ございます。

こんどの第一〇一回定期中央委員会において、動労  
千葉の幹部六名にたいして査問委員会を開き、動労内  
に巢喰う一革マルの反動分子らが処分をするという話  
を聞いたとき、われわれは農民として、また敷地内に  
用地を持つ立場の者として、絶対にこれは許すことが  
できません。

また、この二期工区内においては、まだまだ十七戸

という多勢の方がたが、すごい決意でたたかっており  
ます。

農民が農地なくして、なんで生きていかれましよう  
か。農地が要塞であります。また人間が要塞なので  
す。

これはなんとしても、太閤様でも動かすことのでき  
ない決意であり、あくまで頑張るとい決意は不変で  
あります。

どうぞ皆さん、日帝・国家権力を真向から粉砕し、

ともに最後の勝利をかちとるまで頑張らぬきましまし  
よう。

## 東山薫君の怨霊を 抱いて闘う



寺内 金一  
(三里塚芝山連合空港反対同盟青年行動隊)

最後の発言になりましたが「薫風」編集委員会と青  
年行動隊を代表いたしました。連帯のあいさつをのべ  
たいと思ひます。

七七年五月八日、千葉県警第二機動隊のガス銃の水  
平撃ちによって、三里塚で五年間私たちと共に生活を  
し、闘ってきた東山薫君は、闘いの中で殺されていま  
しました。

当初権力は、公務員暴行致死罪の適用という形で、  
われわれの味方であるかのようにふるまっていたんで

すけど、あの七八年三月の開港阻止決戦のどさくさに  
まぎれて、彼ら権力はこの罪名による警官を不起訴に  
しました。われわれはすぐに弁護団と共に付審判請求  
にたち上っています。そして今、千葉地裁は、そのガ  
ス銃の水平射撃で東山薫君を虐殺した警官が判明して  
いるにもかかわらず、なんら起訴しようとはせず、そ  
の付審判請求をも却下しようとしています。

東山薫君虐殺を弾劾追及する署名をしていただくよ  
う、訴えています。ここに結集されたすべての皆さん  
が、この署名に参加して下さい。  
三里塚闘争では、逮捕攻撃や拷問などあらゆる弾圧  
を、権力は三里塚闘争を担う人間は殺してもいいんだ  
という、非道な弾圧をかけてきているわけです。  
われわれもたたかいますから、皆さんも三里塚にき  
てもにたたかして下さい。十三年間の正義の闘いを  
ともにたたかして下さい。

## 全金本山も統制処分を はねかえす

われわれも、一人の首切りも許すなという闘いに入  
つて、すでに八年になります。会社が首を切るという  
攻撃を加えたとき、組合もまた除名処分という拳にで  
ました。当時の組合です。その処分に反対し、労働組  
合の死から労働組合の再生に向けて、われわれはこの  
八年間闘いぬいてきたと思ひます。

いま動労千葉地本にかけられている組織統制処分の  
攻撃も、労働者側から、もつとも闘う者を背後から撃  
つという、全く許せない攻撃としてあらわれてきてい  
るだろうと思ひます。われわれも、三里塚と動労千葉

## 全国金属本山製作所支部

に、さらに連帯を強めて闘いぬくことを明らかにし  
ておきたいと思ひます。

本日、支部組合員を全員結集させたかったわけで  
すが、残念ながらロックアウト中ということもあって、  
今日は五名で結集しております。

最後に、支部の方から三つほど申しあげておきたい  
と思ひます。一昨日、東京の闘争でまた一人逮捕され  
ました。中央署に対する抗議を、十二日の夜六時坂本  
公園に集って展開したいと思ひますので、ぜひ結集を  
お願いしたい。そして、ロックアウト六周年が、十二

月十八日であります。ロックアウト六周年の糾弾の闘  
いを仙台現地で十七・十八日に行いますので、結集を  
お願いしたい。

さらにロックアウトというなかで、現在宮城地本は  
物資販売を中止せよという攻撃を行っております。わ  
れわれは、去年の夏、今年の夏、そして今年末と、支  
部独自で全国の闘う労働者・農民・漁民等に訴えなが  
ら販売を成功させてきました。今回もなんとしてでも  
妨害をはねのけて、販売を成功させたいと思ひますの  
で、ご協力をお願いしたいと思ひます。

# 労働組合本来の 使命のために

三里塚闘争勝利、動労千葉支援のために決起された全ての仲間の皆さんに、心からの敬意と熱い連帯の意を表明します。

昨年三月、動労千葉の仲間がジェット燃料貨車輸送阻止の闘いに決起したとき、心からの熱い感動を覚えました。そしてこの闘いにぜひ勝利しようという決意、私どもも三里塚闘争連帯・動労千葉連帯のスト権を確立し、三・二八の第一波をかきわきりに今日まで十波に及ぶストライキを貫徹してまいりました。同時にこの動労千葉を支援するために職場の労働者にカンパを訴え、かつて経験したことのない、二十六万円というカ

## 三菱重工長崎造船労働組合

ンパの集約をみたわけであり、第一組合、第二組合に対しても、動労千葉の闘いが真に労働組合として労働者階級としての本来の闘いであつたればこそ、激しい感動をよんだのであります。

事実この動労千葉の闘いゆえに、十月二十六日には中国電産の労働者が反原発ストライキに決起し、そして漁民と連帯して豊北原発阻止の闘いに勝利してきたではありませんか。さらに本年四月には石川県の七尾において、同じく労働者が火電反対に立ちあがった漁民と共にたたかい、ついにこの闘いに勝利をしているではありませんか。こうした闘いは、動労千葉が三

塚農民との連帯した闘いをやっているからこそ、確実に支持されているのだということを確認できると思ひます。

私たちは今日、動労千葉に対する査問というなんと珍妙で卑劣な行為に対して、激しい憤りを覚えます。私たちは、一日も早く動労中央が労働組合本来の使命を全うすることを、強く求めるものであります。同時に動労千葉の仲間の皆さん、とりわけ家族の皆さん、ご主人や兄弟が結集している動労千葉は決して間違っていない。正しい道を堂々とたたかいていっていることを信じて、最後まで頑張ってください。

# 反対同盟とともに 歩む地域共闘を

ただいまご紹介いただきました私、山武地区労の専従事務局長の鈴木と申します。本日お集りの皆さん方に対して、連帯と決意のご挨拶を申しあげたいと思ひます。

山武地区労といたしましては、この三里塚芝山の闘いをどうするかということが、やはり労働運動のなかにおける大切なものとも重要な部分だと考えておるわけでございます。

## 千葉県山武地区労

いま総評あたりも地域共闘強化などというてですね、この間九月あたりに、初めてだというふうにも聞きましてけれども、今時分、地域共闘の強化をうたっておつたのでは非常に困つたわけでございます。すなわち、山武地区労といたしましては、要するに三里塚の闘いをたたかうことによって、連帯することによって、正しい意味での地区労働運動があるのではないかと思ふのです。

私は組織労働者は当然にも、働く国民の先頭に立つて闘わなければならないと思ふんですが、やはり組織労働者といえども、非常に弱い側面を持っておりまして、しかし、組合の中で、給料の値上げばかりを考えておつてはいかんと思ふわけです。それをのりこえて地域の住民の皆さん方と、特に山武地区労においてはこの芝山連合空港反対同盟といつしよになつて闘うということが、私たちに課せられたものとも大切な使命であ

ると考えるわけです。

私事にかかわることですが、私は九十九里町の漁師を十五年やっております。一九四七年ですが、九十九里基地というのがございまして、米軍演習場が十年ぐらいたつたわけですね。このなかで当時の共産党の人たちは、やはり闘争をやつて軍事裁判にかけられたこともありました。一般的には、条件闘争になつてしまつたんです。

そういうような基地闘争が九十九里浜にあつたわけであつて、私も漁師であつたんですが、その私がカツパ

の陸あげで、陸にあがつて、今地区労の仕事をしておるだけにですね、この三里塚闘争はどうしても勝たないかんと思つておるわけです。

私も今は今、周辺住民会議という名前をもちますが、やはり三里塚闘争の一員として闘いを進めておりますが、どうも周辺住民会議といえども、まだ本場に労働者の戦闘的なエネルギーというものが結集されてこないわけでございます。したがって、闘いは、これからだと私は感じておるわけでございます。

特に動労千葉地本の皆さん方の、この戦闘的な闘い

# 三里塚連帯闘争は 厳寒の時代を開く

すでに十三年にわたる三里塚芝山連合空港反対同盟の不屈の闘いは、今日まで連綿として続き、なおかつ広範な闘う人民を率いて、実力廃港の道をきり開いています。この闘いに労働者階級の義務として、連帯して立ちあがった動労千葉地本の闘いは、今日の右傾化する労働運動が欠落させている根本的なものを真に補い、そして労働者階級が、いったい何をめざして闘わなければならないのか、ということの鮮明な指針を私たちに示しました。

ところがこの重要な、労働者階級としての三里塚闘争への決起に対して、現在、動労の一部反動分子が、統制処分攻撃をかけるなどという、全く許せない反階級的攻撃をかけていることに、私たちは満腔の怒りをもつとともに、この統制処分攻撃をはねかえし、動労千葉のジェット燃料貨車輸送阻止の闘いを、今後とも一層連帯を強化するなかから、ともに闘いぬきます。

## 出版労働者連帯会議

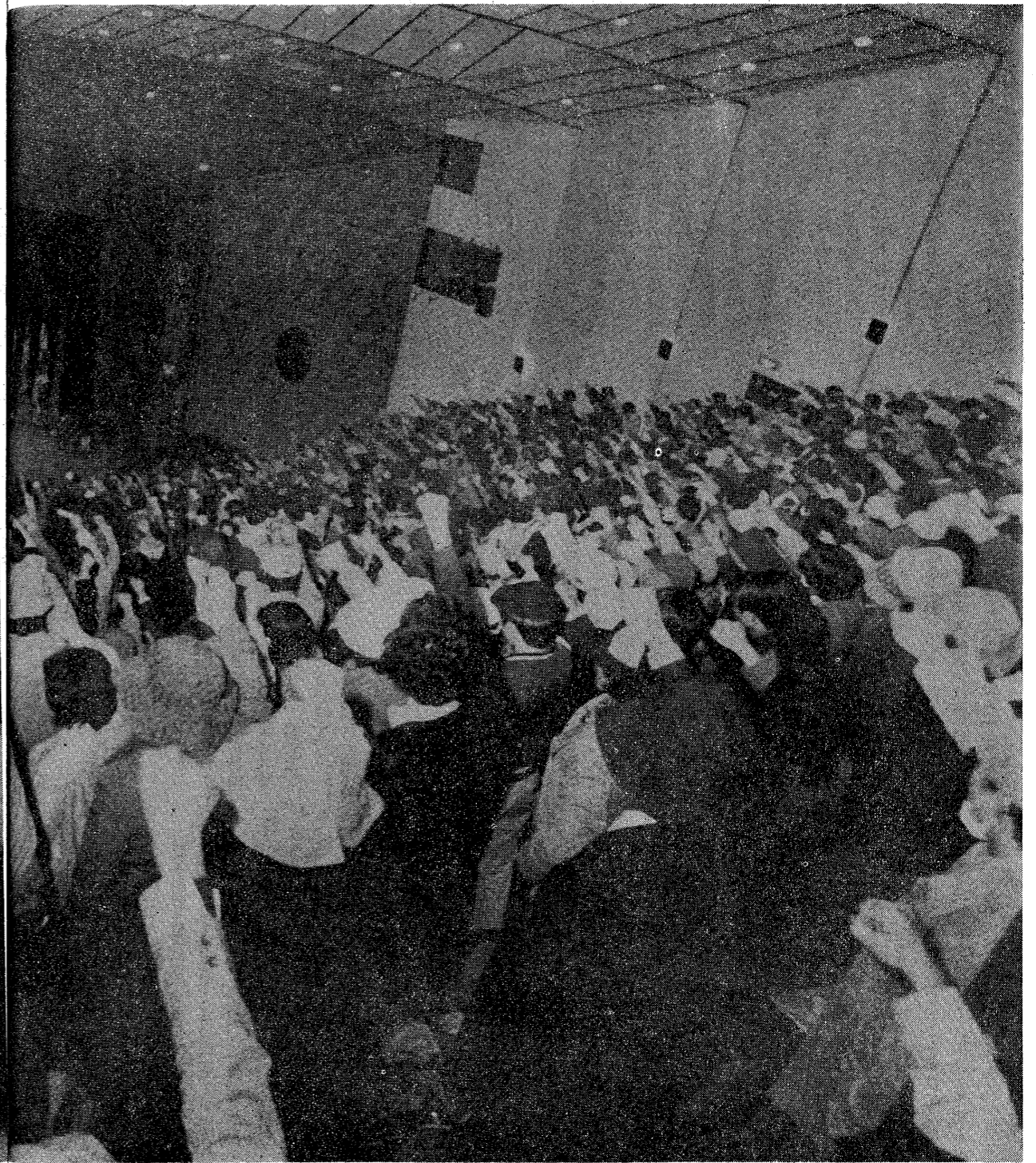
私たちのささやかな経験からいっても、かつて出版では光文社闘争がありました。この光文社闘争において、上部団体である産別の唯一の単産と称する当時の出版労協は、支援保留という名の抑圧攻撃をかけてきました。しかしながら、この労協傘下の多くの心ある組合員が、内外にわたつてこの光文社闘争の支援保留という労働中央の敵対抑圧をはねのけて、七年間の闘争の末、ご承知のとおり、歴史的な勝利をかちとつたわけですね。

動労千葉の組合員の皆さん、そして日常的にその闘いを支えているご家族の皆さん！ 苦しうにみえるかもしれないが、動労千葉の闘いは絶対に正しい。今日、いかに冬の時代というふうなわけかたをしように、かつて光文社闘争がそうであったように、労働協中執は、今の階級情勢では光文社闘争は勝てないというふうな本音をあからさまに大会でべたべたていた

に対して敬意を表する次第でございます。家族の方がたもまことに大変だとは思ひますが、私どもも、これから地区のなかに帰りましたら、この熱気降れる大集会の雰囲気皆に伝えまして、今後とも三里塚闘争をたたかいていく決意でございます。

わけですが、それがどうでしょう、二年前に光文社闘争は歴史的な大勝利をおさめたのです。そしてそのことを通じて培われた連帯の輪が、今日の出版関連産業の労働者の戦闘的な団結の礎になつていっているのではありませんか。

そのことをみるならば、今日の動労中央がいかに冬の時代を叫ぼうが、そうであるならば一層、この冬の時代を、まさしく三里塚と連帯する闘いをもって突破するのだという動労千葉の闘いの方向性こそ、学び、連帯し、共闘を深めるべき対象であり、正しい道であることは明らかであります。私たちははつきりとそのことを確信し、今後ともいかなる抑圧・圧力があろうとも、労働者階級の使命を、日本労働運動の未来をかけてたたかいていく動労千葉を守り、これと固くスクラムを組んで、私たちが前進したいと思ひます。





# 日本労働運動の 最前線の担い手

## 仙台中電年休裁判原告団

十三年間にわたって闘ってきた三里塚の農民とともに、労働連帯という画期的な闘いをきり開いてきた労働千葉の仲間に対する統制処分攻撃は、どのようなことがあっても絶対に許すことはできません。

闘う者を背後からしめ上げるような統制処分ほど、卑劣な行為はありません。仮に労働千葉に対して統制処分を加えようとしている労働本部の一部の反動的連中が、労働千葉のように戦闘的に闘うことができないというのなら、それは労働の戦闘的な伝統についていけないということであり、そうであれば、自由に労働を脱退して、鉄労にでも加盟すればよいでありましょう。そのような連中には、そのような生き方がもっともふさわしいと考えます。

労働者として労働組合が、農民・住民の闘いや政治闘争をたたかうことを忘れたときから、その労働者・

労働組合の死がはじまります。このことを忘れず、労働千葉の仲間をあくまで支援し、三里塚闘争の最後の勝利までたたかぬことを、今日の日本の労働者階級の闘争においてもっとも緊要であり、同時に、決して避けて通ることのできない闘いなのだと、このことを、はっきりと確認しなければなりません。

私たち仙台中電の労働者は、今後とも労働千葉の仲間として三里塚反対同盟の農民に連帯し、最後までたたかっていく決意であります。

今日、三里塚闘争への参加を口実に、権力と資本の弾圧が吹きあれており、私たち電通官城においても、三里塚闘争にゆくなら年休は認めないという攻撃をかけてきています。

このような資本の攻撃と完全に同一歩調をとる電通民間官僚が、電通の闘う労働者に対して、統制処分と

いう名の攻撃をかけてきております。

労働千葉の闘いにして、電通官城の仲間への統制処分にしろ、三里塚闘争を発端にした反動との闘いであります。このような点を忘れずに、私たちも、仙台中電の労働者に対する当局の不当な年休規制による、六名の仲間への不当処分に対して、六名の原告団を結成して、三里塚闘争の勝利とともに、この年休裁判の闘いをも断固闘っていく決意であります。

私たちも過去八年の闘いにおいて、安保闘争、あるいは沖繩闘争で、職場の仲間が延べ十数名が逮捕され、あるいは当局との攻防戦の過程で、三十名にも及ぶ差別分断支配をくぐりぬけ、たたかぬいてきた経験をもってありますが、今後とも私たちは、労働千葉の仲間に対する統制処分を許さず、三里塚軍事空港を廃港に追いこむまでたたかぬく決意です。

# 革マル打倒によつて 階級闘争は発展する

## 全通労働者共闘会議

全通労働者共闘会議は、全国の闘う全通労働者の名において、労働千葉に対する統制処分策動と、三里塚闘争の破壊をねらう革マルの策動を反労働者の、反階級的、反革命的行為として断罪し、断固としてたた

かぬことを冒頭宣言します。

日帝と郵政省当局の、刑事弾圧をふりかざした、全通労働運動を根幹から解体せんとする攻撃と、全通中央民同の裏切りと屈服に抗して、今日、闘う全通労働

者は、反マル生秋年闘争の戦闘的・革命的爆発をたたかいていきます。

この全通闘争を中心的にたたかっている労働者こそ、三里塚反対同盟に連帯し、労働千葉のジェット闘

争を支援した、三里塚を闘う全通労働者であることをはっきりさせたいと思います。三里塚闘争への決起を通して、われわれ闘う全通労働者は、国家権力との非和解的・非妥協的な暴力的な衝突こそが、階級闘争を勝利させる唯一の道であることを学びとりました。同時に、この階級の衝突に恐怖し、闘争の爆発をなんとしても阻止せんとする反革命革マルを打倒する度合に応じて、全通労働運動と日本階級闘争の発展もあることを学びとってきました。

反革命革マル、とりわけ労働革マルは、全通反マル生闘争の支援など称し、動労・国労・全通の三単産共闘なるものをテコとして、全通労働運動に対する全

面的な反革命的介入を策しております。全通労働者が労働千葉を支援するのはおかしい、三里塚を闘うのはおかしい、動労は全通の反マル生闘争を支援しているのだから、全通民同は下部の全通労働者を抑圧すべきだ、三里塚を闘わしてはならない、十二・一〇集會には参加させてはならない、こうした申し入れを労働革マルは全通に対して行ってきたのであります。

労働革マル松崎一派の労働千葉攻撃は、三里塚反対同盟と労働千葉が連帯し、三里塚闘争が大爆発する、このことよつて革マルの白色的・暴力的な労働支配が危機にたたされている、まさにそのことに本質があると考えております。

私たち三里塚をたたかい、労働千葉を支援する全通労働者共闘会議は、革マルの労働連帯破壊、労働千葉圧殺の攻撃に対して、その元凶松崎明に怒りの鉄槌を下し、革マルを動労から、全通から、そして全ゆる戦線から一掃し、打倒するために、最前線で闘いぬくことを決意表明します。

# カクマルを一掃して

## 労農連帯の歴史的勝利を

## 千葉県青年共闘会議

この場に結集した全ての同志の皆さん！一九七八年三里塚闘争はじつに偉大な爆発を上げました。三・二六、五・二〇、九・一七、まさに三里塚闘争は空港実力腐敗へむかって、全国の労働者階級人民を結集して、その勝利の展望をわれわれが手に握りしめているではありませんか。

今年冒頭、この春には反対同盟を絶対に解体してみせる、こういうふうに豪語していたあの福田は、みるも無惨な形で崩壊し去ったではありませんか。まさにこのことのために、私たちの闘いの前進を、はっきりと確認してゆきたいと思っております。そしてこの七八年、三里塚闘争の爆発を保障したのもこそ、現地反対同盟農民と、労働千葉の労働者の強固な労働連帯の絆であったということについて、はっきりさせなければ

なりません。まさに、労働千葉と反対同盟農民を車の両輪とした労農同盟の力こそ、三里塚を日本革命に向つての武装闘争の砦たらしめており、三里塚闘争は文字通りの革命の拠点として、ますます発展し、うち鍛えられているのであります。

今日、労働千葉地本千四百名の労働者にかげられていた労働カクマル松崎一派の統制処分の攻撃こそは、まさに彼らの強さのあらわれではなくして、こうした労働千葉と反対同盟農民の闘いの前進に恐怖した最後のあがきであるということについて、はっきりとさせようではありませんか。私たちはこの労農同盟の力こそ、八〇年と八〇年代決戦にむかつてのわが日本階級闘争の原動力であり、これをさらに強固にうちかため発展させていかねばならないということについて、は

っきり確認しようではありませんか。

三里塚闘争をたたかっている、ただこの一点を理由として、労働千葉を統制処分にかけるなどという攻撃を、どうして許すことができるだろうか。第一〇一回定中に駆けつけた三里塚芝山の農民に対して、「ドン百姓！権力のスパイ！うじ虫！」などと、こうした言葉をなげかける輩が、どうして左翼の一翼であり、労働者の仲間であるということができようか。

今こそ、われわれは、反革命カクマル、ファシスト・カクマルを、三里塚闘争の力をもって、全人民の力をもって、日本階級闘争の場から放逐してゆかねばならないということについて、はっきりと訴えたいと思っております。

結集されたすべての皆さん！この闘いは必ず勝利

できます。今日この場合に結集したこの力が、反革命カクマルを日本階級闘争から一掃し、まさに三里塚闘争の歴史的勝利をきり開く力だということをはっきりと確認したいと思えます。

動労千葉の正義は明らかであります。しかし問題は、この正義を正義として貫くことができるかどうか私たちの力が問われております。階級闘争の激動の時

## 順法闘争との感動的出会い

私たちは、第二、第三の三里塚闘争を地域・職場に作り出そうということで、闘いを展開しています。しかし、実際にそれを実現することは容易ではないという状況のなかで、この三里塚闘争に連帯した動労千葉の闘いには、本当に感動を覚えました。

昨年の十二月にジェット燃料貨車輸送阻止闘争で順法闘争をやった時に、私たちはなにがなんでもこの闘いを勝利させよう、この闘いを支援しようということで、小岩駅での防衛闘争、ホームで乗務員を迎える闘いをしました。列車が入ってくるたびにホームで拍手

## 革マルを粉砕して 反対同盟と運命をともに

千葉県労働者会議と現行隊を代表して、簡単に決意をのべたいと思えます。

と決起し、これを粉砕・せん滅しなければならぬというのであります。

彼ら革マルは、今やむきだしの反革命の全身をあらわにしつつ、労働者人民の闘いに敵対し、こうした革マルに対しては、六・一七全通の集会では、全通の労働者が革マルの襲撃を撃破し、十一・二三日朝連帯集會においては、東水の労働者を先頭として、革マルの部隊をゲバルトで粉砕しています。そして今日、われわれは、東C拠点化攻勢をかけたつ、十一・二八東C

## 闘争破壊者革マルを 全戦線から追放しよう

長時間にわたりました「動労千葉支援・三里塚連帯十二・一〇国民大集会」は、多くの闘う人民の力によって、みごとに成功しました。心から感謝申しあげます。

あらゆる階層・分野の人たちから、決意表明がのべられたことを集約しますと、まず三里塚芝山の農民に対して内部組織の破壊を図る革マルを絶滅せよ、これが第一点であります。すなわち動労千葉千四百の労働者の真の解放を勝ちとる闘いを、労働者でありながら破壊しようとする一部分子は、全国の住民闘争から追放しなければならぬ。

本集会をもって、反対同盟は、新たな勝利をつくり

代、革命と内乱の時代、こうしたなかで労働者は武装しなければなりません。まさに日本階級闘争のなかから生み出された、この反革命カクマルとの闘いこそ、日本階級闘争の武装の方向を決定づける闘いであるということをがっちり確認し、今こそ全ての日本の労働者階級人民は、反革命カクマルをせん滅し、一掃するために立ちあがらねばならぬことを確認しようで

## 三里塚闘争に連帯する会 東京神奈川連絡会議

をする。そうすると乗務員の人々が私たちに応えて警笛を鳴らす、そういうことで私たちがジンとして、かなり連帯できたのではないかと思ったりしていたわけです。やはり、そういう闘いをやっている千葉を私たちは断固として支援しなければいけない。ああいう闘いをした人たちに對して、動労中央本部が組織統制処分をかける、これはなんとしても許せないし、許してはならない。そして最後の千葉の勝利を私たち自身の勝利としていくことを確認しています。

私たちは現在、木の根の横風用滑走路の下真中に、

## 千葉県労働者会議

第一点のわれわれの決意は、全国の労働者人民に敵対し、反革命攻撃を加え、われわれの偉大な指導者で

で二十名の革マルをせん滅して以降、連日東Cは百数十名の同志たちの手によって制圧されています。かかる東C拠点化攻勢をすすめつつ、二・一一反革命攻撃に對して復讐し、三里塚闘争、ジェット闘争への敵対を敢然と爆発していこうではありませんか。

第二点には、日常の朝鮮反革命戦争とファシズムにむかっの突撃、三里塚においては国家戒厳令法ともいべき成田新立法を適用し、木の根と岩山の小屋に對して破壊攻撃を企て、二期工事着工をもくろむ日帝

## 北原 鉞 治

(動労ジェット闘争支援共闘会議世話人)

上げ、全国の住民団体とともに、革マルを全ゆる戦線から追放するだろう。

なお、動労内部に集う革マルを先頭とする、労働者にあるまじき行為をなす分子に對しては、むこうのいう「一線を画す」ということを、こちらからつきつけてやるのではないか。そして彼らを追放しようではないか。それは即ち三里塚闘争の勝利につながる。私たちは、決して千葉地本千四百の人たちに、あれをやれこれをやってくれ、こういう指示をした覚えはありません。動労が戦術的転換をくむ中で、私たちはそれをわがものとしてたたかてきております。動労千葉の千四百の闘いは、三里塚闘争と連帯するものとし

はありませんか。 結集した全ての仲間の皆さん。七九年こそそのいっさいのかかった決戦であります。この場に結集された全ての皆さんが、本日この場から動労千葉支援のために、日本革命の誓、人民の共闘と結集の誓、三里塚を勝利させるために、ともに立ちあがろうではありませんか。

団結小屋を維持しています。これは二期工事のまったくだ真中で、反対同盟が建てた小屋であります。これをめぐる闘いは、私たち「連帯する会」の労働者にとつて、いかに現地の闘いをやりきれるか一つの試練になると思います。私たちは昨年の五月の鉄塔決戦に大衆的実力闘争で決起し、逮捕者四十数名、うち起訴者が「連帯する会」で九名います。その支援活動の一環として、公判支援のための「団結まめ」の協力を多くの職場、多くの皆さんにお願いしています。

ある中原同志を虐殺し、三里塚闘争に敵対し、動労千葉のジェット闘争の破壊を企てる革マルに對して猛烈

国家権力等に對して、われわれは、十数年の現地活動をとおして、反対同盟と共に同じ釜の飯をくい、同じように血を流し、同じように闘いぬいてきたこの地平を堅持しつつ、木の根反対同盟を中心とし、運命をともにしつつ闘いぬきたいと思えます。

われわれはこうした権力闘争、党派闘争の死闘職を、反対同盟とともに全国の労働者人民と共に、そして闘う動労の仲間と共に、断固として前進することを決意表明して発言にかえます。

て、全国の新たな潮流をつくる労働者の解放をたたかいてるものとしてあるんだということを、私たちは確認しております。

本日の集会をもって、再び備蓄輸送ゼロにむかっただたかうである動労千葉の千四百に對して、われわれは最大の共闘を惜しまずやらなければならぬ。闘わなければならぬ。

これをもって本日の集会の総括とし、不慣れた司会者でありましたけれども、丸山さんとも皆さん方の協力によって、本集会を終えたことを心から感謝申し上げます、お礼の言葉にいたします。どうもありがとうございました。

# 労働者の矜持にかけて革命の根拠地を守りぬく

全国から集いに結集された、闘うすべての皆さん。動労千葉地本千四百組員を先頭にして、労農連帯の旗を高くかかげ、労働者階級としての矜持にかけてたたいぬいて闘う国鉄労働者を代表して、決意表明を行います。

本日の集会は、日本階級闘争の幾多の激動の嵐のなかであって、まさに歴史を画する、労働者の解放と人民解放にむけた新たな出発点としての集会でありま

す。動労千葉地本千四百組員の仲間たちは、あの革マルによる、三里塚闘争をたたかたが故の、この統制処分攻撃、迫害と弾圧攻撃に抗して、断々固としてたたかいてくことをいま決意しております。

動労千葉千四百の闘いは、労農連帯をかかげ、そして何よりも日本革命にむけたその最重要な闘いとして、三里塚闘争をたたかたがゆえにかけられているこの迫害と弾圧というものを、まさにそれを喜びとして受けとめ、革マルを断固として粉碎し、文字どおり労働者解放・人民解放にむけた労働運動を構築していく、その最先頭に立つてたたかいてくであります。

す。したがって、いかなる迫害があるうとも、いかなる弾圧があるうとも、それを許すことはならない。まさに労働者の階級的矜持・責務にかけてたたかいてくことでもあります。

三里塚ジェット闘争の百日間とは、今日の日本労働運動が反動化し右翼化し体制化していく、そうした状況のなかにあって、本来の労働者として農民との連帯をかかげ、戦闘的な労農同盟をつくり上げることによ

って、それを突破口にして日本労働運動を革命的に再生していく、そうした闘いでもあります。今日、革マルは、こうした闘いに真向から敵対し、反動化して、反革命の陣営に転落しきったということ

について、お互いに確認しようではありませんか。動労千葉千四百の闘いが余りにも正義であるがゆえに、彼らは許されざる迫害と弾圧と統制処分攻撃にきてい

るんだということを、われわれははっきりみなければならぬ。しかしこれは彼らの強さではない。まさに労農同盟の信義をかけたこの階級的正義の大道を闘いぬく、それに恐怖したがゆえにであることについてはっきりさせなければならぬ。彼らは動労千葉千四百の仲間たちが、一枚岩の団結を誇ってたたかっているが故に、この組織を破壊し排除せんとして、悪らつな攻撃をしかけてきています。こんにち革マルが、知識人の皆さん、あるいは署名者の皆さんが経験したように、連日のように電話をかけております。そして全組員個人の

住宅に「千葉地本執行部を追放せよ」などというデマビラを送付してきております。こうした脅迫電話に抗して「俺は断固として闘うんだ」と正反対の宣言をしている人がたくさんいる。

全ての皆さん。この闘いはプロレタリアートが日本革命に勝利するか否か、決定的に重要な闘いでありま

す。まさに今日、三里塚闘争が全国の多くの労働者・学生・全住民の結集の砦になっている。そしてまさに日本革命の根拠地として、労農同盟の根拠地であるんだということについて、私たちははっきりみなければならぬ。そのためにわが動労千葉千四百の仲間

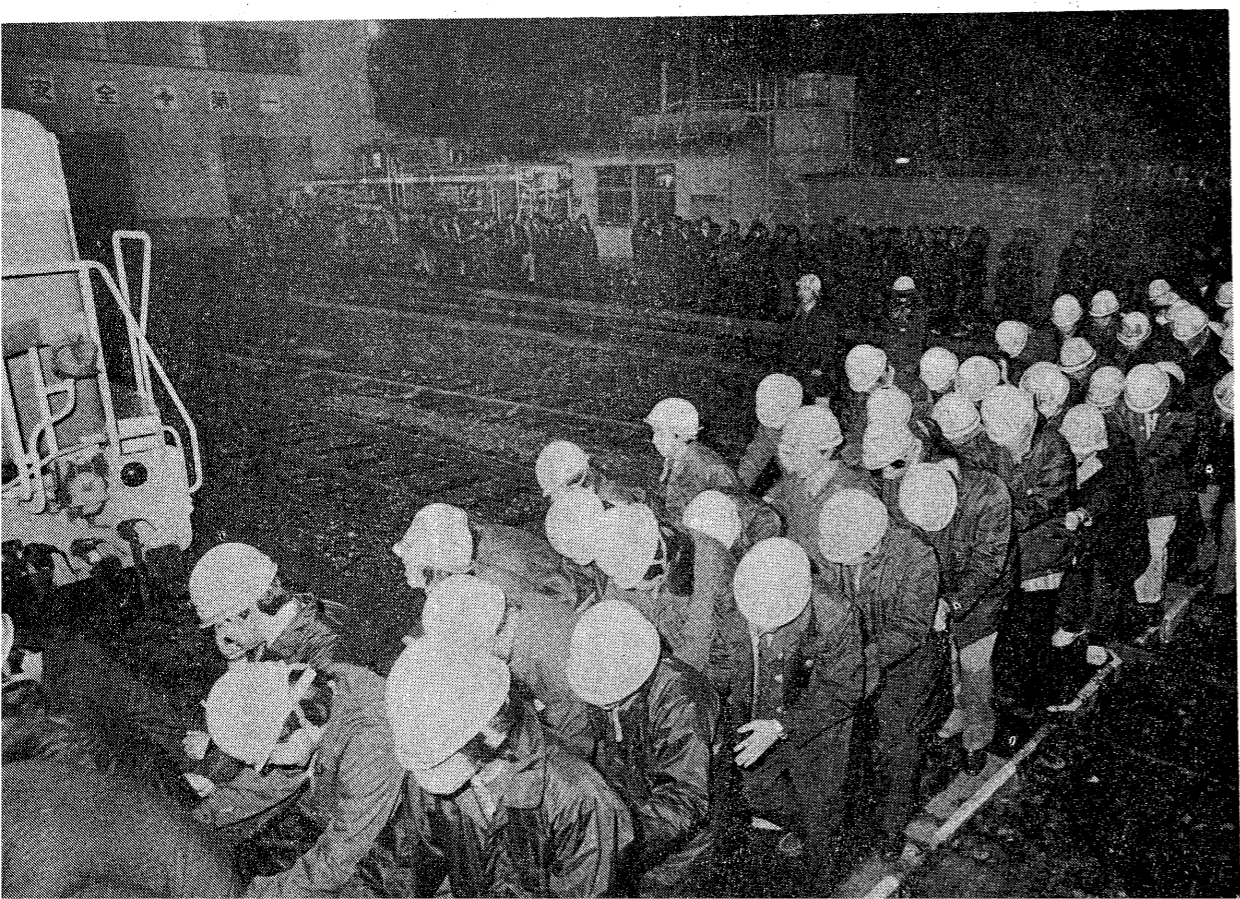
は、文字どおり革マルの迫害と弾圧に抗して闘いぬく決意であります。まさに不死鳥の如く闘いぬく決意であります。正義は必ず勝ちます。勝つためには何としてもその力をつけなければならぬ。

本日ここに結集された全国から結集された多くの仲間たちは、必ずその力となつていただきたい。いま革マルが動労千葉地方本部に、千葉地本千四百に対して大々的な攻撃をかけてくるならば、こぞって千葉に結集しようではないか。

労農同盟を死守し、この労農同盟を發展させ、日本革命にむけた革命的なソヴィエトを形成しよう。

三里塚と動労千葉の労農連帯万歳！  
日本革命の勝利万歳！

## II 三里塚・動労千葉 は未来を照らす 寄せられたメッセージ



ジェット燃料輸送阻止でストライキに立ちあがった動労千葉の労働者(78年2月28日佐倉機関区)

集会第二部は各界からのあいさつである。冒頭、よびかけ人である歴史学者の羽仁五郎氏が登壇、ともに登壇した花柳幻舟さんとともに圧倒的な拍手を受けた。三里塚反対同盟婦人行動隊副隊長の小川むつさんのカンパアピールをはさんで、全国の住民団体代表、労組、知識人の六十通をこえる連帯のメッセージ、激電がよせられていることが報告され、物理学者の武谷三男氏、歴史学者の色川大吉氏のメッセージが紹介された。各界からの連帯のあいさつは、じつに二時間にわたってつぎつぎと熱烈なあいさつが行なわれた。さらにこの他にも数多くの各界の人びとが参加していることが紹介された。

集会第三部は井之川巨氏の詩からはじめられた。三里塚反対同盟の登壇は場内を歓声と拍手のるつぼにたたきこんだ。二百余名の反対同盟の全員が立ちあがるなかを石橋政次副委員長、内田寛一行動隊長、長谷川たけ婦人行動隊長、熱田一副行動隊長、石井武実行役員、敷地内の小川源氏、青年行動隊の寺内金一氏が登壇、決意表明した。

「農地こそ要塞」、「大地を武器にたたかう三里塚農民と、鉄路を武器にたたかう動労千葉の連帯をさらに強化しよう」と訴えるや、鳴りやまぬ拍手が、この鉄の労農連帯を讃え、ともにたたかう決意となつてあふれた。一〇一定中委への決起につぎ、苦闘する労働者へのおしみなない連帯と支援のたたかいに起つた三里塚芝山農民の姿こそ、日本のもっともすばらしい農民の姿なのだ。

つづいて支援労組、各団体からの決意表明にうつつた。つぎつぎと立つ支援労組、団体発言に本集会の幅広い、全人民的規模による大成功の証しがなされていく。シュプレヒコールとともに「たたかう国鉄労働者」の決意表明を迎えたのだ。会場の照明消え、静まりかえつた会場に烈々たる声か鳴りひびく。「われわれのたたかいは正義だ。血みどろのたたかいで動労からカクマルを追放し、労農同盟を堅持し、三里塚闘争の勝利と日本革命の勝利にむけてつぎすすもう。三里塚と動労千葉の労農連帯万歳！」会場は割れんばかりの歓声と拍手、興奮にうず巻いた。北原氏の集会のまとめにより、堂々五時間の大集会は終了したのである。

## 動労千葉のジェット燃料 輸送阻止闘争に全面的な 支援を送る

武谷 三男

(物理学者・安全問題研究家)

成田国際空港の開設を喜んでる人は、一部利権者以外には全く存在しないといってよいでしょう。住民・農民の人権をうばい、ずさんな計画のもとに強権によって建設を進め開港したものであり、安全性や公害を無視した欠陥空港であることは各大新聞も一様に認めているところです。

労働者が自らの危険を冒して、このような不当な目的のために黙々と奉仕しなければならぬ理由は全く認められません。

労働組合は労働者の人権をまもるために存在するものであることは、いうまでもありません。自らの人権をまもるには、他の人々の人権をまもることに連帯しなければ遂行できないものです。労働者・農民・市民の人権をまもる連帯の闘いが常に唱えられるのはそのためです。

これを忘れ労働組合が組合員の目先の利益だけを追求するとき、それは人権でなくて自らの特権を追求する集団に転化し、他の人権の犠牲の上に乗る存在となるものです。

この意味で動労千葉地本のジェット燃料輸送阻止闘争こそ、まさに労組本来の姿をあらわすものとして、私は全面的な支援を送るものであり、全国の動労の労働者諸氏にもこれを求めてやまないのです。

さらに、ジェット燃料輸送については安全問題から見て、他の貨車輸送とは全く質の異なる慎重にして万

全の検討、措置が行われねばならないもので、特別の条件が充たされてはじめて許されるものであります。しかし私が見るところ、何らそのようなことが行われていると認めることはできません。このような危険な作業を、欠陥だらけのまに合わせの条件と設備の下で、強権によって強いられるべき理由を、それにしたずさわる労働者は持つていこうとてい考えることはできません。この作業は今後ますます危険の度を増す一方といふべきでしょう。

動力車労働組合の労働者諸氏の真剣な再検討を希望するものです。

歴史の大義を  
信じて進まれん  
色川 大吉

(歴史学者)

私は「動労に連帯する会」の会員です。動労千葉地本が三里塚反対同盟とともにたたかっているということは、私が支持している動労の本質を、もつともよく示しているものとして高く評価しています。動労千葉のみならず、あなた方の労農連帯の行動は、歴史的にもまったく正しい。大義を信じて邁進して下さい。

また、全国の動労の労働者諸君が組織内の対立などをのりこえて、動労千葉のたたかいを支持しつづけるよう切望します。

労働者階級は  
団結しなければ  
国分一太郎

(教育研究家)

私は、日教組などにはすこし協力しておりますので、「労組」としてのそれに、なにかと意見をいうことはあります。しかし「動労」とはそういう関係にはありませんので、なにかと意見をいうような資格はないでしょう。しかし「動労と連帯する会」からぬけていない人間としてなら、次のことぐらいはいいたい気持です。労働者階級が、いつそう団結しなければならぬ今日、組織内の一地本を除名するといったことはなさない方がよいでしょう。まして三里塚闘争にかんしての行動や方針のちがいはいなどでは。

ファシズムの  
進行を憂うる  
木下 半治

(元東京教育大教授)

動労千葉地本の果敢なる闘争に対する動労本部派の暴力的干渉は、日本政治にとつてもつとも重大なる日本ファシズムの進行という観点からみて、極めて憂うべき現象である。

農民の自主的行動と  
労働者の新しいあり方

山口 武秀

(農民運動家)

三里塚闘争の重要な一つの意義は、戦後日本の農民に存在する強烈なエネルギーを明確にしたことにある。農地改革で闘争意欲を失ったといわれた農民には、実は新しい力の形成がなされていたのだ。その事実は一ひとり三里塚だけでなく、全国に共通するものである。

ため、三里塚における反権力の闘いの展開は、いっそう大きく評価されることになる。

現在、日本人民のなかで農民は、もともと戦闘化しうる存在だといっても事実には反しまい。その農民の状態を保証する条件はなんであるのか。それは農民の自主的な存在形態、すなわち自主的精神に立った自発的行動にほかならない。他から規制されない自主的行動こそが、農民にすさまじい力を発揮させる。

本来、人民のなかの先進部分たる労働者が今日、必ずしもその任務を果す立場にないというのは、農民のばあいと異って、既成組織の上からの規制で動くという点に、重大な原因をもつ、といえよう。他動的集団は一人ひとりの力を生かすきるものとはならないのだ。

それこれのとき、動労千葉の三里塚への連帯行動は、労組行動の再編ということからも注目される。上からの規制に対置される下からの自主行動、それは労働者の一人ひとりを活性化し、戦闘化させる道である。

いうまでもなく、動労千葉は三里塚闘争のきわめて大きな力にほかならない。三里塚に連帯する動労千葉への統制処分は許されない。だがさらに私は労働者の新しい存在形態、これからの労働者闘争の展望というところからも、動労千葉支援の声をあげたいと思う。

### 三里塚農民と ともに進むことを

土方 鉄

(差別と闘う文化会議)

三里塚芝山連合空港反対同盟に結集する農民諸兄弟の、十三年間にわたる闘争に強い連帯の意志を表明し

ます。

また、三里塚闘争を支持・支援する労働組合をはじめ、いっさいの諸団体・個人に対し敬意をあらわします。

成田開港後も百日闘争をたたかい、さらに第二次百日闘争をたたかっている。三里塚農民の闘争に、同盟をむすんで進むことが、現在もとも望まれていきます。すなわち労働同盟を強化し、それを全国的規模のものに発展させねばなりません。それゆえに、三里塚農民の勝利も日本労働者階級の勝利も、また、あり得ません。千葉地本の闘いに期待します。

十二・一〇国民大集会の成功を心から祈り、不参加のお詫びを申し上げます。

### 農民・労働者の結合は 現状変革の生命線

村田 拓

(差別と闘う文化会議)

三里塚現地に、戸村一作さんを訪ねていったとき、もともと自分たちが警戒しおそれるのは権力であるよりも、闘う者たちの側の分裂だ、といっておられたのを忘れることができません。ことに闘う農民と労働者の結合は、三里塚闘争に勝利し、日本を変えていくに欠くことのできない生命線です。

動労千葉の労働者が三里塚の農民と手を結び、ジェット燃料輸送阻止に立ちあがったとき、ぼくは深い感動にうたれ、今もその結合が強められ、接続されることを祈るような思いで熱望しています。それにだれであれ分裂、また妨害をもちこむことは許せないばかりか、そうしないで欲しいと切に望むものです。

### 働くものの 本然の姿を

野田 真吉

(映画作家)

三里塚の方がたの闘いに動労千葉の方がたが深い連帯感を持ち、共にたたかっていることはまったく働くものの自然な行動だと思えます。

その自然な、また当然な行動を動労の大会で排除、抑圧しようという話を聞き、私はおどろいています。労働組合であるならば、むしろ、すんで連帯を表明し、共闘を推進するのが本然の姿だと思えます。

その意味で、私は一市民として、三里塚との共闘に骨身を砕いてたたかっている動労千葉の方がたに心からの敬意と支持を捧げるものです。

力いっぱい握手を送ります。

### 農民と農業を つぶすことはできない

野添 憲治

(農民作家)

私には前々から、三里塚の農民のたたかいは、日本の農民のたたかいだと考えてきました。いまでもそう思っています。その意味で、三里塚と共闘している動労千葉をつぶすことは、日本の農民をつぶすことにならざるべからず、農がほろんで栄えた国はありません。動労千葉のたたかいはつぶすことは、日本の農民や農業をつぶすことにつながります。頑張ってください。

### 闘いにつらぬかれた 人民の魂の砦

黒田 喜夫

(詩人)

三里塚農民と動労千葉労働者の連帯は、現日帝とその国家翼賛体制への、人民人間の自然と労働からつらぬかれる闘いの魂と実体をなす砦であり、これに身を挺する労働者を統制処分にするなどということは、人民たるもの一人ひとりにとって許せないことである。これほどの裏切りはどこにもないと思います。

### 廃港への闘いは 生命と生活を守る闘い

生越 忠

(和光大教授)

新東京国際空港の暫定パイプラインの建設工事にさいして発生した、地盤凝固剤による地下水汚染事件に関わったもの一人として、空港建設反対闘争を一貫してつづけてこられた多くの方がた、とりわけ、動労千葉地本のジェット燃料貨車輸送阻止闘争の最前線に立つて闘いつづけてこられた国鉄労働者のみなさんに、十二・一〇国民大集会が開かれるにあたって、心からの連帯のごあいさつをお送りしたいと思います。

無資源国であるうえ、世界の陸地の〇・三%の面積しかない日本が、分不相応に世界の原油生産量の約一%原油を買い占め、農漁業を犠牲にしながら鉱工業の発達による経済大国化・軍事大国化への途をひた走り

に走っている現状は、まことに憂慮にたえません。

浪費を促しながら、大量生産・大量消費をはかることによつてしか延命できない資本主義経済体制が、こんどもさらに続いていくならば、地球の破壊は目に見えており、それは人類の生存基盤の崩壊を意味するものにほかなりません。

このように考えれば、新東京国際空港の廃港へむけての闘いは、日本のみならず、全世界の人びとの生活と生命を守るための闘いであり、また、帝国主義国による資源の略奪・専有を許さないための闘いでもあります。

私も、これから、本格パイプラインの建設反対の闘いをおして、私なりに空港廃港へむけての闘いを進める所存です。あらゆる妨害を排して、ともに頑張ります。

### 腹の底からの 怒りをともにする

西 順蔵

(和光大教授)

もともと善良純粋で、経験を積むにしたがって思慮が深くなっている、と私が思っている青年がいました。彼は、大学を出ると三里塚に足を運び、やがて定住してらつきようにとりくんでいるようです。もう青年というよりは、そこで子どももできております。こんな人が身を打ちこむ、やはりそんな三里塚の闘争なんだと、いまさらに思いを深めておられます。

三里塚の人たちは、太陽の陽の降りそぐ大地にはたらしきかける、そういう人間の営みを直接に単純に、まっしぐらにやってきました。それをなんの相談もなしに、当然のことであるかのように、力づくで取りあげ

られるというのでは、腹の底からの怒りが起るの、あたりまえでしょう。

そして、ものに加工し、ものを運ぶ労働をする人たちが、ものをつくりだす三里塚のこの怒りに同調し、この怒りをともにするのは、この人たちが自分たちのいのちを生きようとするものである以上は、これも当然のことだと思えます。これは、人間の営み、文明の基につながることであります。

三里塚の人たちの運動の理念は、空論であったのは理念にもならない。それを実際にならしている人たち、反対同盟の人たちの現実の運動があつてこそ、理念も生きたものとなつていくのだ、と思えます。三里塚に生きるお百姓の運動をとおして、三里塚の運動を議論するのは空論であります。

### 人民解放への 背信は許されない

宮川 寅雄

(和光大教授)

三里塚の共闘は日本人民の解放にとつて、実に大切なための闘いです。この闘いの共闘と統一を乱すことは許されません。それは人民解放のたたかいに對する背信だからです。三里塚共闘で動労千葉地本は、忠実に勇敢にたたかってきました。共闘はセクトをこえてまもられ、強められなければならないと思います。動労千葉地本の階級的伝統を支持し擁護します。

### 日本労働運動の赤い炎

長須 祥行

(評論家)

動労千葉の三里塚闘争への積極的な参加と果敢な戦いは、まことに鮮烈であり、本来労働運動とは、いかなるものであるかをまざまざとみせてくれた。

考えてみれば、日本の労働運動が、階級性を失い、革命へのところざしを捨て去って久しい。そこにみられるのは、あくことなき労資協調路線であり、その運動は国家独占資本の利益のおごぼれにあやからうとする、さもしい物取り主義以外のなにものでもない。

かかる墮落しきった労働戦線のなかにあって、ひとり動労千葉が切りひらこうとする地平は、まぎれもなく日本の労働運動をあかあかと照らす炎である。しかし、この戦いの炎を、こともあろうにその親組合であるところの動労中央が、かきかかって消し去ろうとしている。これこそは労働運動の大義にもとる暴挙であり、なに人もこれを許してはならない。

今こそ私たちは、たぎるような熱い血潮をもって動労千葉の労働者と強く連帯しよう。

## 私たちが

## 叱咤するもの

砂田 弘

(児童文学者)

この十三年間、ジェット燃料輸送阻止闘争をはじめ、政府権力を相手に根強いたたかいは展開してきた動労千葉は、三里塚空港反対同盟とともに、私たち市民にとつてたまたかのシンボルである。資本の論理の前にもすれば屈服しそうになる私たちを、叱咤し激励してくれる存在でもありました。否、今でもそうです。それゆえに私は、今こそ動労千葉への全面的な支援を市民の皆さんに訴えたいと思います。

## 国家暴力を許せない

中村 敦夫

(俳 優)

天下周知の欠陥・「死に体空港」。それを承知で強引に開港させた国家の暴力を許すことはできない。廃港にむけて闘うことが正義でなくて、なんでありえようか。

## 反ファシズム人権闘争の不動の大黒柱

なかざわ しんきち

(歴史研究家)

三里塚闘争は反ファシズム人民大衆を地盤とする輝かしい人権闘争であり、動労千葉のたたかいはこの偉大な闘争を支える不動の大黒柱である。

三里塚農民の不退転の闘争は、この歴史的な労農共闘の成果である。こうした共闘体制の確立があつたればこそ、また三里塚闘争がたんに三里塚だけのたたかひにおわらず、全人民的な盛り上がりをもって今日をむかえたのである。それだけにまたこれが日本帝国主義陣営に与えた打撃は大きい。

三里塚の徹底弾圧を策す彼らが、まずその支柱の撤去を目指したのが今回の動労千葉の統制処分問題である。これこそ三里塚の孤立化と支援大衆の分断を狙う謀略であることは火を見るより明らかである。平和を願う人民大衆の立場から、統制処分紛争の結集エネルギーである十二・一〇国民大集会の成功を期す。

## 労働者階級の真の姿を見出す

谷川 茂二

(部落解放同盟千葉県連副委員長)

本日の集会にお招きいただきましたが、同盟支部建設の急務のために、アピトルであいさつにかえさせていただきます。私どもとしてうれしいのは、五月二十日の空港強行開港にもかかわらず、三里塚闘争はいぜん健在であり、逆に日々、空港公団をおいつめ、自民党政府を締めあげている、ということだ。

三里塚芝山連合空港反対同盟は、二月―三月の開港阻止決戦を最先頭で血を流してたたかひぬき、五月二十日以降も、第一次、第二次百日間闘争宣言を発し、完全廃港の展望をさしめし、われわれ被抑圧人民大衆を限りなく奮立たせております。

そして、三里塚空港は開港後、ますますその機能を低下させているではありませんか。ジェット燃料問題と騒音問題が、政府・空港公団をしめあげています。敵―権力はすでに三里塚空港の絶望を自分から暴露するように、羽田沖移転と福田退陣にふみきっています。

このように敵権力を向うにまわして、正々堂々と勝利の道を歩みつづけている三里塚反対同盟と、その闘いにわれわれは深い敬意を表明するものであります。この反対同盟を支えたものこそ、動労千葉をはじめとする労働者階級の力にほかなりません。とりわけ、動労千葉地本は組織をあげて、ジェット燃料輸送阻止・三里塚空港粉砕の「鉄路の闘い」に取りくまれ、いまだ弱小なわれわれ解同千葉県連をもっともよく支

え、狭山闘争に取りくまれてきました。ここに本来の真の労働者階級の姿を見いだすわけですね。

現在、動労千葉は「左」「右」の卑劣な挾撃に直面していますが、今後とも県内労働運動の最先頭をきつて闘いぬかれるよう心より支援しております。

労・農・水の三角同盟復権をかけて、われわれ解放同盟千葉県連も三里塚反対同盟、動労千葉とともに闘いぬく決意を表明しあいさつにかえます。

## 全国民に応え 労農の底力を

石田 宥全

(元衆議院議員・前全日農会長)

成田空港反対の最終段階をむかえて、動労の一部にまちがった考えで行動しておるものがあり、遺憾にたえませんが、これも大事のまえの小事として労農同盟の底力を結集し、全国民の要望にこたえ、断固粉砕のために全力投球を望んでやみません。

## 軍事空港の 土地取上げに絶対反対

遠藤 誠

(弁護士)

私がなぜ、今日、この三里塚闘争の大集会にきたか。それは私も成田空港には、絶対に反対だからであります。ひと握りの金持ちの外国旅行のために、先祖伝来の農民の土地を取り上げてはなりません。しかも、その空港が、有事のときには日本帝国主義者の軍事空港とされるのであれば、なおさらです。

したがって、この空港阻止の闘争をたたかった動労

千葉を動労本部の名において、除名しようとする動きにも、断固反対します。

ところで、成田空港をつぶすためには日本の国家権力を転覆させ、その権力をわれわれの手で奪取しなければなりません。ところが、われわれは今なお、権力を奪取できていない。それはなぜか。

それは日本ブルジョア階級に力に対する、われわれ革命勢力の力が、四分五裂となつていからであります。

ここで私は一つの歴史的事実を指摘したい。慶応二年一月まで同じく反幕勢力でありながら、長州と薩摩は殺し合いをしていました。ところが坂本竜馬の命をかけての調停の結果、慶応二年一月二〇日、薩長連合は成立し、ここに歴史は回転し、日本はこの日を境に討幕段階に入ったのです。そして、日本ブルジョア革命は成功したのであります。

昭和五三年における長州と薩摩、それを私は、中核の皆さんと華マルの諸君だと思つて。

こい願わくば、現代の徳川幕府である、日本自民党ブルジョア政府を転覆させ、国家権力をわれわれ日本プロレタリアートの手に奪取し、成田の軍事空港を農民の手にとり戻すために、ぜひとも、昭和における薩長連合をなしてあげていただきたい。

これが弁護士であり、仏教徒であり、かつマルキストである遠藤誠から、みなさんに対する切なるお願いなのであります。

三里塚闘争の勝利万歳!!

## 労農提携は

## 大衆運動の多年の願い

市村 玖一

(農民運動史研究家)

『万国の労働者よ、団結せよ』という言葉がありま

す。万国は無理だとしても、国内や県内くらいはそうあつて然るべきだと思ひますが、現実にはなかなかそうはいかないのでしょうか。

そればかりではなく、「排除の論理」によつて、労農提携にひびが入るようであつては労働大衆にとつて、このうえもない不幸なことと言わざるをえませ

ん。労働提携は、戦前からの大衆運動の願いでありました。しかしそれはいろいろな事情で実現困難であつたばかりでなく、農民組合自身が分裂―統合をくり返して、戦う力を弱め組合を弱体化させたことは歴史の教

えるところでありま

す。戦後、三里塚の農民闘争と動労との提携がすでに十年以上にわたつて成立し、わが国の労働運動史上に特筆すべき一頁を加えてきたのであります。しかし、最近

は動労内部の事情で、この労農提携にヒビが入ろうとしてい

るとのことであります。これは労働運動の将来にとつて、まことに憂うべく残念なことでありま

# 人民の巨大な火柱を消さず

北川 省一

三里塚の闘いは、いまの日本で農民と労働者とが、必死にスクラムを組んでたたかっている、ただ一つの巨大な火であって、他にはない。この火が消えたら日本はまっ暗になる。そのことをだれもが知らねばならない。

心ある大衆はたとえ声をなくとも、ひとしく遠くから近くから、この火を見失なうまいとしている。権力とのたたかいかいにおいて、労働者と農民が固く手を握るといことは、大変困難なことだ。その困難を克服して進んで、農民の手を握りにきた労働者には、農民だけではなく、ひろく私たちは熱い感激と拍手をおくってきた。それは権力による権力のための人民の土地収用を許すことができなかったからだ。

今もし、農民の手を握ろうとする労働者の手を奪おうとする者があるならば、彼らは人民の敵であること知らねばならない。

今こそ、すべての労働者・農民・市民・大衆の、その手は三里塚の農民のためにさしなげられなければならない。三里塚を権力から守るたたかいかいこそ、私たちの土地と生活を権力から守るための試金石に他ならぬからだ。

## 人間らしく生きるために

坂田 静子  
(長野県)

労働運動の目ざすところは、労働者階級および、それと共通の利害につながる諸階層の被抑圧大衆の解放にあるはずだ。その意味において、三里塚空港反対同盟の農民階級と連帯して勇敢にたたかっている労働者

三里塚の農民の皆さんが、農地を守りとおそうとされることは、人間が人間らしく生きるための基本的な要求であると思います。生きることを大切にするとその代表としてのたたかいです。

また、それを支援しつづけて来られた、動労千葉地本の方がたの働きを知り感動しました。これからいっそうの困難が予想されますが、どうか粘りつよく、希望をもって頑張ってください。

## 反対同盟と

### 固く手を結んで

岩淵 浩

査問委員会の設置は許すことができません。あらゆる統制処分の攻撃をはね返し、動労千葉のみならず、がんばって下さい。

三里塚反対同盟とかく手を結んで闘いぬきましよう。

## 労働者農民の共同性のために

山崎 謙  
(哲学者)

労働運動の目ざすところは、労働者階級および、それと共通の利害につながる諸階層の被抑圧大衆の解放にあるはずだ。その意味において、三里塚空港反対同盟の農民階級と連帯して勇敢にたたかっている労働者

千葉地本の行動は、日本の労働運動の鏡であります。私はこの尊敬すべき労働者たちの行動を、無条件で支援し、今後の共闘をかたく誓う者です。

労働者のなかには、労働組合の名を乱用して、千葉地本の闘争を直接に妨害し、あるいはこの闘争の支持者の私宅へ脅迫がましい電話をかけるなどの、間接妨害に奔走している者もあります。警察の手先になりさ

## 労働者の分断攻撃に怒りを覚える

大日向 勇  
(新潟県・農業)

人民の正義のたたかいかいである三里塚の不屈のたたかいを断固支持します。

三里塚のたたかいかいとそれに連帯する労働者に対しての分断や攻撃に心から怒りを感じます。動労千葉のみならず！ 処分攻撃に屈せず、がんばって下さい。

## 圧倒的な支持を確信して

伊藤 成彦  
(中央大学教授)

なんとかして統制違反にひっかけて、その既成事実をつくり上げようという動労本部のやり方は、組合員主義という点からみてもきわめてアンフェアである

断じて許すことはできません。

## 純なるもの真なるもの

平良 修  
(牧師)

拝啓 初めにお便りを差し上げます。

私は沖繩の農村のキリスト教会で牧師をしている者ですが、常日頃、三里塚の問題に深い関心をもち、空港反対同盟を中心とした闘争を陰ながら支援しております。十二月十日に空港反対の一大集会が開かれると聞き、このようなお便りを差し上げる気になりました。

動労車労組千葉地方本部傘下の皆様の勇気ある、かつ有効なお働きに対して、心から敬服しております。大きくところによりますと、動力車労組のなかで、千葉の皆様が大変苦境に立たされておられる由。組合の内部事情につきましては、部外者の私にはよくわかりません。一つはつきりしていることは、千葉の皆様のお働きが、このことよって弱体化されることがあるならば、それは空港反対闘争の前進のためには、まことに手痛い打撃となるだろうということです。

外にむかって、激しい闘いをするとき、内においてそれへの反動が生じることは世の常のようです。あまりにも純かつ真なるものをば、人の世はなかなか許さないものです。しかし頑張って下さい。最後まで勝利を信じて、信念に生きぬいて下さい。

沖繩の農村から、心からの声援をお送りします。 敬具

関川 幸 様

## 政府の代弁者に転落した組合

池田 博俊  
(沖繩大助教授)

動労千葉地本の方がたは、そうした既成事実のつくり上げにめげず、全国でさまざまな分野の運動を担っている人びとの圧倒的な支持が自分たちの方にあるのだ、ということに確信をもって、今まで貫いてきた運動の方向を、さらに動労内外で発揮されていかれんことを望みます。

いかなる根拠にもとづくものであれ、権力に抗しての人民の闘争を、自らの党派や組織の維持・拡大の目的のために犠牲にすることは、断じて筋のおとった論理ではない。

三里塚闘争に積極的に取りくむということが、労働組合の統制処分の理由になるというのであれば、そのような組織が、農民の土地を取りあげ、弾圧的に空港建設を強行した日本独占資本政府自民党の代弁機関に転落しきっていることを如実に物語っているのである。

## 原点にこだわりのつづけること

柳田 邦夫  
(ジャーナリスト)

今、痛感することは、すぎ去ったことなかで、大事なことに、こだわらなければならないということだ

## 真なる叫びを踏みにじるもの

斎藤 熏巨  
(福島市仏立宗信徒)

動労第一〇一回定期中央委員会において、動労千葉への統制処分のための査問委設置を聞き、怒りにたえませんが、残念ながら動労千葉支援・三里塚連帯国民大集会へ出席できなくなりましたことをおわびいたします。

わが国における労働運動史上、労農連帯という画期的な強力かつ真実なプロレタリアの叫びを踏みにじろうとする査問委設置に対し、その真意をはかりかね、わきあがる怒りで、これを激しく弾劾いたします。

反正義、反プロレタリアに埋めつくされる統制処分をわれわれは真のプロレタリアの意義にふんませ

真理に従えば  
力がある

佐々木悟史

(山梨教会牧師)

三里塚の闘いが正義のたまたかであることを確信している私たちは、動労千葉の連帯のはたらきを高く評価します。あらゆる障害に負けず、最後の日まで、共にがんばりましょう。

「真理に従えば、力がある」(新約聖書)

ともに手を  
組もう

陶山 義雄

(牧師)

動労千葉を支援し、三里塚闘争の勝利をかちとろう。労組は動労千葉にならって、三里塚農民と手を組もう。

日曜日は仕事のため参加できませんが、今後ともに闘いたいと思います。

妥協なき  
立場を貫き

佐藤 哲男

(福島バプティスト教会牧師)

動労千葉の三里塚闘争支援に期待します。あくまで

農民と労働者の  
闘いの希望

関沢 紀

(鹿島ジェット燃料輸送に反対する会代表)

動労千葉の闘いを、一つの指針として闘っている鹿島から、動労千葉支援・三里塚連帯十二・一〇国民大集会に結集された皆さんに連帯の挨拶をおくりします。

鹿島は、あいかわらず、ジェット燃料輸送列車が轟音を発して往き来し、パトカーと私服がうろうろし住民の生活をじゆうりんしています。ジェット燃料輸送の見返りが、住民生活の権利を奪うことであつたということが、私たち住民の前に、もはや明らかになっています。

そして、鹿島コンビナートの大企業の鹿島支配がさらに強まっていますが、動労千葉の労働者、三里塚芝山の農民の闘いを希望として、ともに頑張りたいと思

労農共闘の原則  
を曲げず

前田 俊彦

(三里塚空港廃港要求宣言の会代表)

労働組合運動における不動の原則は、たったの一人でも正当な理由によって闘うものがあればこれを擁護して全体がたたかかねばならぬのである。まして千四百名の動労千葉地本の労働者が、労農共闘の原則にしたがって三里塚闘争に連帯してジェット燃料輸送阻止の闘争に決起するという日本階級闘争史上画期的な快

三里塚空港によつてもたらされる病巣を退治することは、今後の日本の将来に欠かせないものと思ひます。そのためにも非妥協の態度を貫き闘つて欲しい。

戦いに共鳴できても参戦の難しい人もたくさんいます。そうしたおおくの人の期待をになつてがんばっていただきたいと思ひます。

一粒の麦、地に落ちて死なず。多くの実を結ぶべし。

「劇するもの」の  
連帯の想い

朝日奈尚行

(劇作家・俳優)

三里塚における農民、ならびに動労千葉の皆さんの不屈の闘いに、「劇するもの」の一人として、心からの連帯の意志を表明したいと思ひます。

現在、多くの演劇人たちは、手前勝手な観念的民衆論と、個的才能主義による特権思想の袋小路に安住しています。これは階級としての文化を助長させる以外の何ものでもありません。こういった状況をつきくずすには、まず「劇するもの」自らが、闘う民衆の一人であるという自覚に立ち、三里塚農民の明快な反権力思想と、生活におけるその実践に多くを学ばなければなりません。

三里塚の闘いは、単に空港反対運動にとどまらず、分断され、矮小化された反権力の意志を、改めて大きなひとつの流れへと組織するだけの力をもっていると考えます。近い将来、蜂起する民衆が立ち現われるなら、その先頭に立っているのは、まぎれもなく三里塚の農民であり、また動労千葉の皆さんであることは疑う余地がありません。

挙については、日本の全労働組合があつてこれに支援の態勢をかたむべきであるといわねばならない。にもかかわらず動労本部は三里塚闘争の階級性を否定し、これに共闘する千葉地本の幹部を統制処分にするという、誤というより犯罪的な決定をした。

日本の労働者階級は決してこれを許さないであろう。権力と資本に対して妥協のない闘争を宣言するわれわれは、動労本部の千葉地本幹部に対する統制処分を断固として弾劾する。

足元の腐敗を

許すことなく

桑原 重夫

(11・22在日韓国人留学生不当逮捕者を救済する会)

「十一・二二在日韓国人留学生不当逮捕事件」の対政府交渉と、その準備集會が連日行われるため、今回もこんな「メッセージ」という形で参加しかできないことをお許し下さい。画期的な規模をもって開かれた「十二・一〇国民大集会」の成功を、関西の地で確信いたします。

私にとって、今回の「統制処分」のための査問委員会の設置という動労中央の決定ほど、怒りを感じたことはありません。「労働組合」という階級闘争の前衛に立つべき組織が、自らも本当にたたかひ、また今日の日帝の侵略的暴挙ともつとも戦闘的にたたかう三里塚の農民と連帯する仲間に対して、激励するどころか、「統制」とか「除籍」とかで弾圧を加えるとは、なんということでしょうか。しかも、それが正当な論議による運動方針の採択ではなく、悪質なレッテルはり暴力によつて問題を隠蔽したところで論行された、ファシスト的暴挙であることを思うとき、許しが

燃えさかる  
炎を消さず

阿部 宗悦

(女川原発設置反対三町期成同盟会長)

「動労千葉支援・三里塚連帯国民大集会」に結集された同志の皆さんに連帯の挨拶を送ります。

われわれも反権力闘争を闘いぬく連帯をいっそう深める意味で、ぜひ参加すべきですが、東北電力の不当な十二月着工策動として、女川漁協臨時総会が急ぎ十二月十八日に予定され、現地闘争の取りくみで参加したしかねること残念です。

しかし、三里塚闘争と連帯し、全国の各戦線と連帯し、労働運動階級闘争の実践をおしてさらなる階級の労働運動の構築を展望する動労千葉の闘いと、この闘いへの支持はうねりとなってきています。

この燃えさきた炎はだれも消すことはできないであろう。この闘いの炎は三里塚が勝利し、全国各戦線が勝利し、動労千葉地本を頂点とする労働運動、階級闘争が高揚し、社会主義革命が達成しえたときまで止むことはないでしょう。

動労千葉頑張れ。三里塚闘争勝利。共にたたかひぬこう。

わが女川原発阻止闘争も、東北電力資本、行政権力一体化した、海路奪による原発建設着工を目するあらたな局面をむかえて、実力をもって断固阻止する闘いを、いっそう強固に闘いぬく決意をこめて連帯の挨拶をいたします。

たい憤りをおぼえます。

この暴挙と闘い、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争を支援し、三里塚空港反対同盟と連帯することなくして、日本の労働運動や階級闘争の将来はないと思ひます。関西でも、これと同じ集會を来年早々に計画しています。全体的な右傾化・反動化のなかで、特にそれを象徴する動労中央の姿勢に対して、断固とした抗議と批判を加えつたたかひっていきます。

それにしても、「組織」が反動的に腐敗すると恐ろしいものです。私たちの東京の仲間の小田原紀夫君からも報告があると思ひますが、私たちはキリスト教会のそんな姿勢に対して、十年来の闘争をくりひろげております。足もとのそんな腐敗を許すことが「動労中央」のような暴挙を許すことになると思ひます。朴政権と果敢にたたかっている韓国の学生や青年たちも、問題意識としてはまったく同じです。こんな連帯の輪がひろがって、戦闘的な運動が盛りあがりつつあることは心強いことです。あらゆる場所で、この闘いをひろげようではありませんか。

卑劣な策動を

破碎しなければ

田坂 暁人

(農民運動家)

三里塚空港廃港をめざして、今日まで、あらゆる困難をのりこえて闘いつづけてきた仲間の方がたに対し、心から感謝と激励の言葉をささげます。

とりわけ三里塚芝山の闘う農民と、かたく結合してあらゆる弾圧と分裂策動をはねのけてたたかってきた動労千葉の仲間に対し、心から支援をお送りいたします。



この、かたい結合をひき裂こうとする敵権力側の手先どもの、卑劣な策動に対しては、全国の同志、仲間たちが結束して、この野望を粉砕しなければなりません。

われわれは、いまこそ全国の労働者たちが階級的良心にたち直り、動労千葉の闘う仲間たちとたくスクラムを組んで、最後の勝利にむかって一致団結し、総力を結集して闘いぬかねばなりません。

そのみが三里塚闘争勝利への道であることを確信して、闘いぬきましょう。

## 不当な力を批判しつづける

春本 幸子

(兵庫スモンの会)

三里塚の闘う農民、労働者、学生のみならず、開港後のきびしい騒音等による健康破壊と闘いながら、二期工事着工実力阻止にむけて全力をあげておられる反対同盟および、支援のみならず共に私たちがたたかうことを決意しております。全ての人民の守りによって二期工事が着工されないことと信じております。

本日は、農民と共に闘う国鉄の労働者の方が多く参加されると聞いておりますが、このような人びとが、組織の統制という口実で、真の労働者と住民の連帯を潰されることがあつては断じてなりません。私たちはそのような不当な力を批判してゆくことを誓います。私たちキノホルム被害者は、福岡判決を逆手にとられ、和解の猛攻の波に押しよせられています。ついに神戸地裁で裁判長から和解勧告が出ました。そのため、本日の集会にうかがうこともできないのですが、

ますます深刻化させています。

政府は湾岸道路の一部開通により、いわゆる成田空港のアクセス問題は解決したかのような宣伝をしていますが、実はそうではなく、湾岸道路の本命である高速道路の建設は千葉県下において、始まったばかりであり、また住民の反対にあつて工事が始められないのが実情です。

千葉県・幕張地区の住民は湾岸道路計画の無謀さを訴え、公害審査会へ調停申立を申請したとかいっています。そして、真砂地区においても三万人の住民が、いままた公害審査会申立運動とともに、路線の変更、シエルトをかけるといった運動を起しています。

私たちが長い間、道路公害に反対し、公害道路建設に反対し、埋立地に公害企業の進出に反対し闘ってきました。公害審査会への調停申立でも幕張・真砂につづいて第三弾をうちこむ準備をすすめています。ある時は押しきられ、時に押しかえすという波状的闘いでありましたが、沿道住民十万人の健康と命を守るたたかいを続けていく覚悟です。

動労千葉の皆さんのあらゆる攻撃に反対する力強い運動に連帯の拍手を送りたいと思います。

## 裁くものこそ裁かれる

原 伊市

(生活と権利を守る市民の会)

逆立ちをしようと、まともに歩いている者が逆さまに見える。まさにそのとおりに、動労本部は、正しい階級的労働運動を断固すすめている千葉県本に対して、統制処分という……『裁く者こそ、裁かれる』とはこのことあります。自らたたかかわないこと自

私たちは、和解をこえて、加害企業の責任追及を継続して闘ってゆきたいと思っております。

どうぞお身体を大切にされてがんばってください。

## 正義にもとづく一体感を

佐藤 光政

(三里塚百万人動員長野県実行委員会代表世話人)

十数年にわたる三里塚の闘いの勝利を願ひ、老骨に鞭うちながら続けてきた何年かの年月。しかし強引に飛行機は飛んでいる。

権力の凶暴な支配、武装集団機動隊の力の過信のなかで、飛行機は飛んでも、三里塚の闘いと勝利はこれからだ。各野党や総評をはじめとする労働団体の、道を踏み迷っている姿が悲しく思われる。

そのなかで、三里塚の闘いと、長い年月をかけて一体となつて闘いつづけた動労千葉のみならずの正義の行動に心から感謝する。労農一体となつて正しい三里塚の闘いの連帯行動に対する動労本部の統制処分は、絶対に許さざる行為であると強く反対し、あくまでも良識ある判断にたつて、今後も労農同盟をいつそう強化し、三里塚闘争の最後の勝利をかちとろう。

## 高度成長の終末と闘いの進む道

横井 安友

(瀬戸内漁民会議議長)

資本の論理と工業の論理の結合体である資本主義も、重化学工業を中心とする高度成長期を最後に崩壊

体、反省すべきであるのに、あろうことか階級闘争を忠実に実践しつづける千葉県本を「処分」するとは、恥知らずとはこのことでありましょう。

私は信州の一農民であります。日本民族の誇りを背負う千葉県本皆さんの闘いの成功を祈り、敬意と支持を表明します。

## 欠陥空港は墓穴を掘る

寺沢 迪雄

(水戸平和問題懇談会)

農民の土地を取り上げ、独占資本に利益を提供しようという三里塚空港の建設が、いかに無謀なものであるかは、すでに証明済みで、多くの国民がよく知っています。

働く人びとの犠牲によって得られたこの教訓を無視して、またまた第二期工事を強行し、国際空港の欠陥を補おうということは、国際空港の墓穴を自ら掘り抜ける以外の何ものでもありません。

第二期工事に反対する勢力は反対同盟の人びとを中心に、さらに周辺住民に拡大しております。また、この闘いを支援する労働者・学生・市民はいつそう大きな勢力に伸びています。これは欠陥空港のもたらしたいろいろな災害が、反対勢力を大きくしたものです。

この勢力を無視して、何かと名目をつけて第二期工事を始めようとしても、私たちはこの工事を反対同盟の人びとと共に許すことはできません。

私たちが闘っている再処理工場、東海二号炉原発についても、自ら作った放射能の許容濃度の基準を無視し放出しているのが現状です。

こうした私たちの闘いと三里塚のたたかいは同じ性質

期に入ろうとして混乱のなかにあります。環境破壊という公害の積み重ねは、自由の名の下につくりだされた人間の心の荒廃と重なって、資本主義の生命とつながってききました。

崩壊期のなかでの闘いは、地獄の闘いかもしれせん。でも、この壁を破らなければ、われわれの生きる道はありません。どんな条件の下であれ、敵も味方も必死の闘いです。

動労千葉のみならずが、必勝の決意でつき進まれんことを期待し、勝ちぬくことを祈ります。いかなる困難であれ、次の時代は、われわれの闘いが、築くものであることを信じて下さい。共に闘いましょう。

## 公害・環境破壊と闘いつづける

井上千恵子

(若松谷津公害阻止協議会事務局長)

私は三里塚空港反対運動、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争を支持するものです。また、全国各地でたたかっている労働者、農民、市民、住民の反政府運動を支持します。

私たちは東京湾を囲む巨大な湾岸道路計画に反対し、そこから発生するあらゆる公害に反対し、住民の生活環境を守れ、という闘いを続けています。

湾岸道路は神奈川県横須賀から、東京の羽田、晴海、千葉県市川、船橋、千葉から木更津、富津の臨海・埋立地を結ぶ環状道路で、ほぼ全域にわたって低・中・高の計十四車線という計画であり、世界でも類をみない巨大道路です。モーターゼーションという言葉どおり、街中で車が氾濫し、車のために道路をつくり、道路ができれば車が増えるという悪循環が公害問題を

質のもので、共に勝利するまでたたか抜くことを誓って、連帯のあいさつといたします。

## 日本労働運動の命運をかけて

東大演習林職組

動労内反動分子が、三里塚・ジェット闘争を貫徹している動労千葉地本を、統制処分しようなどということは、日本労働運動史上極悪の反階級的大罪です。

日帝・支配階級による、有事立法・元号法制化攻撃を頂点とする侵略戦争に向けての反動が逆巻く時代に抗し、労働者階級人民が一致団結して闘わなければならないときに、闘う部隊の背後から襲ってくるこのような反動分子の跳梁を許しておくわけにはゆきません。三里塚反対同盟農民との労農連帯を基盤とした地平から、いま日本階級闘争の未来が雄々しく切り拓かれつつあります。その闘いの岩たる三里塚闘争と「一線を画せ」などという言辭は、反革命の紋章ともいべきものです。

動労千葉の闘いこそ、右傾化・翼賛化しつつある労働運動の革命的転換をかちとるものです。われわれは動労千葉と共に進む決意です！

## 支持と連帯と

## 闘いの真の勝利を

穂積 七郎

(弁護士・元衆議院議員)

すべての力を集め闘いに勝利することを期します。

## 大城 昌夫

(沖縄交通変更を考える住民会談)

動労中央の千葉地本に対する査問は正常なる労働運動に対する、ファッショの弾圧であり、民主主義を守る全人民への敵対行為である。政府・独占が有事立法の名のもとに、民主的法律体系を全面的に、軍事ファッショ体制にきりかえようとするのに相呼応するものであり、断固として、徹底的に粉碎しよう。

## 林 清継

(作家)

動労千葉のジェット燃料輸送阻止運動を全面的に支持し、不当弾圧の撤回を動労中央に切望してやみません。

## 伊藤 鉄東

(元山谷自立合同労組委員長)

「十二・一〇国民大集会」を断固として闘いぬこう。動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争を最後まで戦おう。

## 福岡 実一

(部落解放同盟愛媛県連委員長)

人面獣身、殺人鬼にひとしい革マルを追放することなくして、理にかなった人間の道はない。  
三里塚の闘いは、日本人民全体の闘いなのだ。

## 真屋 求

(厚木基地訴訟原告)

金取り集団に墮落し、働く者の地平を切りひらく責任と連帯を放棄する組合が続出するなかで、動労千葉の闘いは光輝きます。

敬愛と連帯を表明し、敢闘を期待します。

## 保田 秀樹

(沖縄県職労民生保険支部ゆうな学園分会書記長)

動労本部の不当な統制処分策動を絶対に許さず、反対同盟と共にがんばって下さい。私たちも沖縄において、千葉地本と反対同盟の不屈の労農共闘に学びたかっと思っています。

## 本郷 広平

(静岡大学助教授)

十二・一〇国民大集会が成功し、動労との共闘が実現することを期待する。

## 静岡大学教官有志

動労中央の一部反動分子による処分攻撃に断固とした反撃を加え、戦闘的労農同盟の発展のため、いっそう努力されるようお願いいたします。健闘を祈ります。

## 寄せられた檄電

### 自治労大阪市職

### 住吉区支部青年部有志

反動分子革マルの査問委員会設置弾劾。労農連帯をさらに強化し、共にたたかおう。

### 大阪北西地区実行委員会

十二・一〇闘争の大爆発をバネに、松崎一派追放・ジェット闘争勝利へつき進め。統制処分粉碎、労農同盟に栄えあれ。

# III 革マルを掃して 動労千葉を守ろう 動労千葉統制処分資料



動労千葉への査問委員会設置に抗議して動労中央委員会にかけつけた動労千葉と三里塚反対同盟(78年11月15日全専売会館)

ため、三里塚における反権力の闘いの展開は、いっそう大きく評価されることになる。

現在、日本人のなかで農民は、もともと戦闘化する存在だといつても事実には反しない。その農民の自衛を保障する条件はなんであるのか。それは農民の自主的な存在形態、すなわち自主的精神に立った自発的行動にほかならない。他から規制されない自主的行動こそが、農民にすぎない力を発揮させる。

本来、人民のなかの先進部分たる労働者が今日、必ずしもその任務を果す立場にないというのは、農民のばあいと異って、既に組織の、上からの規制で動くという点に、重大な原因をもつ、といえよう。他動的集団は一人ひとりの力を生かすきるものとはならないのだ。

それこれの思うとき、動労千葉の三里塚への連帯行動は、労組行動の再編ということからも注目される。上からの規制に對置される下からの自主行動、それは労働者の一人ひとりを活性化し、戦闘化させる道である。

いうまでもなく、動労千葉は三里塚闘争のきわめて大きな力にほかならない。三里塚に連帯する動労千葉への統制処分は許されたい。だがさらに私は労働者の新しい存在形態、これからの労働者闘争の展望というところからも、動労千葉支援の声をあげたいと思う。

### 三里塚農民と ともに進むことを

土方 鉄

(差別と闘う文化会議)

三里塚芝山連合空港反対同盟に結集する農民諸兄弟の、十三年間にわたる闘争に強い連帯の意志を表明し

ます。

また、三里塚闘争を支持・支援する労働組合をはじめ、いっさいの諸団体・個人に對し敬意をあらわします。

成田開港後も百日闘争をたたかい、さらに第二次百日闘争をたたかっている。三里塚農民の闘争に、同盟をむすんで進むことが、現在もつとも望まれていいます。すなわち労働同盟を強化し、それを全国的規模のものに発展させねばなりません。それゆえに、三里塚農民の勝利も日本労働者階級の勝利も、また、あり得ません。千葉地本の闘いに期待します。

十二・一〇国民大会の成功を心から祈り、不参加のお詫びを申し上げます。

### 農民・労働者の結合は 現状変革の生命線

村田 拓

(差別と闘う文化会議)

三里塚現地に、戸村一作さんを訪ねていったとき、もつとも自分たちが警戒しおそれるのは権力であるよりも、闘う者たちの側の分裂だ、といっておられたのを忘れることができません。ことに闘う農民と労働者との結合は、三里塚闘争に勝利し、日本を変えていくに欠くことのできない生命線です。

動労千葉の労働者が三里塚の農民と手を結び、ジェット燃料輸送阻止に立ちあがったとき、ぼくは深い感動にうたれ、今もその結合が強められ、接続されることを祈るような思いで熱望しています。それにだれであれ分裂、また妨害をもちこむことは許せないばかりか、そうしないで欲しいと切に望むものです。

### 働くものの 本然の姿を

野田 真吉

(映画作家)

三里塚の方がたの闘いに動労千葉の方がたが深い連帯感もち、共にたたかっていることはまったく働くものの自然な行動だと思えます。

その自然な、また当然な行動を動労の大会で排除、抑圧しようという話を聞き、私はおどろいています。労働組合であるならば、むしろ、すんで連帯を表明し、共闘を推進するのが本然の姿だと思えます。

その意味で、私は一市民として、三里塚との共闘に骨身を砕いてたたかっている動労千葉の方がたに心からの敬意と支持を捧げるものです。

力いっぱい握手を送ります。

### 農民と農業を

つぶすことはできない

野添 憲治

(農民作家)

私には前々から、三里塚の農民のたたかいは、日本の農民のたたかいだと考えてきました。いまでもそう思っています。その意味で、三里塚と共闘している動労千葉をつぶすことは、日本の農民をつぶすことにならざるにすぎません。農がほろんで栄えた国はありません。動労千葉のたたかいはつぶすことは、日本の農民や農業をつぶすことにつながります。頑張ってください。

### 闘いにつらぬかれた 人民の魂の砦

黒田 喜夫

(詩人)

三里塚農民と動労千葉労働者の連帯は、現日帝とその国家翼賛体制への、人民人間の自然と労働からつらぬかれる闘いの魂と実体をなす砦であり、これに身を挺する労働者を統制処分にするなどということは、人民たるもの一人ひとりにとって許せないことである。これほどの裏切りはどこにもないと思えます。

### 廃港への闘いは 生命と生活を守る闘い

生越 忠

(和光大教授)

新東京国際空港の暫定パイプラインの建設工事にさして発生した、地盤凝固剤による地下水汚染事件に關わったもの一人として、空港建設反対闘争を一貫してないつづけてこられた多くの方がた、とりわけ、動労千葉地本のジェット燃料貨車輸送阻止闘争の最前線に立って闘いつづけてこられた国鉄労働者のみなさんに、十二・一〇国民大会が開かれるにあたって、心からの連帯のあいさつをお送りしたいと思います。

無資源国であるうえ、世界の陸地の〇・三%の面積しかない日本が、分不相応に世界の原油生産量の約一%原油を買い占め、農漁業を犠牲にしながら鉱工業の発達による経済大国化・軍事大国化への途をひた走り

に走っている現状は、まことに憂慮にたえません。

浪費を促しながら、大量生産・大量消費をはかることによつてしか延命できない資本主義経済体制が、こんごもさらに続いていくならば、地球の破壊は目に見えており、それは人類の生存基盤の崩壊を意味するものにほかなりません。

このように考えれば、新東京国際空港の廃港へむけての闘いは、日本のみならず、全世界の人びとの生活と生命を守るための闘いであり、また、帝国主義国による資源の略奪・専有を許さないための闘いでもあり

ます。私も、これから、本格パイプラインの建設反対の闘いをおして、私なりに空港廃港へむけての闘いを進める所存です。あらゆる妨害を排して、ともに頑張ります。

### 腹の底からの 怒りをともにする

西 順蔵

(和光大教授)

もともと善良純粋で、経験を積むにしたがって思慮が深くなっている、と私が思っている青年がいました。彼は、大学を出ると三里塚に足を運び、やがて定住してらつきようにとりこんでいるようです。もう青年というよりは、そこで子どももできております。こんな人が身を打ちこむ、やはりそんな三里塚の闘争なんだと、いまさらに思いを深めております。

三里塚の人たちは、太陽の陽の降りそそぐ大地にはたらきかける、そういう人間の営みを直接に単純に、まっしぐらにやってきました。それをなんの相談もなしに、当然のことであるかのように、力づくで取りあげ

られるというのでは、腹の底からの怒りが起るの、あたりまえでしょう。

そして、ものに加工し、ものを運ぶ労働をする人たちが、ものをつくりだす三里塚のこの怒りに同調し、この怒りをともにするのは、この人たちが自分たちのいのちを生きようとするものである以上は、これも当りまえのことだと思えます。これは、人間の営み、文明の基につながることであります。

三里塚の人たちの運動の理念は、空論であったのでは理念にもならない。それを実際にならしている人たちは、反対同盟の人たちの現実の運動があつてこそ、理念も生きたものとなつていくのだ、と思えます。三里塚に生きるお百姓の運動をとりこえて、三里塚の運動を議論するのは空論であります。

### 人民解放への 背信は許されない

宮川 寅雄

(和光大教授)

三里塚の共闘は日本人の解放にとつて、実に大切なための闘いです。この闘いの共闘と統一を乱すことは許されません。それは人民解放のたたかいに對する背信だからです。三里塚共闘で動労千葉地本は、忠実に勇敢にたたかってきました。共闘はセクトをこえてまもられ、強められなければなりません。動労千葉地本の階級的伝統を支持し擁護します。

### 日本労働運 動の赤い炎

長須 祥行

(評論家)

「動労千葉の三里塚闘争への積極的な参加と果敢な戦いは、まことに鮮烈であり、本来労働運動とは、いかなるものであるかをまざまざとみせてくれた。考えてみれば、日本の労働運動が、階級性を失い、革命へのところざしを捨てて久しい。そこにみられるのは、あくことなき労資協調路線であり、その運動は国家独占資本の利益のおこぼれにあやかろうとする、さもしい物取り主義以外のなにものでもない。かかる墮落しきった労働戦線のなかであって、ひとり動労千葉が切りひらこうとする地平は、まぎれもなく日本の労働運動をあかあかと照らす炎である。しかし、この戦いの炎を、こともあろうにその親組合であるところの動労中央が、かさにかかって消し去ろうとしている。これこそは労働運動の大義にもとる暴挙であり、なに人もこれを許してはならない。」

今こそ私たちは、たぎるような熱い血潮をもって動労千葉の労働者と強く連帯しよう。

## 私たちが叱咤するもの

砂田 弘  
(児童文学者)

この十三年間、ジェット燃料輸送阻止闘争をはじめ、政府権力を相手に根強いたたかいを展開してきた動労千葉は、三里塚空港反対同盟とともに、私たち市民にとってたまたかのシンボルである。資本の論理の前にもすれば屈服しそうになる私たちを、叱咤し激励してくれる存在でもありました。否、今でもそうです。それゆえに私は、今こそ動労千葉への全面的な支援を市民の皆さんに訴えたいと思います。

## 国家暴力を許せない

中村 敦夫  
(俳 優)

天下周知の欠陥、「死に体空港」。それを承知で強引に開港させた国家の暴力を許すことはできない。廃港にむけて闘うことが正義でなくて、なんでありえようか。

## 反ファシズム人権闘争の不動の大黒柱

なかざわ しんきち  
(歴史研究家)

三里塚闘争は反ファシズム人民大衆を地盤とする輝かしい人権闘争であり、動労千葉のたたかいはこの偉大な闘争を支える不動の大黒柱である。

三里塚農民の不退転の闘争は、この歴史的な労働闘争の成果である。こうした共闘体制の確立があったればこそ、また三里塚闘争がたんに三里塚だけのたたかいはおわらず、全人民的な盛り上がりをもって今日をむかえたのである。それだけにまたこれが日本帝国主義陣営に与えた打撃は大きい。

三里塚の徹底弾圧を策す彼らが、まずその支柱の撤去を目指したのが今回の動労千葉の統制処分問題である。これこそ三里塚の孤立化と支援大衆の分断を狙う謀略であることは火を見るより明らかである。平和を願う人民大衆の立場から、統制処分紛争の結集エネルギーである十二・一〇国民大集会の成功を期す。

## 労働者階級の真の姿を見出す

谷川 茂二  
(部落解放同盟千葉県連副委員長)

本日の集会にお招きいただきましたが、同盟支部建設の急務のために、アピールであいさつにかえさせていただきます。私どもとしてうれしいのは、五月二十日の空港強行開港にもかかわらず、三里塚闘争はいぜん健在であり、逆に日々、空港公団をおいつめ、自民党政府を締めあげている、ということだ。

三里塚芝山連合空港反対同盟は、二月―三月の開港阻止決戦を最先頭で血を流してたたかひぬき、五月二十日以降も、第一次、第二次百日間闘争宣言を発し、完全廃港の展望をさしめし、われわれ被抑圧人民大衆を限りなく奮いたたせております。

そして、三里塚空港は開港後、ますますその機能を低下させているではありませんか。ジェット燃料問題と騒音問題が、政府・空港公団をしめあげています。敵―権力はすでに三里塚空港の絶望を自分から暴露するように、羽田沖移転と福田退陣にふみきっています。

このように敵権力を向うにまわして、正々堂々と勝利の道を歩みつつけている三里塚反対同盟と、その闘いにわれわれは深い敬意を表明するものであります。この反対同盟を支えたものこそ、動労千葉をはじめとする労働者階級の力にほかなりません。とりわけ、動労千葉地本は組織をあげて、ジェット燃料輸送阻止・三里塚空港粉砕の「鉄路の闘い」に取りくまれ、いまだ弱小なわれわれ解同千葉県連をもっとよく支

え、狭山闘争に取りくまれてきました。ここに本来の真の労働者階級の姿を見いだすわけです。

現在、動労千葉は「左」「右」の卑劣な挾撃に直面していますが、今後とも県内労働運動の最先頭をきって闘いぬかれるよう心より支援しております。

## 全国民に応え 労農の底力を

石田 宥全  
(元衆議院議員・前全日農会長)

成田空港反対の最終段階をむかえて、動労の一部にまちがった考えで行動しておるものがあり、遺憾にたえません。これも大事のまえの小事として労農同盟の底力を結集し、全国民の要望にこたえ、断固粉砕のために全力投球を望んでやみません。

## 軍事空港の土地取上げに絶対反対

遠藤 誠  
(弁護士)

私かなぜ、今日、この三里塚闘争の大集会にきたか。それは私も成田空港には、絶対に反対だからであります。ひと握りの金持ちの外国旅行のために、先祖伝来の農民の土地を取り上げてはなりません。しかも、その空港が、有事のときには日本帝国主義者の軍事空港とされるのであれば、なおさらです。したがって、この空港阻止の闘争をたたかった動労

千葉を動労本部の名において、除名しようとする動きにも、断固反対します。

ところで、成田空港をつぶすためには日本の国家権力を転覆させ、その権力をわれわれの手で奪取しなければなりません。ところが、われわれは今なお、権力を奪取できていない。それはなぜか。それは日本ブルジョア階級に對する、われわれ革命勢力の力が、四分五裂となっているからであります。

ここで私は一つの歴史的事実を指摘したい。慶応二年一月まで同じく反幕勢力でありながら、長州と薩摩は殺し合いをしていました。ところが坂本竜馬の命をかけての調停の結果、慶応二年一月二〇日、薩長連合は成立し、ここに歴史は回転し、日本はこの日を境に討幕段階に入ったのです。そして、日本ブルジョア革命は成功したのであります。

昭和五三年における長州と薩摩、それを私は、中核の皆さんと革マルの諸君だと思ふ。こい願わくば、現代の徳川幕府である、日本自民党ブルジョア政府を転覆させ、国家権力をわれわれ日本プロレタリアートの手に奪取し、成田の軍事空港を農民の手にとり戻すために、ぜひとも、昭和における薩長連合をなしてあげていただきたい。これが弁護士であり、仏教徒であり、かつマルキストである遠藤誠から、みなさんに対する切なるお願いなのであります。

三里塚闘争の勝利万歳!!

## 労農提携は

## 大衆運動の多年の願い

市村 玖一  
(農民運動史研究家)

戦後、三里塚の農民闘争と動労との提携がすでに十年以上にわたって成立し、わが国の労働運動史上に特筆すべき一頁を加えてきたのであります。しかし、最近近は動労内部の事情で、この労農提携にヒビが入ろうとしているとのことであります。これは労働運動の将来にとって、まことに憂うべく残念なことでありま

す。「万国の労働者よ、団結せよ」という言葉がありました。万国は無理だとしても、国内や県内くらいは、さうあつて然るべきだと思ひますが、現実にはなかなかさうはいかないのでしょうか。

そればかりではなく、「排除の論理」によって、労農提携にひびが入るようであつては労働大衆にとつて、このうえもない不幸なことだと言わざるをえませ

ん。労農提携は、戦前からの大衆運動の願いでありました。しかしそれはいろいろの事情で実現困難であつたばかりでなく、農民組合自身が分裂―統合をくり返して、戦う力を弱め組合を弱体化させたことは歴史の教えるところでありま

す。戦後、三里塚の農民闘争と動労との提携がすでに十年以上にわたって成立し、わが国の労働運動史上に特筆すべき一頁を加えてきたのであります。しかし、最近近は動労内部の事情で、この労農提携にヒビが入ろうとしているとのことであります。これは労働運動の将来にとって、まことに憂うべく残念なことでありま

す。新潟県福島潟干拓にもなる農民運動において、農民組合をはじめ労働組合の熱烈な支援によって、ある成果をあげたことは、周知のことです。団結は勝利への最大の武器であります。すでに多くの学者、識者が指摘されているように、大衆運動成立のためには小異を捨てて大同に付き、やたらに「排除の論理」という兇器の使用をつしめ、一歩一歩前進されんことを希うものであります。

# 人民の巨大な火柱を消さず

北川 省一

三里塚の闘いは、いまの日本で農民と労働者が、必死にスクラムを組んでたたかっている、ただ一つの巨大な火であって、他にはない。この火が消えたら日本はまっ暗になる。そのことをだれもが知らねばならない。

心ある大衆はたとえ声をなくとも、ひとしく遠くから近くから、この火を見失なうまいとしている。権力とのたたかいかいにおいて、労働者と農民が固く手を握るといふことは、大変困難なことだ。その困難を克服して進んで、農民の手を握りにきた労働者には、農民だけではなく、ひろく私たちが熱い感激と拍手をおくってきた。それは権力による権力のための人民の土地収用を許すことができなかったからだ。

今もし、農民の手を握ろうとする労働者の手を奪おうとする者があるならば、彼らは人民の敵であること知らねばならない。

今こそ、すべての労働者・農民・市民・大衆の、その手は三里塚の農民のためにさしおされなければならない。三里塚を権力から守るたたかひこそ、私たちの土地と生活を権力から守るための試金石に他ならぬからだ。

## 人間らしく生きるために

坂田 静子

(長野県)

と思います。

動労千葉地本の方がたは、そうした既成事実のつくり上げにめげず、全国でさまざまな分野の運動を担っている人びとの圧倒的な支持が自分たちの方にあるのだ、ということに確信をもって、今まで貫いてきた運動の方向を、さらに動労内外で発揮されていかれんことを望みます。

## 政府の代弁者に転落した組合

池田 博俊

(沖縄大助教授)

いかなる根拠にもとづくものであれ、権力に抗しての人民の闘争を、自らの党派や組織の維持・拡大の目的のために犠牲にすることは、断じて筋のおつた論理ではない。

三里塚闘争に積極的に関与しつづけることが、労働組合の統制処分の理由になるというのであれば、そのような組織が、農民の土地を取りあげ、弾圧的に空港建設を強行した日本独占資本に政府自民党の代弁機関に転落しきつてゐることを如実に物語っているのである。

## 原点にこだわりのつづけること

柳田 邦夫

(ジャーナリスト)

今、痛感することは、すぎ去つたことなかで、大事なことに、こだわらなければならないということだ。

三里塚の農民の皆さんが、農地を守りとおそうとされることは、人間が人間らしく生きるための基本的な要求であると思います。生きることを大切にする人びとの代表としてのたたかひです。

また、それを支援しつづけて来られた、動労千葉地本の方がたの働きを知り感動しました。これからのいっそうの困難が予想されますが、どうか粘りつよく、希望をもって頑張ってください。

私は原発に反対していますが、自分の持場で努力してゆきます。

## 反対同盟と固く手を結んで

岩淵 浩

査問委員会の設置は許すことができません。あらゆる統制処分の攻撃をはね返し、動労千葉のみならず、がんばって下さい。

三里塚反対同盟とたく手を結んで闘いぬきましよう。

## 労働者農民の共同性のために

山崎 謙

(哲学者)

労働運動の目ざすところは、労働者階級および、それと共通の利害につながる諸階層の被抑圧大衆の解放にあるはずだ。その意味において、三里塚空港反対同盟の農民階級と連帯して勇敢にたたかっている動労

す。

日本は戦争に敗れた。敗れたあとも、すこしも責任をとろうとしないリーダーたちで満ちている。腹を切つて、責任をとった人たちは、大半の人間たちは、平然として生き度衣胞食しているのです。

三里塚、動労千葉の闘う仲間たちは、そういう風向きに徹底して反対する頑固な人間たちでいっばいです。あくまでも過去の原点にこだわりのつづける。反戦、平和、自由のための戦いは、頑固でなければ持ちつづけれない重さを持つていっていると思います。

戸村一作委員長をはじめ、決して若くない三里塚の先輩たちに、どうか身体を大事にして、頑固に、あくまでも頑固にねばりつづけてほしい。私も、えらそいなことをいう気はないが、一歩も引く気はないということ、訴えたいと思います。

## 真なる叫びを踏みにじるもの

齋藤 熏巨

(福島市仏立宗信徒)

動労第一〇一回定期中央委員会において、動労千葉への統制処分のための査問委設置を聞き、怒りにたえませんが、残念ながら動労千葉支援・三里塚連帯国民大会へ出席できなくなりましたことをおわびいたします。

わが国における労働運動史上、労農連帯という画期的な強力かつ真実なプロレタリアの叫びを踏みにじろうとする査問委設置に対し、その真意をはかりかね、わきあがる怒りで、これを激しく弾劾いたします。

反正義、反プロレタリアに埋めつくされる統制処分をわれわれは真のプロレタリアの意義にふんまえ、

千葉地本の行動は、日本の労働運動の鏡であります。私はこの尊敬すべき労働者たちの行動を、無条件で支援し、今後の共闘をかたく誓う者です。

労働者のなかには、労働組合の名を乱用して、千葉地本の闘争を直接に妨害し、あるいはこの闘争の支持者の私宅へ脅迫がましい電話をかけるなどの、間接妨害に奔走している者もあります。警察の手先になりさがつた、このような腐敗分子とたたかひもまた、私どもに課せられた大事な任務だと信じます。今日ここに参集された皆さんと同志的に手をとりあつて、大きな前途へむかつて前進しましょう。

## 労働者の分断攻撃に怒りを覚える

大日向 勇

(新潟県・農業)

人民の正義のたたかひである三里塚の不屈のたたかひを断固支持します。

三里塚のたたかひとそれに連帯する労働者に対しての分断や攻撃に心から怒りを感じます。動労千葉のみならず、処分攻撃に屈せず、がんばって下さい。

## 圧倒的な支持を確信して

伊藤 成彦

(中央大教授)

なんとかして統制違反にひっかけて、その既成事実をつくり上げようという動労本部のやり方は、組合民主主義という点からみてもきわめてアンフェアである

断じて許すことはできません。

## 純なるもの真なるもの

平良 修

(牧師)

拝啓 初めにお便りを差し上げます。

私は沖縄の農村のキリスト教会で牧師をしている者ですが、常日頃、三里塚の問題に深い関心をもち、空港反対同盟を中心とした闘争を陰ながら支援しております。十二月十日に空港反対の一大集会が開かれると聞き、このようなお便りを差し上げる気になりました。

動力車労組千葉地本本部傘下の皆様の勇氣ある、かつ有効なお働きに対して、心から敬服しております。きくところによりますと、動力車労組のなかで、千葉の皆様が大変苦境に立たされておられる由。組合の内部事情につきましては、部外者の私にはよくわかりません。一つはつきりしていることは、千葉の皆様のお働きが、このことよって弱体化されることがあるならば、それは空港反対闘争の前進のためには、まことに手痛い打撃となるだろうということです。

外にむかつて、激しい闘いをするとき、内においてそれへの反動が生じることが世の常のようです。あまりにも純かつ真なるものをば、人の世はなかなか許さないものですね。しかし頑張ってください。最後まで勝利を信じて、信念に生きぬいて下さい。

沖縄の農村から、心からの声援をお送りします。

関川 幸 様

敬具

真理に従えば  
力がある

佐々木悟史

(山梨教会牧師)

三里塚の闘いが正義のたたかいであることを確信している私たちは、動労千葉の連帯のはたらきを高く評価します。あらゆる障害に負けず、最後の日まで、共にがんばりましょう。

「真理に従えば、力がある」(新約聖書)

ともに手を  
組もう

陶山 義雄

(牧師)

動労千葉を支援し、三里塚闘争の勝利をかちとろう。労組は動労千葉にならって、三里塚農民と手を組もう。

日曜日は仕事のため参加できませんが、今後ともに闘いたいと思います。

妥協なき  
立場を貫き

佐藤 哲男

(福島ペンテコステ教会牧師)

動労千葉の三里塚闘争支援に期待します。あくまで

農民と労働者の  
闘いの希望

関沢 紀

(鹿島ジェット燃料輸送に反対する会代表)

動労千葉の闘いを、一つの指針として闘っている鹿島から、動労千葉支援・三里塚連帯十二・一〇国民大集会に結集された皆さんに連帯の挨拶をおくりします。

鹿島は、あいかわらず、ジェット燃料輸送列車が轟音を発して往き来し、パトカーと私服がうろろうし住民の生活をじゅうりんしています。ジェット燃料輸送の見返りが、住民生活の権利を奪うことであつたというところが、私たち住民の前に、もはや明らかになっています。

そして、鹿島コンビナートの大企業の鹿島支配がさらに強まっていますが、動労千葉の労働者、三里塚芝山の農民の闘いを希望として、ともに頑張りたと思っています。

労農共闘の原則  
を曲げず

前田 俊彦

(三里塚空港廃港要求宣言の会代表)

労働組合運動における不動の原則は、たつたの一人でも正当な理由によつて闘うものがあればこれを擁護して全体がたたかねばならぬのである。まして千四百名の動労千葉地本の労働者が、労農共闘の原則にしたがつて三里塚闘争に連帯してジェット燃料輸送阻止の闘争に決起するという日本階級闘争史上画期的な快

三里塚空港によつてもたらされる病巣を退治することは、今後の日本の将来に欠かせないものと思ひます。そのためにも非妥協の態度を貫き闘つて欲しい。

戦いに共鳴できても参戦の難しい人もたくさんいます。そうしたおおくの人の期待をになつてがんばっていただきたいと思ひます。

一粒の麦、地に落ちて死なず。多くの実を結ぶべし。

「劇するもの」の  
連帯の想ひ

朝日奈尚行

(劇作家・俳優)

三里塚における農民、ならびに動労千葉の皆さんの不屈の闘いに、「劇するもの」の一人として、心からの連帯の意志を表明したいと思ひます。

現在、多くの演劇人たちは、手前勝手な観念的民衆論と、個的才能主義による特権思想の袋小路に安住して行きます。これは階級としての文化を助長させる以外の何ものでもありません。こういった情況をつきくずすには、まず「劇するもの」自らが、闘う民衆の一人であるという自覚に立ち、三里塚農民の明快な反権力思想と、生活におけるその実践に多くを学ばなければなりません。

三里塚の闘いは、単に空港反対運動にとどまらず、分断され、矮小化された反権力の意志を、改めて大きなひとつの流れへと組織するだけの力をもつていてと考へます。近い将来、蜂起する民衆が立ち現われるなら、その先頭に立っているのは、まぎれもなく三里塚の農民であり、また動労千葉の皆さんであることは疑う余地がありません。

挙については、日本の全労働組合があつてこれに支援の態勢をかたむべきであるといわねばならない。にもかかわらず動労本部は三里塚闘争の階級性を否定し、これに共闘する千葉地本の幹部を統制処分にするという、誤といふより犯罪的な決定をした。

日本の労働者階級は決してこれを許さないであろう。権力と資本に対して妥協のない闘争を宣言するわれわれは、動労本部の千葉地本幹部に対する統制処分を断固として弾劾する。

足元の腐敗を  
許すことなく

桑原 重夫

(11・22在日韓国人留学生不当逮捕者を救済する会)

「十一・二二在日韓国人留学生不当逮捕事件」の対政府交渉と、その準備集会在連日行われるため、今回もこんな「メッセージ」という形で参加しかできないことをお許し下さい。画期的な規模をもって開かれた「十二・一〇国民大集会」の成功を、関西の地で確信いたします。

私にとつて、今回の「統制処分」のための査問委員会の設置という動労中央の決定ほど、怒りを感じたことはありません。「労働組合」という階級闘争の前衛に立つべき組織が、自らも本当にたたかひ、また今日の日帝の侵略的暴挙ともつとも戦闘的にたたかう三里塚の農民と連帯する仲間に対して、激励するどころか、「統制」とか「除籍」とかで弾圧を加えるとは、なんということでしょうか。しかも、それが正当な論議による運動方針の採択ではなく、悪質なレッテルはり暴力によつて問題を隠蔽したところで強行された、ファシスト的暴挙であることを思うとき、許しが

燃えさかる  
炎を消さず

阿部 宗悦

(女川原発設置反対三町期成同盟会会長)

「動労千葉支援・三里塚連帯国民大集会」に結集された同志の皆さんに連帯の挨拶を送ります。

われわれも反権力闘争を闘いぬく連帯をいっそう深める意味で、ぜひ参加すべきですが、東北電力の不当な十二月着工策動として、女川漁協臨時総会が急ぎ十二月十八日に予定され、現地闘争の取りくみで参加したかねること残念です。

しかし、三里塚闘争と連帯し、全国の各戦線と連帯し、労働運動階級闘争の実践をおしてさらなる階級の労働運動の構築を展望する動労千葉の闘いと、この闘いへの支持はうねりとなってきています。

この燃えさかた炎はだれも消すことはできないであろう。この闘いの炎は三里塚が勝利し、全国各戦線が勝利し、動労千葉地本を頂点とする労働運動、階級闘争が高揚し、社会主義革命が達成しえたときまで止むことはないでしょう。

動労千葉頑張れ。三里塚闘争勝利。共にたたかひぬこう。

わが女川原発阻止闘争も、東北電力資本、行政権力一体化した、海路奪による原発建設着工を目するあらたな局面をむかえて、実力をもつて断固阻止する闘いを、いっそう強固に闘いぬく決意をこめて連帯の挨拶といたします。

たい憤りをおぼえます。

この暴挙と闘い、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争を支援し、三里塚空港反対同盟と連帯することなくして、日本の労働運動や階級闘争の将来はないと思ひます。関西でも、これと同じ集会在来年早々に計画して行きます。全体的な右傾化・反動化のなかで、特にそれを象徴する動労中央の姿勢に対して、断固とした抗議と批判を加えつたたかつていきます。

それにしても、「組織」が反動的に腐敗すると恐ろしいものです。私たちの東京の仲間小田原紀夫君からも報告があると思ひますが、私たちはキリスト教会のそんな姿勢に対して、十年來の闘争をくりひろげております。足もとのそんな腐敗を許すことが「動労中央」のような暴挙を許すことになると思ひます。朴政権と果敢にたたかっている韓国の学生や青年たちも、問題意識としてはまったく同じです。こんな連帯の輪がひろがって、戦闘的な運動が盛りあがりつつあることは心強いことです。あらゆる場所で、この闘いをひろげようではありませんか。

卑劣な策動を  
破碎しなければ

田坂 暁人

(農民運動家)

三里塚空港廃港をめざして、今日まで、あらゆる困難をのりこえて闘いつづけてきた仲間の方がたに對し、心から感謝と激励の言葉をささげます。

とりわけ三里塚芝山の闘う農民と、かたく結合してあらゆる弾圧と分裂策動をはねのけてきたたかつてきた動労千葉の仲間に対し、心から支援をお送りいたします。

この、かたい結合をひき裂こうとする敵権力側の手先どもの、卑劣な策動に対しては、全国の同志、仲間たちが結束して、この野望を粉砕しなければなりません。

われわれは、いまこそ全国の労働者たちが階級的良心にたち直り、動労千葉の闘う仲間たちとかたくスクラムを組んで、最後の勝利にむかって一致団結し、総力を結集して闘いぬかねばなりません。

そのみが三里塚闘争勝利への道であることを確信して、闘いぬきましよう。

## 不当な力を批判しつづける

春本 幸子

(兵庫スモンの会)

三里塚の闘う農民、労働者、学生のみならず、

開港後のきびしい騒音等による健康破壊と闘いながら、二期工事着工実力阻止にむけて全力をあげておられる反対同盟および、支援のみならず共に私たちがたたかろうことを決意しております。全ての人民の守りによって二期工事が着工されないことと信じております。

本日は、農民と共に闘う国鉄の労働者の方が多く参加されると聞いておりますが、このような人びとが、組織の統制という口実で、真の労働者と住民の連帯を潰されることがあつては断じてなりません。私たちがそのような不当な力を批判してゆくことを誓います。

私たちキノホルム被害者は、福岡判決を逆手にとられ、和解の猛攻の波に押しよせられています。ついに神戸地裁で裁判長から和解勧告が出ました。そのため、本日の集会にうかがうこともできないのですが、

ますます深刻化させています。

政府は湾岸道路の一部開通により、いわゆる成田空港のアクセス問題は解決したかのような宣伝をしていますが、実はそうではなく、湾岸道路の本命である高速道路の建設は千葉県下において、始まったばかりであり、また住民の反対にあつて工事が始められないのが実情です。

千葉市・幕張地区の住民は湾岸道路計画の無謀さを訴え、公害審査会へ調停申立を申請したとかいっています。そして、真砂地区においても三万人の住民が、いままた公害審査会申立運動とともに、路線の変更、シエルトをかけるといった運動を起しています。

私たちも長い間、道路公害に反対し、公害道路建設に反対し、埋立地に公害企業の進出に反対し闘ってきました。公害審査会への調停申立でも幕張・真砂について第三弾をうちこむ準備をすすめています。ある時は押しきれられ、時に押しかえすという波状的闘いがありますが、沿道住民十万人の健康と命を守るたたかいを続けていく覚悟です。

動労千葉の皆さんのあらゆる攻撃に反対する力強い運動に連帯の拍手を送りたいと思います。

## 裁くものこそ

## 裁かれる

原 伊市

(生活と権利を守る市民の会)

逆立ちをすると、まともに歩いてくる者が逆さまに見える。まさにそのとおりに、動労本部は、正しい階級的労働運動を断固すすめている千葉地本に対して、統制処分という……『裁く者こそ、裁かれる』とはこのことでもあります。自らがたたかわないこと自

私たちは、和解をこえて、加害企業の責任追及を継続して闘ってゆきたいと思っております。

どうぞお身体を大切にされてがんばってください。

## 正義にもとづく 一体感を

佐藤 光政

(三里塚百万人動員長野県実行委員会代表世話人)

十数年にわたる三里塚の闘いの勝利を願い、老骨に鞭うちながら続けてきた何年かの年月。しかし強引に飛行機は飛んでいる。

権力の凶暴な支配、武装集団機動隊の力の過信のなかで、飛行機は飛んでも、三里塚の闘いと勝利はこれからだ。各野党や総評をはじめとする労働団体の、道を踏み迷っている姿が悲しく思われる。

そのなかで、三里塚の闘いと、長い年月をかけて一体となつて闘いつづけた動労千葉のみならずの正義の行動に心から感謝する。労働一体となつて正しい三里塚の闘いの連帯行動に対する動労本部の統制処分は、絶対に許さざる行為であると強く反対し、あくまでも良識ある判断にたつて、今後も労働同盟をいつそう強化し、三里塚闘争の最後の勝利をかちとろう。

## 高度成長の終末と 闘いの進む道

横井 安友

(瀬戸内漁民会議議長)

資本の論理と工業の論理の結合体である資本主義も、重化学工業を中心とする高度成長期を最後に崩壊

体、反省すべきであるのに、あろうことか階級闘争を忠実に実践しつづける千葉地本を「処分」するとは、恥知らずとはこのことでありましょう。

私は信州の一農民ではありますが、日本民族の誇りを背負う千葉地本の皆さんの闘いの成功を祈り、敬意と支持を表明します。

## 欠陥空港は 墓穴を掘る

寺沢 迪雄

(水戸平和問題懇談会)

農民の土地を取り上げ、独占資本に利益を提供しようという三里塚空港の建設が、いかに無謀なものであるかは、すでに証明済みで、多くの国民がよく知っています。

働く人びとの犠牲によつて得られたこの教訓を無視して、またまた第二期工事を強行し、国際空港の欠陥を補おうということは、国際空港の墓穴を自ら掘り掘る以外の何ものでもありません。

第二期工事に反対する勢力は反対同盟の人びとを中心に、さらに周辺住民に拡大しております。また、この闘いを支援する労働者・学生・市民はいつそう大きな勢力に伸びています。これは欠陥空港のもたらしたいろいろの災害が、反対勢力を大きくしたものです。

この勢力を無視して、何かと名目をつけて第二期工事を始めようとしても、私たちはこの工事を反対同盟の人びとと共に許すことはできません。

私たちが闘っている再処理工場、東海二号炉原発についても、自ら作った放射能の許容濃度の基準を無視し放出しているのが現状です。こうした私たちの闘いと三里塚のたたかいは同じ性

期に入ろうとして混乱のなかにあります。環境破壊という公害の積み重ねは、自由の名の下につくりだされた人間の心の荒廃と重なって、資本主義の生命とりとなつてきました。

崩壊期のなかでの闘いは、地獄の闘いかもしれせん。でも、この壁を破らなければ、われわれの生きる道はありません。どんな条件の下であれ、敵も味方も必死の闘いです。

動労千葉のみならずが、必勝の決意でつき進まれんことを期待し、勝ちぬくことを祈ります。いかなる困難であれ、次の時代は、われわれの闘いが、築くものであることを信じて下さい。共に闘いましょう。

## 公害・環境破壊と 闘いつづける

井上千恵子

(若松公害阻止協議会事務局)

私は三里塚空港反対運動、動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争を支持するものです。また、全国各地でたたかっている労働者、農民、市民、住民の反政府運動を支持します。

私たちは東京湾を囲む巨大な湾岸道路計画に反対し、そこから発生するあらゆる公害に反対し、住民の生活環境を守れ、という闘いを続けています。

湾岸道路は神奈川県横須賀から、東京の羽田、晴海、千葉市川、船橋、千葉から木更津、富津の臨海・埋立地を結ぶ環状道路で、ほぼ全域にわたって低・中・高の計十四車線という計画であり、世界でも類をみない巨大道路です。モーターゼーションという言葉どおり、街中で車が氾濫し、車のために道路をつくり、道路ができれば車が増えるという悪循環が公害問題を

質のもので、共に勝利するまでたたか抜くことを誓つて、連帯のあいさつといたします。

## 日本労働運動の 命運をかけて

東大演習林職組

動労内反動分子が、三里塚・ジェット闘争を貫徹している動労千葉地本を、統制処分しようなどということは、日本労働運動史上極悪の反階級的大罪です。

日帝・支配階級による、有事立法・元号法制化攻撃を頂点とする侵略戦争に向けての反動が逆巻く時代に抗し、労働者階級人民が一致団結して闘わなければならないときに、闘う部隊の背後から襲ってくるこのような反動分子の跳梁を許しておくわけにはゆきません。三里塚反対同盟農民との労働連帯を基盤とした地平から、いま日本階級闘争の未来が雄々しく切り拓かれています。その闘いの誓たる三里塚闘争と「一線を画せ」などという言辭は、反革命の紋章ともいべきものです。

動労千葉の闘いこそ、右傾化・翼賛化しつづける労働運動の革命的転換をかちとるものです。われわれは動労千葉と共に進む決意です！

## 支持と連帯と

## 闘いの真の勝利を

穂積 七郎

(弁護士・元衆議院議員)

すべての力を集め闘いに勝利することを期します。

大城 昌夫

(沖縄交通変更を考える住民会議)

動労中央の千葉地本に対する査問は正常なる労働運動に対する、ファシヨの弾圧であり、民主主義を守る全人民への敵対行為である。政府・独占が有立法の名のもとに、民主的法律体系を全面的に、軍事ファシヨ体制にきりかえようとするのに相呼応するものであり、断固として、徹底的に粉碎しよう。

林 清継

(作家)

動労千葉のジェット燃料輸送阻止運動を全面的に支持し、不当弾圧の撤回を動労中央に切望してやみません。

伊藤 鉄東

(元山谷自立合同労組委員長)

「十二・一〇国民大集会」を断固として闘いぬこう。動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争を最後まで戦おう。

福岡 実一

(部落解放同盟愛媛県連委員長)

人面獣身、殺人鬼にひとしい革マルを追放することなくして、理にかなった人間の道はない。

真屋 求

(厚木基地訴訟原告)

金取り集団に墮落し、働く者の地平を切りひらく責任と連帯を放棄する組合が続出するなかで、動労千葉の闘いは光輝きます。

敬愛と連帯を表明し、敢闘を期待します。

保田 秀樹

(沖縄県職労民生保険支部ゆうな学園分会書記長)

動労本部の不当な統制処分策動を絶対に許さず、反対同盟と共にがんばって下さい。私たちも沖縄において、千葉地本と反対同盟の不屈の労働共闘に学びたかっけていきたい。

本郷 広平

(静岡大学助教授)

十二・一〇国民大集会が成功し、動労との共闘が実現することを期待する。

静岡大学教官有志

動労中央の一部反動分子による処分攻撃に断固とした反撃を加え、戦闘的労働同盟の発展のため、いっそう努力されるようお願いいたします。健闘を祈ります。

寄せられた檄電

自治労大阪市職

住吉区支部青年部有志

反動分子革マルの査問委員会設置弾劾。労働連帯をさらに強化し、共にたたかおう。

大阪北西地区実行委員会

十二・一〇闘争の大爆発をバネに、松崎一派追放・ジェット闘争勝利へつき進め。統制処分粉碎、労働同盟に栄えあれ。

# III 革マルを掃して 動労千葉を守ろう 動労千葉統制処分資料



動労千葉への査問委員会設置に抗議して動労中央委員会にかけつけた動労千葉と三里塚反対同盟(78年11月15日全専売会館)



第三部は、動労内に内に巢喰う革マル・松崎一派による動労千葉に対する統制処分攻撃に関する資料である。戸村一作氏の「動労全組合員の皆さんへ」、「第一〇一定中委へのわれわれの決意」そして、統制処分のための「査問委」設置を決めた第一〇一定中委に対する「速報・動労千葉No.12」にみられる烈々たる正義と確信、革マルに対する怒りと打倒への決意に対し、革マル・松崎一派は、十二・一〇国民大集会の圧倒的成功に恐れをなして、腐敗しきった『解放・号外』動労千葉組合員の家族のもとに送りつけてきたのである。

天人ともに許されざるファシスト・革マル分子を断じて動労内から追放、打倒するのみである。一九七九年にあたり、動労千葉地本委員長関川宰氏の発した『新年の檄』に、心から支援と連帯を送り、労農連帯のために奮闘しなければならない。以下、要旨を転載する。

動労の中にあつて千葉地本の全く正しい闘いを一方的な理屈をもって攻撃している革マル派というセクトは、千葉地本の組合員宅に「関川—中野執行部を追放せよ」というデマビラを郵送してききました。

私達の闘いが正義性に貫ぬかており、千葉地本の団結が固く、政府・権力をはね返して勝利しつつあるときに、権力と呼応して背後から銃を向けるようなこの攻撃を、どうして許すことができましょうか。不屈の三里塚・芝山農民の闘いに対し、悪罵を投げかけることをどうして認めることができるでしょうか。

私達はあくまでも、痛苦の中でジェット燃料列車のハンドルを握って闘っている佐倉・成田の組合員の立場に立ち切り、三里塚・芝山農民との連帯を貫徹し切つて闘い抜く決意です。

権力に対する正義の闘いが発展し勝利に近づけば近づくほど、このような反動が現われてくることは歴史の必然であります。この反動を突き破ることなしに本場に勝利することはできません。この反動の強まりは私達の闘いが確実に勝利に向つて突き進んでいるということの確実な証明でもあるのだということを確信し、喜びをもってこの反動と対決し、打ち破つてゆこうではありませんか。

## 資料 I

### 動労全組合員の皆さんへ—私の真意

#### 三里塚闘争十三年の真実にかけて訴える

三里塚芝山連合空港反対同盟委員長 戸村 一作

国鉄動力車労組中央執行委員会

委員長 林 大鳳殿

前略 就きましては緊急を要する件につき、取急ぎ一言申し上げたく、茲に筆を取った次第であります。と申しますことは御承知のように津山の貴組合の大会以来、「三里塚闘争に一線を画す」という言葉を耳にすること度々であり、これにつきましても私は心痛めるとともに、甚だもつてこの発言には疑問を抱かざるをえません。

貴組合発行の文章を見ましても、私の発言を巡つて論議されているものが見うけられます。という事で当事者自身としても事実を明らかにするために、達つて申入れを要する次第であります。

就きましては貴方様の計らいによりまして貴組合との公開討論の場を設け、私自身からの発言をお聴きとり下さるよう申し入れをした次第です。一連の発言は、ブルジョア・マスコミによって歪められ、それに輪をかけて歪曲しているものようにです。

そこで私自身の口から貴組合の皆様

に、私のいわんとする真意を明らかにしたいというのが、この申し入れでございます。ですから、私の意を察し下さり何卒宜しくお取計らい下さい。

時、恰も成田新立法、元号法制化、有事立法と福田反動政権は出して来ましたが、彼らの意図は一体何でしょうか。私のいうまでもなく、労資協調路線とその組合運動の圧殺を狙つたものであることは明らかな事実でございます。

三里塚闘争を闘う者の一人として特に労働者の力の結合を求める者の一人として憂慮に堪えず、敢えて茲に筆をとり、申し入れをする次第でございます。

何卒大至急、右御努力下さるようお願いいたします。甚だ勝手ながら本月末までに私宛に御返書下されば幸いと存じております。

右御待ちしております。

一九七八年十月二十三日

三里塚芝山連合空港反対同盟

委員長 戸村 一作

#### あえて皆さんに訴える

三里塚闘争も十三年を迎えることになりましたが、これも貴動労の御支援があったからこそ今日まで闘いえたものと感謝しております。

ところが津山大会において反対同盟の闘いに「一線を画す」というあられもない決議がなされたということ聞き、啞然といたしました。

この点につきまして私は十月中旬、林大鳳委員長に親書を送り、親しく話し合ふ場がもたれますように望みました。しかし今日まで何の御返事もなく打ち過ぎで参りましたので、止むなくこの書簡をいたしました。私の意向を貴下及び動労のすべての組合員の皆さんにお伝えし、御判断を仰ぎたいと思ひます。

反対同盟が十三年間もの間、血みどろの闘いを続けて来たのも、その元をただせば労働者の合理化闘争と全く一致する階級闘争を求めて来た結果といわねばなりません。そうした意味で、反対同盟は労働者との連帯を求めつつ、今日まで闘つて来たのです。それが実つて動労千葉地本と反対同盟との間で、初めて労農同盟が生れたのです。

そうした中から動労千葉地本が九・一七全国集會に参加したからといって、何が統制違反だということでしょうか。国家権力の暴虐と長年の間に必死に闘いぬくなから、反対同盟が実力闘争の闘い方を身につけ、又、私が権力の暴虐に打ち

勝つ実力闘争のさらなる発展を強く訴えんがために、私の発言が少々暴力的であったとしても、それが動労の労働者について危害を加えた試みがあったでしょうか。それなのに反対同盟の闘いに「一線を画す」とは、誰が聞いても腑に落ちないといわれてもしかたがないのではないのでしょうか。

聞くところによれば動労の中にも数多くの者が、「一線を画す」という方針に不審を抱いているということです。「一線を画す」とは反対同盟はおろか、闘う労働者・農民・学生・市民を国家権力に売り渡すことでしょうか。この点、貴下の賢明な御判断の下に、動労一部の誤る考えを是正し、労働運動の本然の姿に帰して頂くよう切に御願いたします。

動労千葉地本一四〇〇人は反対同盟に連帯し、鹿島からのジェット燃料輸送に必死となつて闘っています。中央の動労だつて燃断輸送には反対したではありませんか。その動労千葉地本が同盟の要請にこたえて、九・一七に参加したからという理由で関川委員長・中野書記長らをはじめ青年部の三役員を査問にかけ、除名処分しようとする企みがあると聞いております。もしこんな理不尽なことを労働者が許すとすれば、これは日本の労働運動は元より労働者の恥といわねばなりません。三里塚闘争は今では農地を守るという地域闘争ではなくなっています。先にも申しましたように動労の求める労働運動は、反対同盟の闘わんとする農民

運動と一体であるという見地に立って闘っているのです。

因みに有事立法は労働組合の解散とその治安弾圧であり、労働者と労働運動に向けられたものであります。従って有事ともなれば国鉄は元より一切の運輸部門は、自衛隊の管理下におかれる。成田新立法、元号法制化、弁護人抜き裁判、国民総背番号、そして、有事立法となって現われた背後関係にあるものは何でしょうか。外でもありません。組合運動・ストライキつまり労働者の抵抗権の圧殺を狙ったものです。

この機に当って最も戦闘的に闘っている労働千葉地本の私達の同志にかけられた組合内部の弾圧は、一体何でしよう

## 資料 II

# 労農連帯の推進がなにゆえ 統制処分の対象になるのか

国鉄動力車労働組合千葉地方本部闘争委員会発行職場  
討議資料「第一〇一定中委へのわれわれの決意」より

### はじめに

(1) 第三四回全国大会後、とりわけ「九・一七」以降全国青年部を中心とする一部の者による千葉地本に対する組織破壊活動が公然と開始された。

曰く、「千葉地本は意図的に事実をね

かいを続けていること—このことを否定し、妨害し、労働者階級としての階級的正義と良心の一片すらも喪失した一部分子が、かくたたかわんとするわが勤労千葉地本の組合組織を破壊せんとする輩にでていること、ここに問題の核心があるのである。

(3) いまや、一部役員を先頭とする反動分子たちは、大会における本部答弁すら反動的に曲し、「一線を画するとは絶縁であり」「地域共闘として、たとえ県評、地区労等との連携のもとであつても、三里塚反対同盟との共闘は一切許されぬ」「ジェット燃料輸送阻止闘争は三・一で集約された」とさげんでいる。そして、三里塚ジェット闘争をたたかいつづけるわが千葉地本千四百名の組織を統制処分し、再建(組織破壊し、三里塚闘争をたたかわない組合組織に再組織する)せよとの公然たる攻撃を開始するにいたつたのだ。

(4) さらに、われわれは、三里塚闘争に敵対し、三里塚ジェット燃料輸送阻止闘争を破壊し、千葉地本に対する公然たる組織破壊策動を開始した者たちの暴力的、非民主的組織運営について、あらためて、告発し、糾弾し、すべての仲間の判断をもとめるものである。かれらが、全国大会においてなしたファッショ的議事運営と、修正案提出代議員にたいする暴力的集団追及行動—それは大会の全期間をとおして、大会会場のなかですら公然とおこなわれた—そして、大会終了直

か。労働者の闘いは労働者自らの自覚と、その思想性によってしか保たれません。

労働千葉地本の闘いは日本労働運動を代弁する闘いと思ひます。この労働者にかけられた不当な処分、これはどうあつても許しえません。貴下の御動きによって一人でも多くの者が立ち上がり、勤労の内部からこれを撤回し、一部の者の不正邪悪とその反動性を一掃して下さるよう切に願ひする次第であります。

反対同盟を代表して切なる願ひをここに申し上げ、すぐに行動に移して下さるよう切望して止みません。

一九七八年十一月十三日

三里塚芝山連合空港反対同盟  
委員長 戸村 一作

じ曲げ、暴力問題をデッチ上げ、組織に混乱を与えている。」「自らの運動の破産をインペイするための全国大会退場劇」「九・一七は本部方針に対する真向からの否定」等々。そして「いまや組織内部から公然と組織破壊行為に等しい言動を行い、敵対矛盾に転化した」と。

後千葉地本代議員、傍聴者におそいかかつた一部本部青年部役員をはじめとする集団暴行は勤労運動の歴史上かつてなかつたゆるすべからざる事態であることはいうまでもない。これらの集団暴行は、ことごとく「大会警備」の腕章をつけた者たちによって、「大会警備」の名のもとにおこなわれ、しかも、大会の全準備に責任をもつ準備地本(岡山)とは別に本部青年部を中心とする一部の者たちによって指揮されていたのである。これは全代議員、傍聴者の眼前でなされた白日公然たる事実なのである。

(5) われわれは、この事態を決定的に重視しなければならぬ。これらの集団的暴行は、討論における感情の高ぶりやこころのふんの結果などでは全くなく、反対意見や自由な討論をあらかじめ封殺することを意図し、暴力的追及行動の威嚇と恫喝をもって反対派の修正提案、主旨説明の権利すら奪いさつた組織的行動である。と断ずるほかにない。しかも、かれらの集団暴行、テロ・リンチは最終日会場前に配置された警察機動隊の眼前においてすらなされたのであり(三十余名の千葉地本代議員、傍聴者に対して本部青年部役員をはじめとする数十名がおそいかかつたこの事件は岡山地本家族組合の方々をはじめ、数多くの全国の代議員がみている)、日頃権力犯罪をさげぶ人々が権力の介入に一片の階級的警戒心すら持ちあわせていないことをはしなくもばくろしたものである。権力の前で、組合員に

千葉地本に対するいわれなき中傷、誹謗、組織破壊策動は、別に今はじまった事ではなく、すでに全国大会以前に、例えば関東青年部段階では「勤労に対する公然たる敵対、勤労内部からの勤労組織破壊攻撃であり……、今や勤労運動の阻害物となつた千葉地本、地青一部役員指導の内実について明らかにし、これを克服し、千葉地本、地青を再建する」などと公然たる攻撃が行なわれていた。

し、批判的見解をもつことと、全面的に否定することは同一ではない。それゆえわれわれは、反対同盟との関係、さらには「貨物の安全輸送」方針にたいし、批判的見解をもつていふことをかくそうとはしない。『階級的戦闘的労働組合にあって、権力とたたかう農民、住民との労働連帯は、いかなる反動的妨害をもうち破つて推進すべき階級的責務であり、わが動力車労働組合運動の根本的目標でもある』という立場から、十三年間、血みどろのたたかひを続ける三里塚芝山農民に実践的に連帯することは、前提でありなんびとも否定することのできない当然のたたかひなのである。

(2) そして遂に九月二八—二九日、第二三回臨時全国青年部長会議において「千葉地本青年部運動の再生のため」として地青三役の「具体的統制処分を中央本部に要請する」なる決議を行なつてきた。

(2) 三里塚空港の強権的開港に「反対」し、農民殺しの国家権力による圧政にたいし、たたかう農民と「ともに闘い」、政府、公団のジェット燃料輸送強要に徹底的に対決してたたかうことこそが、三里塚問題を論議するための実践的前提である。これこそ、階級的労働組合運動の本質的立場ではないのか。政府支配階級の側にたつたか被抑圧労働人民の側にたつたか、資本や当局の側にたつたか、たたかう労働者人民の側にたつたか—この問題をあいまいにすることは労働者階級にとつて「死」を意味することを、われわれはマル生闘争の歴史的経験のなかでまなびてきたではないか。わが勤労千葉地本が、この階級的立場にたちきり、三里塚空港反対、ジェット燃料輸送阻止のたたかひを一瞬たりとも放棄せず、たた

この新たな攻撃こそ、第三四回全国大会のファッショ的議事運営に対する五地本の申し入れを真向から踏みこむる暴挙である。千葉地本に対する組織統制をとおして、全国の心ある仲間の声を暴力的に圧殺せんとする策動を断じて許してはならない。

われわれは、ここに彼らの組合機関を私物化し、ためにするセクト的いいがかりを事実をもつて糾弾し、闘争仲間の判断を求めるものである。

(1) 問題の核心はわが地方本部が、「三里塚芝山連合空港反対同盟との共闘については一線を画す」とする全国大会の決定、方針にたいし、根底的な批判と重大な疑念をもつていふことにある。いうまでもなく、全国大会決定方針にたい

れわれが暴力をふるつた背景について、考えてくれ」といひなしているのである。これは、「背景」がある以上、今後も集団的暴行を続け、暴力と恫喝によってわが勤労の組織をじゅうりんしつづけることを宣言したにもひとしいものである。われわれは絶対に、このようなことをゆるしてはならない。

おそいかかるかれらに階級的良心の一片すら期待することができぬのだらうか。

こうした千葉地本の告発が、一部分子たちによれば、「組織に混乱をあたえ、組織内からの公然たる敵対」となるらしい。そしてそれゆえに、統制処分し、その組織は再建されなければならないというの。

(6) このような集団暴力のもとで大会が運営されわが動力車労働組の組織運営がはかられていることは、まさに、わが勤労の未曾有の組織的危機といわなければならぬ。このような状況のもとに、三里塚問題が討論され、貨物反合方針が討論されたのである。労働連帯というわが勤労の戦闘的伝統を汚し、五三・一〇貨物合理化攻撃とのたたかひを敗北においやつたものは、まさに、一部分子によるファッショ的組合運営の強行と集団的暴力路線にほかならないのだ。

それゆえ、そうした不当な組織運営に心底からの危機感をいだく声があがり、なかでも、秋田、仙台、水戸、米子、鹿兒島の各地本から、勤労中央本部への事態解明要求が提出されたことは当然である。いまや一部分子の不当な暴力によるファッショ的組合ひきまわしにたいする糾弾と追及の声は全国に拡大している。

動力という階級的戦闘的組合組織をファッショ的暴力と、非民主的組織運営から守りぬくか否かここに問題のさらなる核心があるのだ。

### 暴力によるファッショ的組合支配を許してはならない

(1) 第三三回臨時全国青年部長会議は、千葉問題が勤労の恥部であり、明確に組織内の「ガン」として成長し、敵対矛盾の現実を呈していることと規定し、

①この様な指導部によって引き回され、苦闘している真面目な組合員を解放するために青年部は闘う。

②この様な千葉地本を組織内から擁護している地本に対して徹底したイデオロギー闘争—彼らの言うそれは全国大会で明らかになつた様に暴力的追及行動以外の何物でもない—を行う。

ことを決定した。

(2) また、十月七日―八日開催された全国組織部長会議においては、「第三四回全国大会を混乱させた背景にメスを入れるべきだ」と言い、全国大会をめぐって五地本から提出された「申し入れ」に對し、

①千葉地本指導部の姿勢こそが問題であり、それが変わらない限り、こうした事態―集団暴力行為やファシヨの大会運営のこと―を解決することは困難である。

②こうした事態が全体像であるかのようには強調したり宣伝したりすることはつしむべき

(3) こうして九・一七問題を契機に、千葉地本に對し、公然たる攻撃を再開するとともに、これを口実として全国大会において修正動議を提出した代議員及び、大会における集団暴力事件について中央本部に解明を求めた地方本部に對し、「このような行動は千葉地本を擁護する反組織的行為」として恫喝を加え、暴力と恫喝によって大会をじゅうりんした自らの恥すべき行為を隠蔽し、あるいは正當化しようとしている。

(4) 全国大会において発生した、一部の反組織分子による千葉地本代議員、傍聴者に対する集団暴行、テロ・リンチ事件を中心とする一連の事態について、すでに述べたようにその後各地方本部の機関開催の中で問題が提起され、五地方本部と

仙台、秋田、水戸、米子、鹿兒島から中央本部に對する解明要求が提出された。千葉地本からも、地本傍聴團責任者西森副委員長の状況報告を添えて千本組織第三七号をもって本部に對し申し入れを行ってきた。

本件問題に對する本部統一見解については、第一〇一定中委で結着をつけることが第一〇〇臨中委で明らかにされた。

九月十八日開催された第二回全国戦長会議において関東地評会議長から「一九・一七三里塚現地集會」にかかわる千葉地本の対応について問題が提起され、中央本部からは全国大会にかかわる問題も含めて第一〇一回定中委で明らかにし、整理する旨答弁があった。従ってこれらに關する本部統一見解が出されていないことは自明の事柄である。

(5) しかるに全国青年部は、千葉地本に對する攻撃のみならず、全国大会における一連の問題を指摘した地方本部に對して、「敵対矛盾である千葉地本を組織内から擁護するもの」と勝手に断定し、對決する方針を決定した。

これは、正にそれぞれの該当地本に對する理不尽な組織破壊攻撃であるばかりでなく、まともな批判さえ許さないファシヨ的行為といわなければならない。こうして彼らは盗人たけだけしく見解を異にする者の口を封じ、自らの恥すべき行為を正當化しようとしている。だが地方で苦闘している真面目な活動家の口をふさぐことは出来ないし、いわんや全

国から結集した代議員・傍聴者千数百名の面前で公然と行なわれた冷徹な事実をまっ消することは出来ない。

(6) 全国青年部を中心とする一部の諸君は次の様な事柄が全国大会であったのかどうかを答えてみるがいい。

・北海道、東京、新幹線などの傍聴者を計画的に配置し、大会会場において代議員に對し名指しで恫喝を加え、あるいはヤジ、怒号で発言を打ち消すなどの行為。

・修正動議に賛成した新幹線地本、検修分科選出の一部代議員に對し、大会会場で、あるいは昼食時間中に食事もとらせず外に連れ出しての集団つるし上げ行為。

・修正動議の趣旨説明させずいきなり採決という議事運営に對し、異議を申し立てた代議員に對し、採決係・傍聴者が独断で暴力的に会場外へ放り出すという事態。

・大会終了後、会場を出ようとした千葉地本選出代議員傍聴者に對し、大会準備地本家族組合員の眼前で、多数でこれを取り囲み、集団で暴行、テロ・リンチを加えるという事態。

これらはいずれも全国大会会場内外で発生した事実である。

(7) 一部の諸君は、当初は「これらの事実は中執でなかったと確認したから、なかった」と全面否定するとともに、「その様な事を組織内で言いたてたのは組織に混乱をもたらす反組織的行為である」と

### △三九・一七三里塚闘争問題について

一 われわれは九・一七三里塚に決起した

(1) 八月二日から三日間、勝浦市において開催された第三一回定期地本大会は、全国統一闘争として組織の総力を挙げて闘い抜いた三里塚・ジェット闘争の総括をめぐって、とりわけ全国大会で決定された「反対同盟と一線を画する」方針について、その内容規定、およびこの様な方針によって来たる根拠ならびに同方針の三里塚闘争―日本階級闘争へおよびす影響など、多くの論議がなされると共に、同方針に對する批判的発言が集中した。

(2) 国家権力による一方的な農地収奪に反対し、農地を守る闘いから出発した三里塚闘争は、その後幾多の熾烈な闘いを経て、今や自らの生活を守り、国家権力と闘う全国の住民組織を総結集し、日本階級闘争の天王山としての地位を占めるまでに巨大な前進をとげた。

千葉地本は、この十三年間にわたる闘いの当初より、反対同盟農民と連帯し、支援の闘いを闘い抜く過程をおして、反対同盟農民との人間関係を含めた強固な労働連帯、階級的友誼を打ち固めてきた。

ジェット燃料貨車輸送問題が現実的課題となった昨年以降、とりわけ、十二月三日からの一〇〇日間にわたる熾烈な闘

逆に千葉地本に對する攻撃を行ってきたが、各地本からの解明要求に對し、否定しきれなくなると「この様な事柄が発生するのはそれなりの歴史的背景がある。それを切開しない限り問題の解決にはならない」と言い、「背景」や「理由」があれば暴力が発生してもやむを得ない」という態度をとって一部反組織分子を擁護してきた。

全国大会で発生した一連の事態、とりわけ千葉に對する集団暴力事件を、理由があればやむを得ないなどと一体誰が判断するのか。多数派が「理由がある」と判断すればやってもよいと考えているのか。「口惜しかったら多数派になれ」などどうそぶく一部役員がいる現状では、あるいはそう考えているのかも知れない。

(8) 全国大会で発生したこれら一連の事態は単なる一つの現象ではなく、今日動労がかかえている克服すべき組織的問題点としてわれわれが指摘したとおり、動労の組織的存亡にかかわる問題であり、労働組合として團結する前提条件、階級的組合民主主義を守るのかどうかを問われる極めて重大な事柄である。

動労中央本部組織二四号第五項(七三年七月大会)は次のように述べている。「いかなる理由があっても、暴力行為については一切認めない。組合機関開催中および行動中に組合員同志の暴力行為などが発生した場合、その実情を調査し、きびしく統制の措置をする。」組織二四号の効力は執行部が変わって

い、全国統一闘争としてその当該地本として反対同盟の強力な支援のもとに全力をあげて闘い抜いてきた。そしてこの闘いを、中央本部も高く評価していた。地本大会では、成田、佐倉西支部代議員から「新たな決意をもって三里塚空港反対・ジェット燃料貨車輸送阻止を勝ち取る決議」が提起され、九・一七三里塚現地集會への総結集が呼びかけられ、全体で確認された。

(3) 三里塚・芝山連合空港反対同盟が主催する「九・一七三里塚空港粉砕一〇〇日間闘争貫徹、二期工事実力阻止、全国総決起集會」は全国から一万八千名の労働者、市民、住民、農民、学生を結集し圧倒的高揚を勝ちとった。

なお参加団体は、北富士、日本原、砂川、伊達、七尾、女川、柏崎、水俣、沖繩CTS等の闘う全国各地の住民団体、部落解放同盟中央本部並びに各県連、婦人民主クラブ、文化人、騒音と闘う近隣住民をはじめ、労働者、市民、学生である。

種々の締めつけが、権力の弾圧と呼称する形で、執ように厳しく行なわれていく最中であって、「三里塚を闘うべし」とする労働者の結集が、特に顕著であったことがマスコミに報道されている。

闘いが激しければ激しいほど、弾圧が強ければ強いほど、闘う者と逃亡する者との違いは鮮明となり、労働運動の大義を守り労働組合の階級的責務を全うせんとする者は、一見孤立しているように見

すでに消滅したのだろうか。

同時にわれわれは、いわゆる千葉問題についての一部諸君の策動も許すわけにはいかない。本件問題の正しい解明と動労の階級的組合民主主義を守るため努力する事を明らかにするとともに、わが動労の未曾有の危機をのりこえるためすべての仲間が共に立ち上るよう訴えるものである。

### △二二 いわゆる千葉問題とは何か

(1) 一部の諸君は、全国大会で発生した一連の事態、とりわけ千葉に對する集団暴力事件を「千葉地本指導部の組織指導上の態度が問題である」として、「十年間に亘る千葉問題」「千葉問題の根本的解決を勝ちとる」ことを叫び、問題のすりカエを行なっている。

「敵対矛盾に発展してきている」「千葉地本指導部の態度」が全国大会で発生した一連の事態の「背景」であり「理由」だと言っているのである。

だが彼らの言う「やむを得ない」集団暴力こそ、組合民主主義に基づく相互批判、反批判という労働組合としての当然のルールを放棄し、見解を異にする者を暴力をもって圧殺するといふ十年來の最後のあらわれと言わずして一体なんぞだろうか。

(2) そもそも「十年來の千葉問題」とは一部諸君の言う「千葉地本指導部およびそれを体現した地青の諸問題」どころか、本部青年部、関東青年部の一部諸君

による暴力支配に對する糾弾の闘いとして展開されてきたものである。これが「千葉問題」の第一の点であり、第二に

革マルの意を呈したとしかいいようのない本部・関東青年部に對する絶えざる批判の十年間の闘いとしてあった。第三には、主張を異にする者は認めないとする思想統制に對決する闘いの十年であった。

ゆえに「千葉問題」とは、そもそも一部諸君の反労働者の行為をめぐる問題そのものであり、われわれは労働運動に責任ある立場で、真の戦闘的團結を作り出さんかのために、全ゆる屈辱に耐え、デマのねつ造、事実の歪曲と對決し、正義の声を主張し続けてきたのである。

(3) 全国大会で発生した一連の事態こそ、「十年來の千葉問題」をねつ造する一部諸君の反労働者の姿を事実をもって示しているものであり、五地本から提出された勇気ある「申し入れ」は、われわれの十年にわたる闘いの正しさを示しているとして決して過言ではない。

だからこそ、一部諸君の恥すべき行為の居直りを許してはならず、ことさらに「千葉問題」を叫び、千葉地本への組織統制へとすりカエんとする策動を断じて黙認してはならない。

こうしたことを克服し、動労の真の戦闘的團結とその基礎たる階級的組合民主主義の確立こそ、われわれの今日的任務として自覚するが故に、すべての闘う仲間にあえて訴えるものである。

えながら、実は、多くの真に闘う者の支援、連帯の強固なスタラムの中にいるという事を「九・一七」は見事に立証した。

われわれの決意はますます記するまでもないが、九・一七闘争におけるいくつかの発言を引用しておきたい。(速報No. 4より)

(1) この日現地集會に先だつ運転区前における集會は、地本水野組織部長の司會のもとに行なわれ、地本関川委員長あいさつの後、成田・日暮支部長は、

「われわれは、現地成田にある支部として並々ならぬ決意をもってこの「九・一七」に決起してきた。

第三四回全国大会の方針を目にして以降、われわれは絶えることのない憤激の中にいた。これが労働組合の方針なのか。これでよいのか。この想いは第三四回全国大会の一方的議事運営と暴力に接して、さらに深いものとなった。

われわれは、地本の対応によつては支部独自でも、あるいは個人としてでも「九・一七三里塚」へ決起する決意であった。

三里塚・芝山農民との十三年間にわたる支援、連帯、同じ地域に住み、起居を共にし、騒音にさらされる労働者と農民が連帯することを否定しておいて、労働運動の未来はあるのか。

成田支部は、本日全ダイヤを檢討し、青年部を中心とした動員部隊を編

成し、そのために空いたダイヤへ他の組合員が乗務する体制をもつて決起した。したがって、成田支部は三里塚現場へ行く者も、乗務する者も含めて文字通り支部全体の決起である」との決意を表明した。

続いて、成田支部組合員であり、三里塚・芝山連合空港反対同盟員である戸村英男君が、

「私は『一線を画する』という本部方針のいかんにかかわらず、反対同盟員である父母と、また反対同盟員である自分自身の十三年間の闘いにかけて闘う。

本日、仲間の方々が、全支部からこのような最大限動員をもつて結集されたことに労働者の真の戦闘性を見と発言した。

(2) 成田運転区前での意志統一の後、全参加者は三里塚第二公園に結集し、独自集會を行なった。

集會は、地本布施教育部長の司會で進められ、冒頭あいさつに立つた関川委員長から、この間の経過と地本の決意が明らかにされ、続いて来賓からのあいさつをうけていった。

第二期工事の対象となる敷地内で闘い抜く農民・石井武氏から、  
「全電通官城のような組合弾圧が統制処分という形で行なわれている。労働者が三里塚で闘うという事を左翼を名乗る者がこのように反動としての姿

を鮮明にしている中で、動労の皆さんがこのように大きな隊列をもつて、職場の服を着て、三里塚現場に集會をやるということはすばらしいことだと思えます。

この団結の強さに心からの敬意を表します。

農民も労働者も団結すれば勝てる。これがわれわれの十三年間で得た教訓です。

今日一日の闘いで、政府・公団は三日間も燃料をストップしなければならなかった。一万五千の機動隊が手も足もでない。このような闘いをこれからもどんどんやりましょう。われわれは空港を廃港に追い込むまで闘い抜く決意である。

団結していれば、いかに強力な敵といえども必ず勝てる」とのあいさつがあった。

(3) 続いて地本中野書記長より  
「今日、われわれは何故に三里塚現場に決起したか。

第一に、理不尽な攻撃を真向うから受けとめて三里塚を闘う全ての人々を、われわれの闘いを支援し続けてくれる人々を裏切ることではできないという事。

第二に、いま、三里塚・芝山農民は大変な闘いの時期に立ち至っているという事。強行開港、騒音、枯葉剤散布による農地破壊、生活破壊に立ち向う農民の、一番苦しいときに連帯せず

に、連帯といえるのか。

第三に、ジェット燃料備蓄は、ノースウエスト社のスト解除等で最大の危機に瀕しており、痛苦の念をこめてハンドルを握る組合員にとつて、いまこそ闘いの時であるということ。

われわれは、全国大会以降、組織内での激烈な討論を経て以上のような確認を行い、本日決起した。

一九七八年九月十七日はわれわれにとつて画期的な日である。備蓄ゼロから廃港へ、正しいことを正しいと言え労働運動の構築をもつて、階級的労働運動の戦闘的再生を目指して闘おう。……」

(4) さらに十一支部を代表して、新小岩・松崎支部長の決意表明を行い集會を終った。

その後、三里塚市街を席巻するデモ行進がからとられた。

以上が、九・一七三里塚への決起の概要であり、引用した発言は、労働連帯をもとめるたたかう農民とわが千葉地本一四〇〇の心底からの決意にほかならない。

二 いわれなき批判にこたえる  
(1) 九・一七に起ち上つた千葉地本に対し、いわれなき非難が加えられている。

しかし地本は、「新たな決意をもつて三里塚空港反対、ジェット燃料貨車輸送阻止をからとる決議」の扱いについて、三

里塚・ジェット闘争の継承・発展の立場から、その趣旨を受けとめつつも、全国大会方針を配慮し、同時に地本大会における林委員長発言「一線を画する」とは絶縁を意味するものではない。三・二六以降の反対同盟幹部の言動を労働組合として問題にしているのであり、この

点の理解が得られるなら、方針の再検討もあり得る。動労としては、社会党、県評、地区労などの組織労働者、および地域住民と連帯し、今後とも三里塚、ジェット闘争を闘っていくをしんしゃくしながら、今後さらに社会党、県労連、地区労ならびに地域住民に働きかけ、三里塚・ジェット闘争の地域への拡大をはか

つて行くこととして集約し、そのための努力を続けてきたことを前提にして、九・一七三里塚独自集會にふみきつたことを明らかにしておきたい。

われわれは何よりも、ジェット闘争の継承・発展を階級的責任をもつて全うする立場からこの日の闘いに決起したのである。

(2) 今、このような階級的労働連帯に全く責任をもたない全国青年部および一部の諸君が「運動に責任をもたない小ブル急進主義による一部役員は組合員の引きまわし……」などと名指して千葉地本攻撃をしていくが、これらの諸君が、自ら機関で決定した全国闘争としての三里塚・ジェット闘争に、一体どのような責任

を持ったのか。この様な諸君には十三年間にわたる反対同盟の闘い、その

中で培われた労働連帯も、とりわけこの一年有る、反対同盟の支援のもとに闘い抜かれた三里塚・ジェット闘争についても、いざわどうでも良く、「反対同盟との絶縁」などのことについて階級的良心の痛みさえ感じないのかも知れない。

しかし、十三年間にわたり、三里塚闘争を労働者として、労働組合として支援し、ジェット闘争を自らの階級的責務をかけて闘った千葉地本にとつては、どうしてそんなことが許されるだろうか。これは千葉地本一四〇〇の階級的道義であり、階級的労働者魂の問題である。

九・一七三里塚第二公園における千葉地本独自集會の開催も、今日までの三里塚・ジェット闘争を闘った経緯ならびに第三回定期地本大会の決議をふまえてつ、さらに全国大会の経過を最大限尊重した上での、いわばギリギリの組織的判断である。

(3) 大会方針は、「三里塚・ジェット闘争の旗をおろした訳ではない」としてこの闘争は、現地社会党、成田地区労働の支援を受けながら闘い抜いたものである。また九・一七三里塚現場に決起し、三里塚農民との階級的友誼として独自集會を開催しデモを行うことが、機関決定違反であり、反組織行動であり、組織の中において組織破壊をねらう敵対矛盾なのか。断じて否である。

九・一七三里塚に決起し、労働連帯を固くうら固めることが、機関決定違反であり、反組織行動であり、組織の中

で組織破壊をねらう敵対矛盾なのか、断じて否である。

このことをもつて千葉地本を「敵対矛盾、組織の中において権力による動労破壊に手を差し伸べている」などと中傷し、千葉地本を排除せんがための口実作りをすることは絶対に許されない。

暴力と恫喝で全国大会をじゅうりんし、それが批難されるや「理由があれば暴力をふるっても良い」と居直りを策す一部諸君が、自らの行為を合理化することにかいて、「千葉地本の九・一七決起は統制処分だ」と主張することは、無理をとおして道理を引こめる類いの無謀きわまるものである。

以上の経過にふまえ、われわれはいわれなき批判にこたえたい。

(4) 第一に、柏崎反原発闘争について、われわれは一〇・八現地闘争に青年部を軸に全力をあげて決起しぬいていく。十三年間にわたる三里塚農民との労働連帯にふまえ、柏崎反原発闘争を担う「守る会」「反対同盟」の新たな階級的連帯の形成に燃えて現地闘争に参加したのであり、一部諸君の「柏崎闘争への敵対」云々は、ためにする中傷以外ではありえない。

九・一七柏崎闘争についていえば、九・一七三里塚現場に柏崎闘争を闘う反対同盟は結集してきていたのであり、九・一七柏崎闘争が、三里塚・ジェット闘争の一貫した敵対者、破壊者たる革マルと合流して行なわれたという事実は、関東

青年部主催の九・一七柏崎闘争なるものの狙いに重大な疑問を生ぜしめるものである。

さらに、「動労千葉の吉田」なる者が「九・一七柏崎集會を妨害」なる一部の諸君の主張こそ、とんでもない言いがかりである。

「動労千葉の吉田」なる者は、千葉地本に実在しないし、何よりも、それを口実に「県評主催がとり止めた」とは、新潟県下の労働者とその闘いを愚弄する何という言い回しなのか。

主体性をもつた県評の決定を冒とくし、あまつさえ、自らは、労働運動の破壊を策する革マルとの一体化した集會をもつ一部諸君の行動こそ問題とされなければならぬ。

(5) 第二に、千葉地本の九・一七三里塚への決起は、階級的労働連帯を守り発展させるといふ観点から言っても正しいものである。

千葉地本一四〇〇名組合員は、十三年間にわたる階級的労働連帯をおおとして、労働者としての階級的自覚をもちとってきたものであり、とりわけ成田支部組合員であり、反対同盟員でもある戸村君の存在こそ、千葉地本の三里塚・ジェット闘争にかける決意を一層高めているものである。

こうした千葉地本の経過をふまえ、九・一七三里塚独自集會が決定され、闘われていったのである。

#### △四 三里塚農民との連帯について

(1) 反対同盟と「一線を画する」根拠として、一部の人々は「三・二六管制拵占拠事件」、あるいは「無制限ゲリラ」や戸村委員長発言「列車爆破云々」をとり上げ、全国青年部にいたっては、「三里塚闘争が階級的闘争でも何でもなく、いわゆる、権力の謀略」の土壌作りの場であり、右翼反動集団の巣くつと化している」とまで、革マル派と全く同じ次元で言いきっている。

しかもそれは、「読売などの、三・二六の機動隊はあまりにダラシがなかったというキャンペーンを肯定的に引用し、三・二六管制拵占拠闘争は、田中・大平派が福田政府をたおすための『JCIA』ともいえるところからの謀略」だと結論する。「空港破壊をも辞さないドス黒いまでの権力の構図と、極左暴力集団を最大限利用しながら謀略を合理化していく権力の意図を、われわれは明確に捉えかねし……」というわけだ。

動労が松川・下山・三鷹事件の教訓を生かして「謀略」への警戒を重視して来たのはわかるが、この「謀略史観」はデタラメに過ぎる（津村喬氏「資料編参照」）ものであることは、あまりにも明らかである。

(2) しかし彼らは、権力による農地収奪とこれに抵抗する農民に対する権力の暴虐―例えば木に身体を鎖でしばりつけ、

穴をほって抵抗する農民に対し、木を切り倒し、ブルドーザーで穴を掘りくずし、あるいはガス銃を直撃して東山君を虐殺し、一万四千人の機動隊を配置して強行開港するなどという―に対しては一言もしゃべろうとしない。彼らは一体どちらの側に立つのか。

昨年、第九六臨中委（五・一三）での「政府・空港公団の不当・不法きわまる鉄塔破壊暴挙と国家権力による東山君虐殺を糾弾する」決議は、現在もなお否定されたわけではなく、むしろ三里塚闘争への政府・公団の暴虐に対する動労としての階級的立場を、今日にいたるも明らかにしている。だが一部の諸君の現在の主張の中に、こうした立場が、一体一カケラほども感じることができようか。

(3) 反対同盟の戦術について批判をもつ人はいるだろう。その様な人々は自らの信念に従って闘えばよい。しかし、闘う相手は反対同盟や農民では全くなく、権力であり、政府・自民党であることは自明である。

たしかに農民には農民の闘い方があり、労働者には労働者の闘い方がある。だが、権力に支配されている者、権力と闘う者との間には、階級的連帯と友誼があるのだ。

農民の闘いは、「百姓一揆」以来、対権力実力闘争として展開されている。従って今日、労働組合としてとり得ない戦術もあるだろう。それは当然である。

#### △五 九・一七柏崎反原発集会について

(1) 全国青年部は、千葉地青が「九・一七柏崎集会」を「ポイコット」したとして攻撃を行うとともに、地青三役の「統制処分」と自己批判を要求している。しかし、千葉地青は、柏崎集会を「ポイコット」したのではない。

千葉地本は前述した通り、第三二回定期地本大会の決議をもとに、全国大会の経過もふまえて、九月十七日成田運転区ならびに三里塚第二公園における動労独自集会の開催を決定した。九月十四日、中野書記長は関東地評に連絡をとり、千葉地本としての方針を述べ、従って「千葉地青は九・一七柏崎集会に参加できないので諒解してほしい」と旨伝えた。

議長不在のため、応対した長江事務局長に対し、「その旨議長に伝えて欲しい」と言って電話を切った。

その後、九・一七当日に至るも関東地評から何の連絡もなかった。千葉地青は千葉地本の指導に従って動労独自集会に結集した。事実以上のは通りである。

(2) 一地方本部が組織として集会なり行動なりを設定し、総力を上げてとり組む事を決定した場合、それでも青年部は独自行動に、しかも執行権限を持たない関東青年部が設定した集会へ参加しなければ、機関決定を無視した反組織行動なのか。そうではないのだ。とくに地域闘争の場合は、それぞれの地域との関わりは

一部の諸君は、修正動議を提出した代議員に対して、「職場の組合員に対して三里塚へ行って火炎ビンを投げると指導するの」か「鉄道を爆破しろと指導するの」か「など」を煽り加えているが、それはためにする中傷にすぎない。

(4) 労働組合と闘う農民組織の共闘は、双方の戦術の細部まで一致しなければ出来ないものでは決してない。共闘の利益、目標にもつき、双方の主体性を尊重しつつ、それぞれの分野で、あるいは共同して共通の敵に対して闘うことである。反対同盟との共闘は、ジェット燃料貨車輸送が千葉地本にとって現実の闘争課題となるまでは、われわれは三里塚闘争に対して支援の域を出なかった。ジェット闘争が現実の闘争課題となって以降、つまり三里塚闘争とジェット闘争の結節線が、国家権力による三里塚強行開港にあったことから、現実的に共闘することとなったのである。反対同盟の側は、この間のわれわれのジェット闘争について一切の注文もつけないことなく、自らの闘いとして支援し闘い抜いた。この闘いに学びつつわれわれは自らのジェット闘争を労働者としての階級的ヘゲモニーの下で闘い抜くことこそ、三里塚闘争に連帯する闘いとして位置づけてきた。

この中で、われわれは十三年間の三里塚闘争に学び、労農連帯をかけた決起することによって、敵支配階級に打撃を与えることを確認してきたのである。勿論、三里塚現地における闘いについては労働

重視されなければならない、双方の成功が求められるのは当然である。

われわれは、反原発闘争は極めて重要な闘争課題であると考える。それ故、一〇・八柏崎闘争には千葉地本・地青は全力で参加している。このように、それぞれを闘って階級的連帯をはかることは極めて重要なことである。

(3) むしろ柏崎闘争について問題にすべきは、一〇・八柏崎闘争反対闘争に本部指令にもつき参加した千葉地青の役員に対し、テロ・リンチを加え、重傷を負わせた関東青年部内一部反動分子の蛮行であり、われわれは全国大会に続いて再びなされた彼らの暴力行為を徹底的に糾弾するものである。ここに鮮明になったのは、全国大会における暴力行為を告白した一部反動分子の反組織的暴力路線の再開である。さらに、一〇・八は、新潟県民共闘の主催であったのに対し、九・一七は関東青年部と革マルのみで集会であり、闘争主体たる地元反対派住民は不在の集会であったという事実は銘記されなければならない。いわば、地域共闘ならざる共闘である。

闘いに参加すればテロ・リンチ、参加しなければ「組織統制」と主張する一部諸君の横暴極まりない態度こそ、動労の階級的前進とは相いれない否定すべきものである。

#### △六 電話連絡五八号問題について

組合としての今日的限界性を認識しつつ、主体的な判断のもとに取り組んできたことは言うまでもない。千葉地本が関わってきた三里塚・ジェット闘争の現実、反対同盟との関係の現実とはこの様なものである。

(5) 一部の諸君が問題にしているいわゆる戸村委員長発言についても、その真意はドイツ・ナチズムの暴虐に対するフランス国鉄労働者の「鉄道の闘い」（歴史的現実である）を引用しつつ、三里塚闘争を闘う者としての決意を述べたものである。

一部の諸君の主張は結局、労働者としての実力闘争を、きわめて矮小なものとして、労働者としての武器であるストライキすら放棄しなければならぬことを意味するのだ。

一部の諸君は、国鉄労働者がストライキを基本権利として獲得せんとする闘いの中で、権力、当局の弾圧、介入と対決し、信号所の占拠、線路への坐り込み等によって列車をストップさせるといふ、「鉄道の闘い」を担った歴史的事実を否定するつもりなのか。このことに答えるべきである。

(6) 今、一部の諸君は三里塚反対同盟に対して「極左」と言い、権力と口裏を合わせて「過激派」キャンペーンを行ない「ゲリラ闘争」をあげつらって「三里塚闘争は変質」「腐敗」といひなしてゐる。

だが空港を一万五千の機動隊を盾に強

(1) 八月十七日、全国組織・交渉部長会議において、出席者の一部から千葉地青機関紙「動輪第四七号」についての問題が提起された。いわゆる「電話連絡五八号」問題とは、不穏当な表現をもって名指しで中央本部役員を批判したということとを契機とした、地青機関紙「動輪」さらに津田沼支部機関紙「でんしゃ」発行停止を本部組織部が指令した問題である。すでに千葉地本は、「不穏当の表現」については地元執行委として、陳謝の意を表している。

だが、八月二一日中央本部が発出した「千葉地本に關係する機関紙活動の諸問題に關する中央本部の見解と指導について」―電話連絡第五八号―は、その内容を一層エスカレートさせている。

(2) それは驚くべきことに、「動輪第四七号」のみならず、津田沼支部情報「でんしゃ第五四号」まで問題とされ、その回収と発行停止、ならびに千葉地本として陳謝の意を動力車新聞に掲載することであった。

問題とされたのは、

- ① 動労内左派「千葉地本」労働研
- ② 動労内右派「革マル」政研連合
- ③ 組織内に意図的に党派が介入しているかの様に印象づけている。
- ④ 反対同盟との関係、貨物の安定輸送などに関して全国大会で決定した方針を全面的に否定している。
- ⑤ 暴力行為のあったことを自立化させ、自らの否定すべき行為をインペイ

今日、反対同盟の闘いに学んで、五・二〇強行開港以来、連日八〇〜一〇〇ホンの騒音公害に悩まされる周辺地域住民の中から、空港に反対する闘いも生まれ、組織労働者の中にも三里塚闘争が改めて見直されている。

われわれはこれらの人々とも連帯し、今日までの三里塚・ジェット闘争の苦闘の成果を継承し、発展させるために闘う決意を明らかにするものである。

七ている。

大要以上の点であった。

③ 第三回定期地本大会において、代議員から「動輪」における表現の不適切さを認めつつも、一方の側に偏した措置について具体的に指摘しつつ公平な指導を求めて「本部電話連絡(千葉地本に關係する機関紙活動の諸問題に關する中央本部の見解と指導について)の撤回を要求する決議」が提起された。地本執行委員会は文章表現や取り扱い方法についての執行部一任を前提に受け入れた。

「われわれは、「動輪」はもとより「でんしゃ」についても、個人名をあげての表現の不適切さを認めつつも、その内実は、「全国大会での暴力行為は許せない」

「大会での議事運営はあまりにも一方的ではないのか」「大会運営責任者、青木書記長、城石組織部長に真意を尋ねたい」とする千葉地本一四〇〇名の心情そのものであり、何一つ問題は無いと考へる。

① こうした全国大会をめぐる問題が指摘される中で、機関紙活動こそ組合民主主義の確立にむかっている正しい批判の場として発展させるべきものである。

② 大会期間中、会場内外で日常的に集団テロリンチも含む暴力が千葉地本や他地本、分科の多くの代議員、傍聴者に対してふるわれたことを全参加者が目撃している。

③ 特に大会終了後、千葉地本の代議員・傍聴者に対して行われた集団テロ・リンチは労働組合としてあり得べからざることであり、地本闘争委員会が組織三七号(速報No.70で既報)をもって中央本部に対して申し入れたことを全面的に支持する。

④ 大会期間中を通して、「三里塚・ジエツト闘争」「水本」「組織問題」等で千葉地本に対する一方的な誹謗・中傷も含む発言のみが行われ、それに反論するための千葉地本代議員の挙手が無視され続けた。しかし、千葉地本代議員は修正動議の提案説明が行えるという当然の判断のもとに一方的な議事運営に耐えてきた。

⑤ しかし、大会第四日目の修正動議の討論に至り、一方的な意見のみで議論は尽された」という河本議長長の判断は、まさに組合民主主義を踏みしめるものであり、代議員の当然の権利とし

いう極めて重大な問題をほらんでいる。そもそも「全国大会での暴力行為を自立化させ」とは、一体どのような立場で言っているのか。

② 電話連絡五八号の問題点について、すでに明らかにしたように、全国大会での一連の暴力行為、とりわけ千葉地本への集団暴行事件に対して、千葉をはじめ五地本からの「申し入れ」が、様々な恫喝をはねのけ提出されている。これに対し、一部の諸君は、「暴力はなかった」と否認し続けてきたが、ここでは完全に認めているではないか。

全国大会での集団暴行事件に対する批判に居直り、「自立化させるな」と恫喝を加えることが、どうして許せるといふのか。

「ジュエツト燃料貨車輸送阻止」の闘いが動労全国闘争として問われてきたにもかかわらず、千葉地本の一部役員が余儀なくされた。われわれはこの間の千葉地本・地青一部役員がおおって来た「ジュエツト闘争」の内実を大胆に明らかにし、まじめに責任をもって闘う千葉地本へと勝ちとっていかねばならない」と述べている。ジュエツト闘争の集約が千葉地本の裏切りの行為であるというデタラメ

③ その途中で、田中、神保(本部署員)をはじめとする「採決係」が暴力的にこれを阻止し、そのことに抗議した片岡代議員も含めて「採決係」警備員が集団をもって、暴力をもって会場外へ「排除」した。この過程で、東京地本室井青年部長をはじめとする数人が片岡代議員を引き倒してなぐる蹴るの暴行を加えた。

④ 議長も議長も判断しないのに「採決係」と「警備員」が「独自の判断」で一方的に暴力的に「排除」するという大会運営、議事運営とは一体何か。あまつさえ、全国大会会場で代議員が議運へ行くことを暴力的に阻止され、集団テロリンチを加えられるということとは一体何か。

⑤ 「代議員が議運へ行くことが認められない」「代議員が大会会場内で集団テロを受ける」という前代未聞の状況の中で、千葉地本全代議員は「組合民主主義を守るために」退場したのである。

⑥ 以上の経過を見れば、千葉地本全代議員の退場は当然のことであった。と確認した。

極まりない主張を展開し同時に、千葉地本の再建を呼びかけるといふ組織「乱」破壊攻撃を行なうことが、「妥当」な機関紙活動といえるのか。千葉地本は、千本組織第三三三号をもって本部への申し入れをすでに行なっている。

③ 一部諸君による「表現の不適切さ」は言うに及ばず公然たる敵対は、牧拳にいとまがないが、さらにつけ加えるならば、第一四回関東青年部定期委員会の方針書は、水本問題に対する千葉地本の対応について「動労に対する公然化した敵対、動労内部からの組織破壊攻撃でありその思想的根拠は中核派の思想を体質化したものである」と述べ、これまた千葉地本の「再建」をうたっている。

これこそ千葉地本の闘う方針を、「中核派の思想」とレッテル貼りした思想統制バイジ(権力の「アカ攻撃」と同じ)というべきものであることは明らかではないか。

こうした機関紙活動を全面的に放置しながら、全国大会の一連の事態に対する現場組合員の卒直な意見を報道した千葉地青、津田沼支部機関紙を、発行停止にすることは、全くもって片手落ちということが一四〇〇名組合員の卒直な気持ちなのである。

① 全国大会方針に批判的見解をもつことと、全面的に否定することとは同一ではない。われわれは、反対同盟との関係貨物安定輸送について批判的見解をもつ

ていることをかくそうとしない。

貨物安定輸送については、詳細はここでは割愛するが、われわれの重大な危惧はきわめて正当であったと感ぜざるをえない。五三・一〇貨物反合闘争の混乱のみならず、一〇・二二反戦ストの対象から貨物をはずすという問題にまで事態は拡大している。

② 自らが軍需物資を運んでいる、という痛苦な現実を、職場生産点からはね返していくことなしに、職場生産点からの反対闘争などありえない。今や貨物安定輸送方針は、軍需物資安定輸送方針と指摘されても、何一つ反論すらできないものでしかない。「創ろう! 戦争に反対できる労働運動」のスローガンは建前にすぎず、本音は戦争への協力なのか。

この重大な疑念を前にわれわれは、貨物安定輸送方針は根底的に再検討する必要があると確信する。貨物の安定輸送によって職場を確保するという思想を、もう一度掘り下げて見る必要があるであろう。

③ 全国大会における千葉地本の退場について

① すでに明らかにしたように、第三四回全国大会をめぐるいわれなき批判が

も考えていない。

それとも、修正動議を出すことが否定すべきことなのか。

② 退場が否定すべき行為なのか。確かに好ましいものではない。しかし、方針案に対する修正動議の趣旨説明さえ認めず、採決に付し、議運に申立てに行こうとする代議員に対して採決係が独断で暴力的に退場させ、それに抗議する千葉地本代議員、とりわけ関川委員長の胸ぐらをつかまえ、暴力を振り警備係および傍聴者の行為、この様な大会運営に対し、抗議の意を含めて、われわれは退場した。

退場を否定する人は、水戸大会をかえりみるが良い。

水戸大会における退場は、「門司港事件」という正当な理由があったからと合理化するのは御都合主義的独断である。修正動議を提出し、大会で発言することをもって何人といえども「否定すべき行為」と言えないことは明らかである。

④ 今日、青年部を中心とする一部の者による千葉地本に対する攻撃は、臨時全国青年部長会議における「地青三役への統制処分」決議を新たな起点に、異常なまでの強まりを示している。第一〇一一定中委を目前に控えている今、「千葉再

け奮闘し、動労の闘り歴史と伝統を復権しなければならぬ。そして三里塚ジュツト燃料輸送阻止闘争は、これまで以上に、発展、継承させられなければならない。

### 資料 III

## 階級的組合民主主義と戦闘的団結の強化に向けて奮闘しよう

### 「速報 動力車千葉 No.12」

一九七八年十一月二十五日

一〇一定中委開催 千葉地本・地青三役に査問委設置 千葉地本、統制処分策動に抗議し、連日一五〇〜二〇〇名で決起

動労第一〇一回定期中央委員会は一月一五、一六日の両日、東京・専売会館、一七日動力車会館で、動労全組合員はもとより、社会的注目の中で開催された。地本は、第四回支部代表者会議の確認にふまえ、一〇一回定中委で獲得すべきことは、こんにち日本帝国主義の体制的危機の深まりのなかにあって、有事立法策動、元号法制化問題を頂点とする侵略と反動攻撃の激化と、革新政党の無気力、労働運動の右傾化が進行するなかで、動労が逆流に抗して左から突破しな

ない。千葉地本は、改めてその決意を明らかにするものである。

実ともに日本労働運動をにない切る組織として、動労の戦闘的伝統を継承・発展させる方針を確立させることであるという基本姿勢で、全支部からの総決起体制をもって臨んだ。

熾烈な反権力闘争を継続している三里塚闘争に連帯するの、或いは敵対するの、それは、戦闘的・階級的労働運動を志向する動労にとって決定的なことである。もしも千葉地本が九・一七三里塚独自集会を取組んだことを理由とする査問委員会の設置を許すならば、動労が三里塚闘争に敵対するというこの実証であり、千葉地本はもとより動労全体、そして日本労働運動の発展にとって大きなマイナスになるという認識のもとに、中野中央委員をはじめ、各支部から連日早朝より、一五〇〜二〇〇名の傍聴団をもって参加したのである。

また、三里塚反対同盟は戸村委員長、北原事務局長を代表に約三〇名の反対同盟農民が、一五、一六日の両日、動労本部との会見要請など三項目の申し入れ書をもって会場を訪れた。それは、突如として出された「反対同盟と一線を画する」方針がマスコミによって一方的に歪められた「戸村発言」を根拠にしているとして、重大視した反対同盟が、「この間、再々にわたって林委員長に公開討論を申し入れたが返事がない。今回の中央委員会で、三里塚闘争を理由に千葉地本が査問委員会にかけられると聞いたが、そのことについて反対同盟の真意を訴えたい」との申し入れであった。

これに対し中央本部は、代表として申し入れに入階会場入口にきた戸村、北原両氏に「会見には応じられない」という対応を行い、反対同盟は申し入れ書を置いて引き上げた。この戸村委員長、北原事務局長の申し入れ中に、多数の報道陣がいる会館入口で待機していた反対同盟農民（老人行動隊、婦人行動隊）に対し、東京、新幹線、新潟、高崎から動員された一部青年部員によって「どん百姓」「何しに来た、帰れ」等の聞くにたえないバリ、雑言が浴びせられた。これに対し千葉地本の傍聴動員参加者の中から期せずして「なぜ、農民の話を開こうとしないのだ」という抗議の声が湧きおこった。（千葉地本は連日一五〇〜二〇〇名の傍聴団があったが、会場の都合による傍聴制限で第一日十二名、第二日

目十七名の入場しか認められず、他は会場外で終日待機した。）

こうしたなかで、一〇一回定中は、議長に小林（長野）、八畝（旭川）両中央委員を選出し、第一日目はあいさつと経過報告および運動方針の提起。第二日目は、一四時まで経過および運動方針に係る質疑討論、一四時以降、「千葉地本執行部の組織指導に関する運動路線とその抜本的解決に向けて」と題した三四回全国大会暴力問題に対する本部見解、および千葉地本・地青三役に對する本部指示九号、二〇号違反を理由とした査問委員会設置を主とした方針が提案され、それに反対する二つの修正動議および「組合運営の民主化と暴力行為に対する調査委員会」の設置要求に関する決議」が提出され、討論が行われた。第三日目は、諸規則一部改正と、千葉地本提出の「三四回全国大会における千葉地本代議員・傍聴者に対する暴力行為の指揮者、実行行為者を対象とする査問委員会設置請求」についての、規約上の解釈をめぐる討論が行われた。

一〇一定中委で提起された千葉地本への査問委員会設置の理由は、千葉地本執行部は、三四回全国大会の決定、「反対同盟と一線を画す」方針および指導に対して真向から反対しているばかりか、動労の組織破壊を意図している、と規定し、

(1) 千葉地本は、本中央委員会におい

て、本部指示第九号（機関紙活動の諸問題に対する指導）にもとづく処置の動力車新聞での陳謝を書面をもつて明らかにすること。

(2) 千葉地本は、本中央委員会において本部指示第二〇号（九・一七三里塚集会への参加禁止と九・一七柏崎集会への参加要請）に関わる組織統制違反行為に対する自己批判書提出と、かかる指導と行為を二度と行わないとの表明を行うこと。

(3) 本中央委員会で、(1)、(2)項にもとづく取組みの表明がなされない場合は、

(4) 本部指示九号、二〇号に伴う地本三役、および本部二〇号に伴う地青三役の違反する行為についても査問委員会を設置する。

以上が千葉地本三役・地青三役に対する査問委員会設置に関わる方針書の要点である。

これはこの間の千葉地本一四〇〇組合員の苦闘の経過から、断じて容認できないものであった。

中野中央委員、千葉地本への査問委員会設置に反対し、本部組織指導を糾す、堂々たる発言を展開し、

会議第二日目、千葉地本傍聴者が会場内外で注目するなか、「千葉地本執行部の組織指導に関する運動路線とその抜本的解決に向けて」の方針が論議された。この本部方針に対し千葉地本中野中央委

員および米子、仙台、水戸、鹿兒島、秋田五地方本部共同提案の修正動議と諸決議案が提出された。

討論は、千葉地本査問委員会設置と三四回全国大会暴力問題に集中し、本部方針に賛成する立場から、柴田（釧路）、船戸（新幹線）、福原（新潟）、長橋（静岡）等の各中央委員の発言が出され、反対する立場から、田中（秋田）、北川（名古屋）、池沢（米子）、佐藤（仙台）等の各中央委員と中野中央委員の発言が行われた。

中野中央委員の発言要旨は次の通りである。

「中央本部から提起された方針に千葉地本は反対の立場で意見を表明する。その前提として、千葉地本は、組織一五号（十一月二三日付）、一六号（十一月一日付）をもって、中央本部指示九号、二〇号に関わる問題について、千葉地本の取組みの経過と見解について提出したことだが、この点について千葉地本の見解を述べらる。

指示九号に関わる問題だが、『動論』に書かれた表現については不穏当であり反省の意を表明し、今後の取組みは充分指導していきたい。

しかしこの間、青年部関係の「情報」には、千葉地本に対する誹謗・中傷が書かれ、全国に出まわっている。全国青年部、関東青年部定期委員会方針書にも書かれている。例えば「三里塚・ジェット

闘争を関川・中野が裏切った」と書かれている。こういう事実に対してこれを指導する機関があまりに、『動論』のみを取りあげるの片手落ちであり、公平に指導すべきである。労働運動を進めるにあたって当然のことであると考え、千葉地本大会の経緯を含めてあきらかにした。

指示二〇号に関わる問題であるが、九・一七三里塚集会は、全国大会決定を尊重しつつ、さらに地本大会での林委員長答弁を含めて千葉地本独自集会として取組んだものであり、機関運営のルールを踏みはずしていない。

三里塚空港反対闘争は、千葉地本だけでなく、県下の労働組合、政党を含む諸団体にとってその組織が腐敗・墮落するの、それともこの闘いを通して戦闘的に前進できるかを分つ試金石の役割を果たしている。階級的・戦闘的労働運動を志向する動労として、千葉地本は一三年間労働組合の分を守った闘いを展開してきた。そしてジェット燃料貨車輸送という国鉄労働者としての基本的立場が問われる問題に直面し、われわれは中央本部と相談しながら輸送阻止の方向で決起してきた。その意味で、ジェット闘争以降、われわれは三里塚反対同盟との労働連帯を通じた固い結合をもった闘いとして発展する方向にふみ出した。

以上のことを踏まえて千葉地本の見解としての本部の考え方を糾したい。

一、『反対同盟と一線を画する』という

方針が、現に反対同盟と共闘関係にある当該地本、支部の考え方が、何ら本部から問い合せがないまま、本部方針に基づいて闘いを進めていたら、ある日突然反対の方向が出される、こういう組織指導のあり方は極めて問題があると考える。

二、こういう状況の中で、われわれは、いかなることがあろうとも、三里塚空港反対、ジェット燃料貨車輸送阻止の旗を下すことはできない。なぜならば『一線を画する』方針の運用いかんでは動労の運動にとってプラスにならないという信念をもっているからだ。

三、また、千葉地本大会で、『一線を画して』反対闘争をどう闘うのかという組合員の問いに対し、林委員長は、『一線を画すとは絶縁ではない。果評、社会党、地区労を通じて反対闘争をやるべきではないか』と一線を画す内容に初めて具体的な内容が明らかにされた。

しかし、その後の一〇〇回定中、第二回全国戦長会議で、城石組織部長は、『一線を画することは絶縁である』『反対同盟の集會参加はもち論、同席もまかりならん』といった。この答弁は中央闘争委員会でも確認されているはずの中味と全然違ひ、組合員が混乱するのは当然だ。にもかかわらず千葉地本は大会決定を尊重しつつ九・一七独自集会にふみ切った。

四、そうした中で九・一七柏崎の問題が

出された。柏崎原発反対闘争の意義は認識しつつも、現実にはハンドルを握って闘っている三里塚・ジェット闘争は、千葉地本にとって最大の闘争課題だ。

柏崎集会所に代表派遣することも考えた。しかし、全国大会での千葉地本への集団暴行、リンチを考えると、柏崎集会所が、革マル派と関東青年部のみの集会であることが判明したことから、千葉地青の代表派遣をしたならば大変な組織的混乱が起る。現に、八柏崎集会所に参加した千葉地青に対して暴力が加えられたではないか。そういう暴力行為が行われようとも、なおかつ出せど本部が言いならびきりとした組織指導をすべきである。

五、全国大会で起こった問題について五地方本部から提起がなされた。それに対する本部方針は、「千葉地本執行部の組織指導に関する運動路線とその抜本的解決」となっている。三四回大会で起きた労働運動史上二大汚点を残した暴力問題が、なんで千葉地本問題なのか。中央本部の問題ではないか。中央執行委員会は、組合員に対しあらゆる偏見と歪曲した事実をおしつけようとしているとしか考えざるを得ない。暴力問題について、千葉地本が診断書を添付し提起した時に、本部は「岡山地本に問い合わせたらそういう事実はないか」といっていた。しかしこの方針では事実があったけれど背景・根拠が問題だ。それは千葉地本だといっ

ている。こういうペテンを各級機関のなかで言っている。しかも、千葉地本は機関決定を無視したといっている。機関決定というなら、二度の全国大会で決定した暴力を一切否認するとした『組織二四号』も機関決定だ。いかなる理由があるろうと機関決定を守れないながら、背景や根拠があればいいといっている。この矛盾を一本本部はどう考えるのか。

六、しかも、この方針を見ると、千葉地本は敵対矛盾に転化した。権力の手先だと規定した。事実に基づく説明もせず、ストリートに査問委設置というところでよいのか。本当に敵対矛盾なのか本部の考え方を明らかにすべきだ。この査問委設置は、千葉地本組合員全体に対する査問委員会の設置であると理解する。こうした重大問題について、今日に至るも一回も千葉地本の取組みの経緯について問い合わせがなく、方針に一方の側のいっただけをそのまま書いてある。これは中央本部が排除の論理をもって提案したとしか判断せざるを得ない。

七、したがって千葉地本は、中央本部方針に対して修正動議を提出し、現実に千葉地本の代議員・傍聴者に対して暴力をふるった人達についての査問委員会設置を請求する。もし修正動議での調査委員会設置が決まれば、査問委員会設置請求は撤回する。

八、したがって千葉地本は、中央本部方針に対して修正動議を提出し、現実に千葉地本の代議員・傍聴者に対して暴力をふるった人達についての査問委員会設置を請求する。もし修正動議での調査委員会設置が決まれば、査問委員会設置請求は撤回する。

九、したがって千葉地本は、中央本部方針に対して修正動議を提出し、現実に千葉地本の代議員・傍聴者に対して暴力をふるった人達についての査問委員会設置を請求する。もし修正動議での調査委員会設置が決まれば、査問委員会設置請求は撤回する。

十、したがって千葉地本は、中央本部方針に対して修正動議を提出し、現実に千葉地本の代議員・傍聴者に対して暴力をふるった人達についての査問委員会設置を請求する。もし修正動議での調査委員会設置が決まれば、査問委員会設置請求は撤回する。

十一、したがって千葉地本は、中央本部方針に対して修正動議を提出し、現実に千葉地本の代議員・傍聴者に対して暴力をふるった人達についての査問委員会設置を請求する。もし修正動議での調査委員会設置が決まれば、査問委員会設置請求は撤回する。

十二、したがって千葉地本は、中央本部方針に対して修正動議を提出し、現実に千葉地本の代議員・傍聴者に対して暴力をふるった人達についての査問委員会設置を請求する。もし修正動議での調査委員会設置が決まれば、査問委員会設置請求は撤回する。

十三、したがって千葉地本は、中央本部方針に対して修正動議を提出し、現実に千葉地本の代議員・傍聴者に対して暴力をふるった人達についての査問委員会設置を請求する。もし修正動議での調査委員会設置が決まれば、査問委員会設置請求は撤回する。

「組織問題」での論議

これに対し、千葉地本への査問を主張する立場から出された意見の論旨は次のようなものであった。

☆ 千葉地本のアイマイな自己批判では容認できない。過去一〇年間の問題を掘り下げなければ解決はない。千葉問題を取り上げるなかで権力の組織介入が活発化している。

☆ 千葉問題には単なる組織問題ではなく、明確に敵対矛盾であり、統制処分を行ない、本部の直接指導とせよ。

☆ 千葉のある傍聴者の話によると、「千葉問題はどっちもどっちだ。今日の動員はなんだかわからない。ちょっと顔を出して帰るんだ。千葉に来て七年たつけど全く労働条件は変わっていない」といっていた。このように千葉は問題がある。千葉を再建しなければならぬ。

☆ 「反対同盟と一線を画する」方針は画期的方針として確認してきた。三・二六事件は権力の大謀略だ。小ブル急進主義を使った田中派による福田派追い落としの謀略であり、三里塚闘争は支配階級の抗争の道具に変質した。千葉は、本部方針とは別に、中核派と、変質し腐敗した反対同盟の動向によって方針が作られている。今こそ英知を絞った組織的対応を行う時期だ。

☆ 中野発言は、①組織一五、一六号自己批判でない。②千葉問題を農民との

回全国大会のなかで、多くの組合員はなにを見たか。

☆ 背景があるからといって暴力を認めることはできない。組合員はこのことに疑問をもっている。職場段階に入ると、理由がある。背景があるからといって、暴力はよいと組合員に言うのか。それは間違っている。三四回全国大会での暴力行為は、岡山地本家族組合員が見ている。自分も見ている。このことを暴力はなかったというウソをついて組合員にいうわけにはいかない。背景があれば暴力は認められるというところを組織内で容認すれば、大変なことになる。組織原則を確立するものとして、本部はキチッと指導すべきだ。

☆ 千葉問題については、色々あったが本部は重要な組織問題だからこそ慎重に取扱ってきた。しかし「一線を画する」との方針が、一ヶ月後の地本大会で否定的にとらえられ、九・一七に取組み、真向から敵対する行為にうつって出てきている。これはもはや本部にとつて限界である。何故限界かといえればそういう部分を放置すると動労型労働運動の本体を内部から腐らせてしまう。腐らせる訳にはいかない。そういう前提に立って本部側が一定程度の結論を提起した内容だ。

☆ 千葉地本は、過去十年間労働の運動にマイナス要素をもってきた。このことをもって、国家権力は、どういう型

で動労に攻撃してきたか、動労にとつて大変な損害を与えたか。十年が一つの節というが、十年になるこの段階で明確にしなければいけないという強い決意のあらわれである。

☆ 組織部長会議で調査委員会を設け、調査したのかという意見があるが、本部が調査するとすれば、三里塚の人達と連帯行動をとったのかどうかということになるが、しかしその以前に、指示九号、二〇号に千葉が違反している、これ自体問題だ。

☆ 動力車新聞一二五八号、臨時全国青年部長会議の内容記事について、言われている事があれば、十分調査している。

☆ 暴力は肯定していない。しかし千葉の組合員がいて、それ以外の組合員がいれば、自然発生的に暴力が起る。何故かといえ、千葉そのものが機関決定を守っていないからだ。発生する根源を根本的に切開かないとうしよる。

☆ 「一線を画する」問題について組織部長の答弁が林委員長の答弁と違うというが、基本的な中関委で確認している。

☆ 「一線を画する」という事は、青木書記長の言によれば「二線でも三線でもない」私（城石組織部長）に言わせれば「絶縁」である。内政絶縁である。かといえ、三四回全国大会前に「一線を画する」とは絶縁なんだ、だから

連帯をしないのかという問題にすりかえ、事の本質をかくしている。③組織運営の問題としてずらしている。組織問題は敵対矛盾に発展している以上、本部は統制処分を含めた組織指導を強力に行なえ。

☆ もし機関決定を守らない地本があるとするならば、組織指導の立場から、本部書記長なり、組織部長が積極的にその地本に入り交流を深めることが必要だ。

☆ 三四回全国大会方針には、千葉地本と中央執行部が話し合う。さらに職場段階で組合員と対話を行うと明確になっている。それが一度も行われていない。したがって、ただ単に統制処分にすることだけでなく、本部が千葉地本に入り、積極的に話し合うべきだ。

☆ 動力車新聞（第二二五八号）、二二二回臨時全国青年部長会議の記事によると、秋田地本から千葉へ転動した組合員が、九・一七三里塚集会所に動員されて困ったと書かれてあるが、事実には反したデータなものである。撤回すべきだ。

☆ 十月八日の組織部長会議で、九・一七問題で調査委員会を設置し、綿密に調

査することになった。労働組合はブルジョアマスコミ等、あらゆる宣伝にまでわたってはいけない。一〇一定中までに当然調査が行なわれていたとされた。

☆ 全国大会問題をすりかえるな！  
背景、理由があれば暴力を認めるのか！

査することになった。労働組合はブルジョアマスコミ等、あらゆる宣伝にまでわたってはいけない。一〇一定中までに当然調査が行なわれていたとされた。

☆ 全国大会問題をすりかえるな！  
背景、理由があれば暴力を認めるのか！

☆ 全国大会問題をすりかえるな！  
背景、理由があれば暴力を認めるのか！

☆ 全国大会問題をすりかえるな！  
背景、理由があれば暴力を認めるのか！

☆ 全国大会問題をすりかえるな！  
背景、理由があれば暴力を認めるのか！

☆ 全国大会問題をすりかえるな！  
背景、理由があれば暴力を認めるのか！

☆ 全国大会問題をすりかえるな！  
背景、理由があれば暴力を認めるのか！

☆ 全国大会問題をすりかえるな！  
背景、理由があれば暴力を認めるのか！

☆ 全国大会問題をすりかえるな！  
背景、理由があれば暴力を認めるのか！

☆ 全国大会問題をすりかえるな！  
背景、理由があれば暴力を認めるのか！

☆ 全国大会問題をすりかえるな！  
背景、理由があれば暴力を認めるのか！

☆ 全国大会問題をすりかえるな！  
背景、理由があれば暴力を認めるのか！



反対だと浅田氏以下の署名者が言っていたからだ。

☆ 三四回全国大会の紛争については、中央委員の意見をきいた上で本部内に調査委員会を設ける考えなので、修正案については撤回し、本部の意を汲んでもらいたい。

以上の本部見解が示され、議長による五地本共同提案の修正動議、決議案の撤回が要請されたが、いかなる理由背景があろうとも暴力行為は認められない。

中央委員会決定をもって調査委員会を設置し、全国大会問題の事実を調査すべきであると提案者はゆずらず、最終的に挙手による採決が行われた。その結果五地本共同提案は四名の賛成、千葉地本提案は一名の賛成によって、本部原案どおりとなった。

### 千葉地本に対する査問委員会設置は、なにを意味するのか!

こうして一〇一回中央委員会決定をもって、千葉地本・地青三役への統制処分のための査問委員会が発動された。

われわれは、この査問委員会設置に至る経過とその理由および査問委員会設置を主張する論拠を容認することはできない。

#### 「敵対矛盾」をふりかざす排除の論理

それは第一に「千葉地本執行部の組織指導に関する運動路線とその抜本的解決

に向けて」の本部方針の内容は、以前から、青年部段階でいわれていた一部反動分子による予断と偏見、ヒボウ、中傷にみちた「千葉地本は組織のガンだ」「千葉地本は敵対矛盾である」等という断じて評せない暴言をとり入れたことである。

方針によると、現在の千葉地本の運動は、「全国大会決定方針や中央委員会方針に対して、例えば九・一七集会に見られるような半ば公然として対決して来ている現実を見る時、それは敵対矛盾にも発展して来ているともいえます」(方針書一頁)。「この間の一連の千葉地本の言動をみたとき、それは組織破壊を狙っているかのような状況を呈すると共に、明らかに敵対矛盾に立ち至っていると指摘せざるを得ません」(同二四頁)。「労働型労働運動を内部から破壊する」という敵対行為を敢えて行ったということでありま

す」(同二六頁)。「千葉指導部の行為は敵を利することにはなっても動労には何等の益はないどころか、むしろ権力からの攻撃を誘発させる土壌をつくり出しているといえます」(同二七頁)等々と規定したのである。つまり、いまや千葉地本の運動は内部矛盾ではなく敵対矛盾であるとし、権力の謀略に手を貸し、動労内部から組織を破壊する役目を担っていると中央本部は規定し、それを前提に査問委員会設置を提起したのである。

そもそも労働組合は大衆組織であり、多様な考え方をもちた人間の結集体であ

#### (2) 書記 中央本部より一名

### 四、千葉地本の組織強化・再建

統制することそれ自体が目的でないことは明白であると同時に最悪の場合、組織を守るために、また強化するために統制する以上は二度と再びかかる事象の再現を許してはならないことです。その意味では本部・地評・地本・支部・組合員という縦組織が強固に団結しなければならぬわけであり、同時にいかなる内容において団結して行くかが最重要課題であることも当然であります。

血の通った組織とは職場生産点の組合員の利益を最優先させつつ同時に日常不断の対話を通して労働者階級としての自覚を高めて行くことであり、今日、六九年以降の長きにわたる組織混乱を切開くために動労千葉地本全組合員との対話を目標として、本部はその具体的取り組みを強化して行くこととします。

当面の取り組みとして、

(1) 千葉地本執行部及び七八年度千葉地本代議員を対象として本部方針との一体化をからとるための「交流会」を開催します。この場合、関係する関東地評々議員も含めることとします。

(2) 同時に中央本部が中心となり、全組合員を対象としたオルグを実施します。が、細部については中央執行委員会に一任します。

(3) 全く不幸なことではありますが、こ

る以上、多様な考え方、意見があることは当然である。にもかかわらず、意見が違うからとか、思想が違うからとして、下部を指導すべき上部機関が敵対矛盾と規定し査問にかけるといやり方は、明らかに排除のための口実作りであると言わなければならない。この排除の論理が許されるならば、多数派が意見、見解、思想の異なる者を敵対矛盾と規定し、組織から排除することを容易にし、組織内の自由な討論を規制し、労働運動の階級的民主的発展の道を閉ざすことになるのではないか。

#### 資料 IV

### 千葉地本執行部の組織指導に関する

### 運動路線とその抜本的解決にむけて

#### 動労第一〇一回定期中央委員会資料

一九七八年十一月十五日・十七日

#### 三、本件問題の抜本的解決に向けての取扱い及び査問委員会設置について

このように第三四回全国大会の決定にもとづく本部方針及び指導に対して千葉地本執行部は真向から反対していると共に組織破壊をも結果的には意図していると断言せざるを得ない以上、本部としてもこれを限界として受けとめつつ動労型労働

しかも、九・一七問題を査問理由にしている本部は、十月七・八日に開催された全国組織部長会議で、九・一七問題に対し本部組織部内に調査委員会を設け事実関係の調査をするといっていたにもかかわらず、千葉地本への調査、問い合わせすらもせずに、マスコミ報道を唯一の根拠に一〇一回中央委員会に突如として、千葉地本は自己批判せよ、しなければ査問委員会設置を提起するというやり方をやってきた。これは排除を目的化したものであると理解せざるを得ない。

運動のより強化発展に向けて、その抜本的解決をはかるために当面の取扱いと今後の取り組み及び中央闘争委員会規則第一三条の規定による規約第三二条、五四条の適用にもとづく査問委員会設置を中央本部は要請することとします。

(1) 千葉地本は本中央委員会において、本部指示第九号にもとづく処置の動力

の種案件が発生した場合には、直ちに当該各級機関の執行権停止を行うと共に規約通りの統制処分の取扱いを行うこととします。

(4) また、本件問題に対する統制処分を見越した外部からの動労に対する非難と組織破壊攻撃といえる「統制処分に

#### 資料 V

### 挑発者「戸村との「連帯」を拒否せよ!

#### 革マル派機関紙「解放」号外

一九七八年十一月二十六日付(抜粋)

挑発者「戸村との「連帯」を、拒否せよ!

千葉のすべての組合員諸君!

千葉地本執行部による組合指導が動労内組織問題として現実化した六九年以来、駄馬「中野一派がくり返してきた反組合的・反階級的行為の数かずは枚挙にいとまがない。だが、とりわけ犯罪的な最近の行為は以下の点にある。

その第一は、権力者間の政争の具と化した「三里塚闘争」へと組合員をひきずりまわし、挑発者的言辭をまき散らす「反対同盟」への「連帯」を強制することによって、第三四回全国大会決定への違反を組合員に強制したことである。

すでにわが同盟(革マル派)が鮮明に暴露してきたように、現下の「三里塚闘争」は政府・権力者の政治的抗争の道具と化しているといわなければならない。

その端的な証明こそ、かの「三・二六管制塔占拠」事件にほかならない。すでにブルジョア・マスコミからさえ公然たる疑問が投げかけられているように、赤ヘル集団による「管制塔占拠」は徹頭徹尾権力の演出と誘導によって可能となったものである。すなわち、①空港管理棟防衛」を目的として全国動員されているはずの機動隊が当日管制塔周辺にはまるでゼロであったという、奇妙な警備」の事実、②ガードマンと空港職員によって閉鎖された管制塔玄関を私服と四

人の制服警官が赤ヘル部隊突入直前に開けさせたという事実、④そしてなによりも、占拠グループがいまだに十五階テラスに居るその時点において、管制室のある十六階のデッキに二、三名の機動隊と三人の制服警官が存在していたという事実(写真参照)、にもかかわらず、占拠グループが十六階に登ってきたと同時にこの機動隊が姿を消し、上空から一部始終を見ていた警察ヘリコプターもなにひとつの「警備」もしなかったという事実、④そして、当の占拠グループ・第四インターの代表今野による「前夜の段階では完全にマークされていたのに、当日は集会のあと堂々と火炎ビンをつらつら積み公道を走ってゲートに向かったにもかかわらず、一度も機動隊との戦闘にならなかった……」という告白等々。

これらの事実は、「管制塔占拠」なるものが権力によるスパイを使った「ヤラセ」以外のなものでもないことを雄弁に物語っている。そしてじつさい、この事件によって福田は政治的面子を傷つけられるとともに、警察人事においても福田派に接近しつつあった浅沼が更迭され、田中派にパイプを持つ山本鎮彦が警察庁長官の座を獲得しているのである。この「三・二六管制塔占拠」事件に端的に示められているように(そして昨年の五・六鉄塔撤去や、全員が転向・自首した中核派による「公団総裁室突入」なるものも同様)いまや「三里塚闘争」はあきらかに権力者とそのスパイどもの跳り

ようによって変質させられ、政争の具へと転落してしまっている。諸君たち組合員にたいしてはこうした事実のいっさいをおしかりし、「労農同盟」などと称して官許の「現地闘争」へかりだしているのが中野一派なのである。そしてそうすることによって、すなわち動労の組合員を看板におし出すことによって、政争の具たる「三里塚闘争」の本性を社会的に隠蔽する(つまり諸君たちをスパイ隠しのピエロとして利用する)という許すべからざる行為を、中野一派は地本執行部の名において実行しているのだ。

そればかりではない。中野一派は、「列車転覆」を叫び鉄道謀略をそのかす言辭を弄している戸村を委員長とする「反対同盟」との「連帯」を強制している。そして動労内外からのこれにたいする批判には、「戸村発言は意気ごみをしめすだけで実際にヤルということではない」などと弁明している。だが諸君、次のことに注目する必要がある。戸村の「列車転覆」発言以降に成田線CTCケール切断事件がひきおこされ、鹿島鉄道列車妨害が発生している。また、「電気水道をとめよ」と戸村がアジった直後に、浄水場への毒薬投入がなされ、送電鉄塔の破壊がひきおこされている。そしてじつに数十件におよぶ追認者なきゲリラ(すなわち謀略ゲリラだ!)事件が発生しているということである。あきらかに、戸村の発言は挑発者としてのそれになっている。そして反対同盟委員長・

石橋所有のトラックが中核派の横浜国立大における殺人襲撃に公然と使用されているというように、いまや「反対同盟」自身が完全に腐敗し、挑発者の機能を担う存在になり果てているのだ。このような「反対同盟」と一線を画するといふ三四回大会の決定は、まったくもって正当であるといわねばならないのだ。

### 【解説】

『動力車新聞』(一九七八年十二月二八日付号外)は次のように述べている。『今日、動労にたいして三里塚反対同盟は、さまざまな誹謗・中傷を投げかけてきています。しかし、三里塚反対同盟は、正式に労働組合にたいして共闘・連帯を求めたことがあるでしょうか。逆に労働組合のたたかいは支援したことがあるでしょうか。中核派やその他の党派が人殺しや破壊活動に専念しているとき、それを批判したことがあるでしょうか。動労は、戸村一作三里塚反対同盟が「列車を爆破しなければならぬ」「列車を転覆させるべきだ」という主張を開始した段階から、断固として連帯・共闘を拒否して「二線を画す」ことを決定したわけです。』

権力に利用されるような主張や運動が、労働運動の前進につながることはないことははっきりしているからです。』

説明をするまでもなく、革マルの論理と『動力車新聞』号外の論理は、まったく同一である。動労千葉への「三里塚へ

## われら国鉄動力車

- 一 おれたちは 鉄路に生きる  
南へ北へ 火花を散らし  
前へ 未来へ 団結かたく  
闘いの道を  
力をこめて スクラム組んで  
とどろくわれら国鉄動力車
- 二 おれたちは 明日をつげる  
汽笛ひびかせ 旗ふりあつて  
前へ 未来へ 理想をいだき  
平和の道を  
力をこめて スクラム組んで  
とどろくわれら国鉄動力車

- 三 おれたちは 社会をつくる  
生命で汗で しあわせのため  
前へ未来へ 激しく強く  
解放の道を  
力をこめて スクラム組んで  
とどろくわれら国鉄動力車

## 三里塚反対同盟の歌

- 一 大地をうてば 地底より  
原初の響き なりわたる  
土に生まれ 土に生き  
骨をうずめる この土に  
誇りも高き 農地死守  
我らが業(わざ)に 栄あれ
- 二 大空まいて ひるがえる  
空港阻止の むしろ旗  
ものみのやぐら がっしりと  
麦の刃も 空をさす  
公団無用 ひとすじに  
われらが仲間 強くあれ

- 三 老松うたう 下総の  
平和の民の よるところ  
風さわやかに 土豊か  
自主農民の意気高く  
開拓魂 ゆるぎなし  
われらがふるさと  
永遠(とわ)にあれ

の連帯」を理由とする統制処分組織破壊攻撃が、反革命革マルII松崎一派による戦闘的な労働運動と労働連帯の破壊であることを如実に示している。彼らは「組合統制」に違反しているなどというデッチ上げによる形式論で、動労千葉への統制処分を強行しようとしている。しかし、それ自体、三里塚闘争や三里塚反対同盟が「腐敗している」とか「権力に利用されている」とかという聞くにたえないデマゴギーを前提としているのである。むきだしの反革命的意図に満ちているものでしかないのである。

永井 満	渡辺喜美江	鷺田正平	粟井太郎	平安常次	平良良昭
馬場英治	北小路敏	丸山照雄	花柳幻舟	針生一郎	小西武夫
菅原克己	中山重夫	ヨシダヨシエ	小川むつ	葉山岳夫	古波津英興
新里金福	徳永五郎	川田泰代	柘植秀臣	石田郁夫	山口恵美子
佐藤弘毅	長島光三郎	国枝夏夫	弥永健一	小西 誠	小西のぶ子
小田原紀夫	長谷川英憲	加瀬包男	井之川巨	石橋政次	石井 武
内田寛一	熱田 一	長谷川たけ	小川 源	寺内金一	武谷三男
色川大吉	国分一太郎	木下半治	山口武秀	土方 鉄	村田 拓
野田真吉	野添憲治	黒田喜夫	生越 忠	宮川寅雄	西 順蔵
長須祥行	砂田 弘	中村敦夫	谷川茂二	石田宥全	なかざわしんきち
遠藤 誠	市村玖一	北川省一	坂田静子	岩渕 浩	山崎 謙
大日向勇	伊藤成彦	池田博俊	柳田邦夫	斉藤重臣	平良 修
佐々木悟史	陶山義雄	佐藤哲男	朝日奈尚行	阿部宗悦	関沢 紀
前田俊彦	桑原重夫	田坂暁人	春本幸子	佐藤光政	横井安友
井上千恵子	原 伊市	寺沢迪雄	山本善偉	穂積七郎	